

平成27年度

柏市学力・学習状況調査結果報告書

『学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む』

平成27年8月

柏市教育委員会

子供たち同士の学びを作るのは教師の授業発想力

柏市教育委員会
教育長 河原 健

柏市が独自に実施する学力学習状況調査は、本年度で4回目となりました。

4回の調査結果の分析では、平均正答率を基準に、学力状況について「概ね良好」「課題がある」等の評価をして参りました。

4回目の今回は、平均正答率から一人一人の子供たちの学びの道筋に目を向けた分析が必要です。たとえ平均値が高くても、学んだことが定着していない子供が必ずいます。このことをどう捉えるかが、学力状況調査を実施している要になります。

学んだことが定着していない子供がいるということは、授業でつまずいてわからなかった子がいたということです。つまずいてしまった子供に個別指導をして、理解を定着させることは重要ですが、それと同時に、二度とつまずきが発生しない授業に変えていくことが重要な責務です。むしろここに着手しないと、学力状況調査を行っている価値は無いと言えます。

私も柏市全体の4回の調査結果を俯瞰して見ました。同じ学年で毎年同じ学習内容でつまずきが発生している様子が、データにはっきりと見えました。そしてつまずきの解消には、子供たちの体験を通した学びが必要だと感じました。体験のある学びは、子供の意欲を喚起します。学びに向かう意欲こそが、つまずきの無い授業につながるのだと考えます。この報告書に記される授業改善策を一助に、各校の子供の実態に合わせ、意欲を喚起する授業に向けてアイデアを出し合い、魅力ある授業が学校に溢れることを願います。

今回の学習状況調査から、柏市が全ての子供たちに身につけさせる力として掲げる「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を数値化し、授業改善の全校共通指標とする取り組みを始めました。意欲と習慣を身につけるための、4つの力（4つのC）を設定し、質問紙調査でその状況を見える化しました。見通す力（Concept）・挑戦する力（Challenge）・関わり合う力（Communication）・自律する力（Control）をバランス良く身につけることが、解の無い課題に向かい、目の前の課題をより良く解決しながら、21世紀を生き抜く力につながると考えています。

この4つの力は、年に数回の行事ではなく、毎日の授業を通して子供たちに身につけさせなければならないと考えています。4つの力を意識する授業は、前に述べたつまずきの無い授業づくりの条件になると考えています。

4つのCに見える強みと弱みを、毎日の授業改善に生かし、子供たちの学びが変わり、つまずきが無くなることを切に望むところです。

平成27年度 柏市学力・学習状況調査結果報告書 目次

◆教育長巻頭言 「課題解決力を育む授業改善を」	1
■柏市学力・学習状況調査概要及び結果について	2
□柏市学力学習状況調査内容について	
□学力状況結果一覧	
□過去4年間の学力状況の推移一覧	
■学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む4つのCについて	7
■小学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	12
■小学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	14
■小学校【第4学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	16
■小学校【第5学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	18
■小学校【第6学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	20
■中学校【第1学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	22
■中学校【第2学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	24
■中学校【第3学年国語】学力状況調査結果及び指導改善案	26
■小学校【第6学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	28
■中学校【第1学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	30
■中学校【第2学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	32
■中学校【第3学年社会】学力状況調査結果及び指導改善案	34
■小学校【第2学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	36
■小学校【第3学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	38
■小学校【第4学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	40
■小学校【第5学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	42
■小学校【第6学年算数】学力状況調査結果及び指導改善案	44
■中学校【第1学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	46
■中学校【第2学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	48
■中学校【第3学年数学】学力状況調査結果及び指導改善案	50
■小学校【第6学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	52
■中学校【第1学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	54
■中学校【第2学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	56
■中学校【第3学年理科】学力状況調査結果及び指導改善案	58
■中学校【第2学年英語】学力状況調査結果及び指導改善案	60
■中学校【第3学年英語】学力状況調査結果及び指導改善案	62
■生活・学習意識調査結果及び学力との関連について	
□ICT活用に関する意識と課題	64
□学校図書館の活用は児童生徒の21世紀型学力を育む	66
■分析用エクセルシートの使用方法	68

柏市学力・学習状況調査の概要及び結果について

実施日 平成27年4月（各学校が設定した日）

実施校 柏市内小中学校（小学校 42校 中学校 20校）

実施学年及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校	2年	3,445人	2年から6年国語及び算数（2教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート） 6年は、社会及び理科を加えた4教科
	3年	3,413人	
	4年	3,535人	
	5年	3,526人	
	6年	3,546人	
中学校	1年	3,320人	国語、数学、社会、理科（4教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	2年	3,193人	国語、数学、社会、理科、英語（5教科） 生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）
	3年	3,182人	生活・学習意識調査（柏市独自アンケート）

柏市学力・学習状況調査内容について

【学力調査事項】

- ・児童生徒の前年度の履修内容を調査。
- ・出題内容は、学習指導要領の評価の観点に基づいて出題。
- ・基礎問題と活用問題で構成されており、活用問題は「思考力・判断力」「表現力」を問う問題で出題。
- ・国語と英語は全学年で聞き取り問題と作文を出題。
- ・記述論述問題を一定量（35～50%）出題し、作図や作文の問題、論理的思考力や考えるプロセスを考慮した問題を出題。

【生活・学習意識調査事項】

- ・学習意欲、学習習慣、生活習慣、学校図書館やICTの活用等に関するアンケート調査。
小2（一部小4）から中3まで、同一設問で調査。調査項目のうち40項目は、学ぶ意欲と習慣を図る指標として数値化する。

【学力調査分析内容について】

学年・教科別に正答状況を数値で示す。

まず、当該学年教科について、全国の平均正答率と本市の平均正答率を比較し、レーダーチャート図に整理したもので全体傾向を把握できるようにした。

次に、経年変化として、本年度の当該学年教科の平均正答率と、同一児童生徒の1年前のものとの比較、前年度同学年の児童生徒のものとの比較を、レーダーチャート図にまとめております。子供たち自身の成長を把握すると同時に、前年度の子供たちとの比較をし、経年変化を2側面から分析した。

調査結果から把握できる、子供たちの良さ（強み）と課題を示し、良さを伸ばしつつ、課題を克服していくための授業改善について、改善の方向性や具体的指導例を示した。

【生活・学習意識調査について】

学ぶ意欲，学校図書館活用，ICT活用の度合いと，学習状況との比較を行い，よりよい授業改善に資する内容を記載した。

柏市学力状況結果一覧

【目標値とは、問題作成時に十分に学力が備わっている状況として設定され、統計的に処理されている期待値】

小学校	評価欄説明 ≡ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	国語					算数				
		全体	基礎	活用	思考判断	表現	全体	基礎	活用	思考判断	表現
2年	柏市平均正答率	80.9	86.3	55.2	54.1	56.2	84.0	89.2	64.0	64.1	63.0
	全国平均正答率	80.6	85.9	55.9	54.8	57.0	84.5	89.7	64.4	64.7	62.2
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△	≡	≡	△
3年	柏市平均正答率	79.2	82.1	67.7	72.4	60.7	76.9	80.6	57.6	62.2	48.5
	全国平均正答率	78.9	81.9	66.7	71.6	59.4	76.9	80.6	57.6	62.2	48.5
	評価	≡	≡	△	△	≡	≡	△	≡	△	≡
4年	柏市平均正答率	70.2	75.0	48.3	49.3	46.8	72.9	79.0	49.3	51.0	44.3
	全国平均正答率	70.9	75.5	49.6	51.5	46.6	73.9	80.0	50.4	52.5	44.3
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	△	△	△	△	△
5年	柏市平均正答率	74.7	78.5	56.3	61.9	47.8	69.3	71.9	55.5	54.8	56.7
	全国平均正答率	73.9	77.3	57.7	62.6	50.2	70.1	72.8	55.6	56.2	54.5
	評価	△	△	≡	≡	≡	△	△	△	≡	△
6年	柏市平均正答率	72.6	77.3	49.9	54.6	43.0	66.9	72.1	44.2	51.9	25.0
	全国平均正答率	74.0	78.5	52.3	56.0	46.8	68.9	73.8	47.3	54.9	28.3
	評価	△	△	≡	≡	≡	△	△	△	≡	△
小学校	評価欄説明 ≡ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	社会					理科				
		全体	基礎	活用	思考判断	表現	全体	基礎	活用	思考判断	表現
6年	柏市平均正答率	69.3	72.6	51.4	53.5	48.2	70.0	73.3	58.1	51.3	75.2
	全国平均正答率	71.0	74.2	53.8	55.2	51.8	70.6	73.0	62.3	55.7	79.0
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	△
中学校	評価欄説明 ≡ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	国語					社会				
		全体	基礎	活用	思考判断	表現	全体	基礎	活用	思考判断	表現
1年	柏市平均正答率	67.7	71.3	55.9	62.0	40.8	60.1	63.6	43.6	48.7	18.4
	全国平均正答率	68.5	72.6	55.2	62.1	37.9	60.4	64.0	43.7	48.3	21.1
	評価	≡	≡	≡	≡	≡	≡	≡	▼	▼	▼
2年	柏市平均正答率	67.5	68.8	62.8	65.5	56.1	51.9	54.1	40.5	31.6	54.2

	全国 平均正答率	71.7	73.9	63.8	67.2	55.2	53.8	55.9	42.6	33.4	56.5
	評価	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	△
3年	柏市平均正答率	66.7	70.1	54.4	46.2	74.8	52.0	54.8	37.3	34.8	41.1
	全国 平均正答率	67.6	71.2	54.1	45.6	75.2	56.4	59.0	42.8	39.7	47.5
	評価	≒	≒	≒	≒	△	≒	≒	≒	▼	≒

中学校	評価欄説明 ≒ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	数学					理科				
		全体	基礎	活用	思考判断	表現	全体	基礎	活用	思考判断	表現
1年	柏市平均正答率	67.4	67.6	66.1	76.9	44.6	65.2	68.9	47.9	53.6	36.4
	全国 平均正答率	68.4	68.7	66.6	76.5	46.7	64.3	68.6	44.3	47.5	37.9
	評価	≒	≒	≒	△	≒	≒	≒	≒	△	▼
2年	柏市平均正答率	58.8	62.7	44.0	48.8	29.6	52.9	57.2	38.0	40.0	32.0
	全国 平均正答率	59.5	63.7	43.6	48.4	29.2	55.8	60.0	41.3	42.1	38.8
	評価	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	▼
3年	柏市平均正答率	56.6	60.3	37.5	37.1	38.1	55.3	59.1	43.4	45.0	40.1
	全国 平均正答率	56.0	59.4	38.5	41.1	33.2	54.5	58.3	42.6	44.0	39.9
	評価	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒

中学校	評価欄説明 ≒ 目標値同等の学力 △ 目標値以上の学力 ▼ 目標値に達せず課題あり	英語				
		全体	基礎	活用	思考判断	表現
1年	柏市平均正答率	履修前のため実施無し				
	全国 平均正答率					
	評価					
2年	柏市平均正答率	60.5	64.7	49.9	63.0	41.2
	全国 平均正答率	58.8	63.8	46.2	62.6	35.4
	評価	≒	≒	△	≒	△
3年	柏市平均正答率	61.1	66.3	48.2	60.9	39.7
	全国 平均正答率	58.1	64.3	42.7	56.7	33.4
	評価	≒	≒	△	△	≒

柏市平均正答率は、全国の正答率とほぼ同程度であり、全体的にはやや上回る傾向である。この傾向は、過去3年間同様の結果を得ているが、今年度は具体的に平均正答率を数値として示した。今後数値目標として、小学校平均正答率 75、中学校では平均正答率 65 を掲げ、各学校におけるきめ細やかな指導の充実を図りたい。

中学校社会科，理科において，全国平均を下回る結果を得ている。このことは，小学校からの指導の積み重ねにも課題があると捉え，小中が連携して結果の分析や指導改善策の検討を行って欲しい。

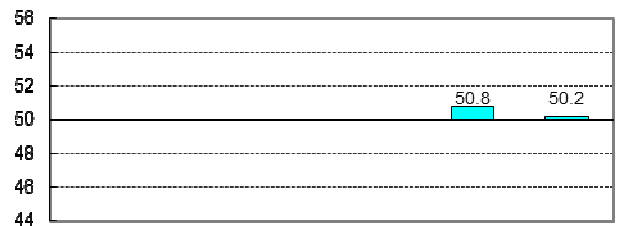
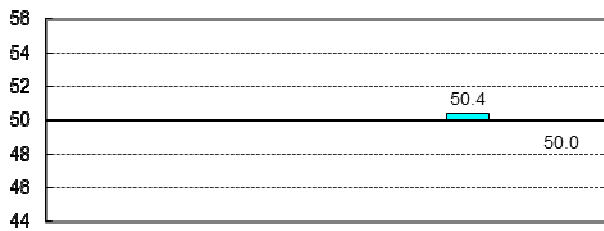
各学校に返送されている結果は，校内ではもちろん，中学校区の学校と共有し，中学校区として子供をどう育てるかという議論に使い，授業改善につながることを期待する。

過去4年間の学力状況の推移一覧

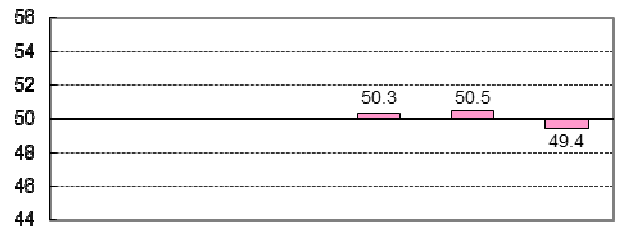
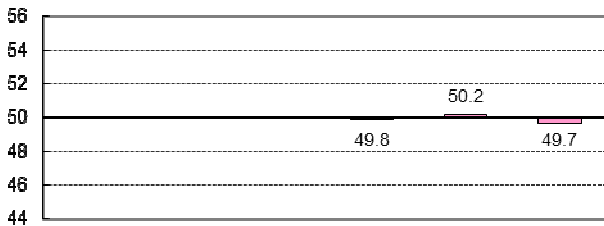
過去4年間の児童生徒の変化を標準化得点によりグラフ化したものを示す。

【中央の線が標準スコアとなり，良い場合は上向き，劣る場合は下向きに表示】

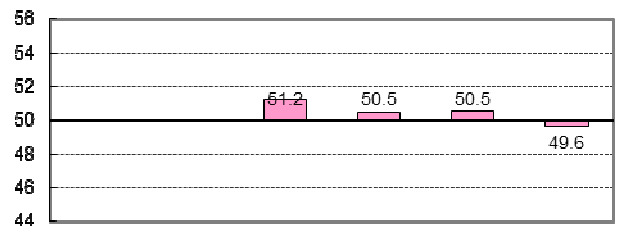
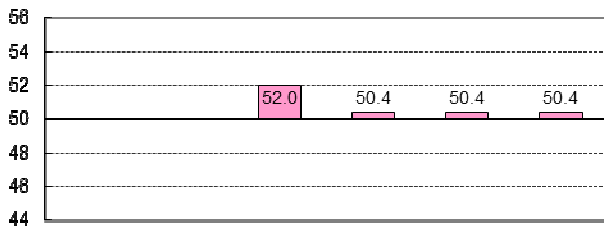
現3年生 国語（左）と算数（右）



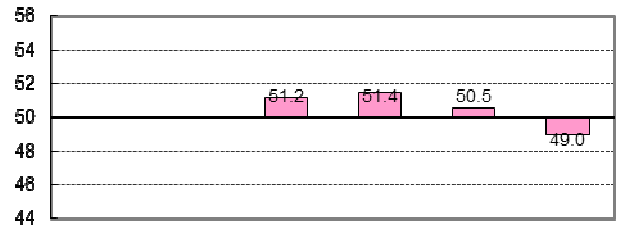
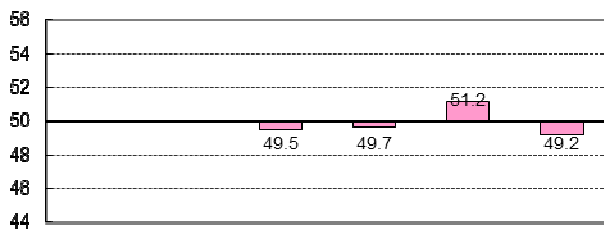
現4年生 国語（左）と算数（右）



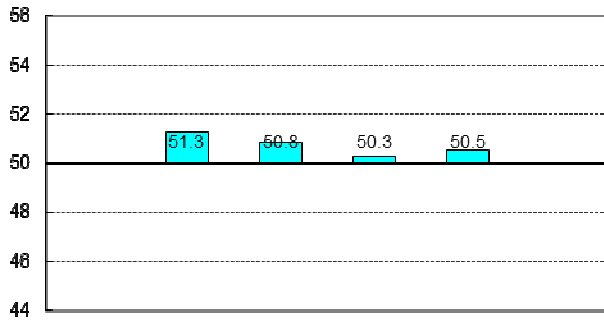
現5年生 国語（左）と算数（右）



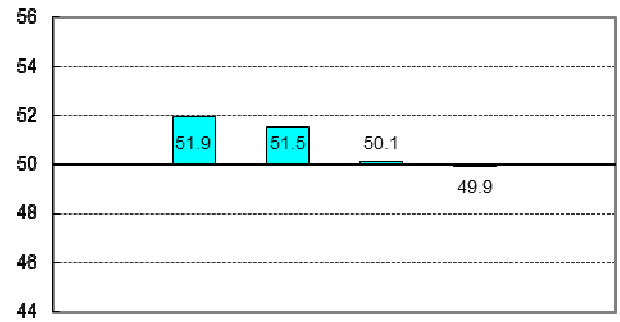
現6年生 国語（左）と算数（右）



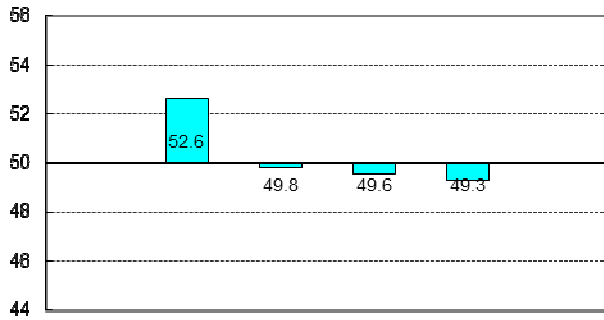
現中 1 年生 国語



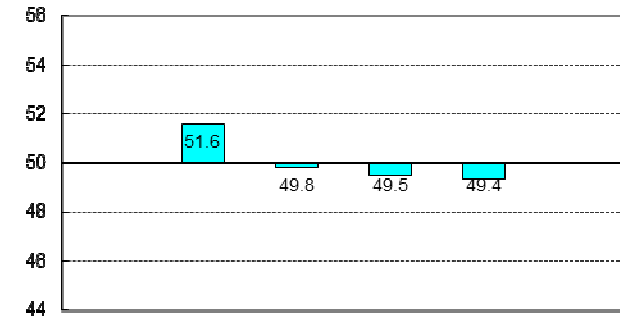
数学



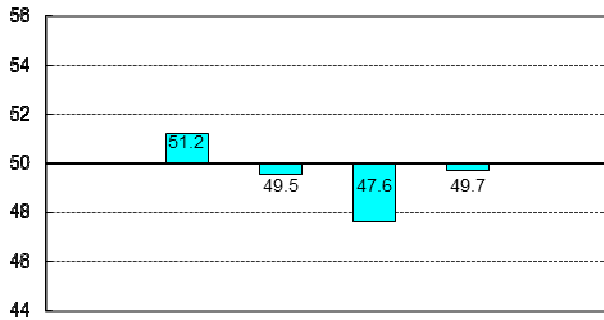
現中 2 年生 国語



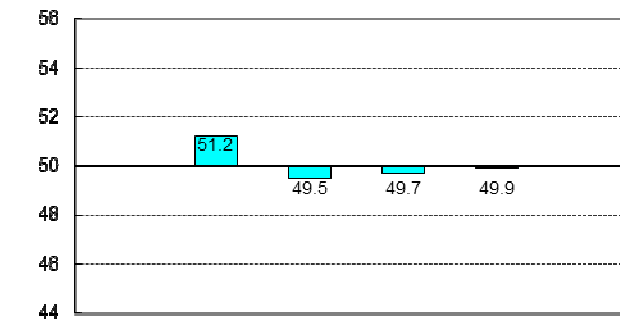
数学



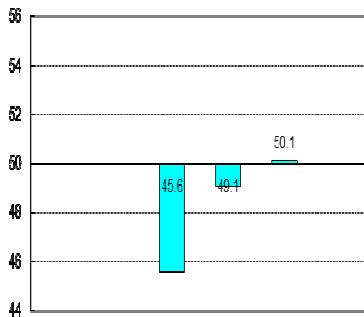
現中 3 年生 国語



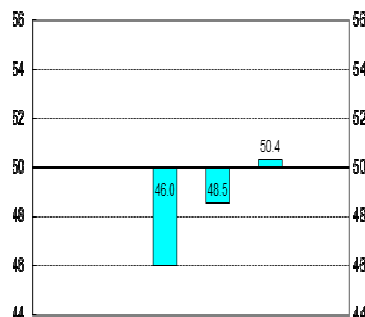
数学



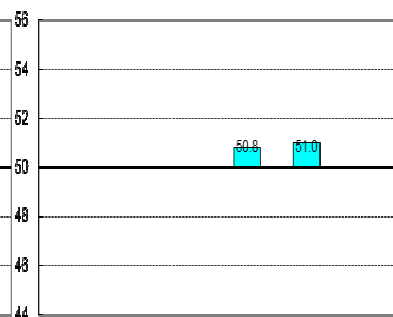
社会



理科



英語



同一集団の児童生徒の状況を4年間追うと、経年により力が落ちていく傾向が見られる。このことの危機感を全教職員で共有し、学年間・学校間の指導の接続を意識し、意欲を持って学べるよう、授業改善を強く押し進める必要がある。

学ぶ意欲と学ぶ習慣を見える化する「4つのC」について

柏市教育委員会では、児童生徒の学力向上において、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけることが最重要課題であるとしている。

なぜ、意欲と習慣に焦点を当てているのか。

児童生徒が大人として活躍する21世紀中盤から後半の社会は、知識基盤社会と言われ、“正解と言われる解”の無い課題に対して、他者と協力し合いながら最善を尽くし、新たなものを創造する力が求められている。知識を利用しながら定型的な処理をする仕事は、第四の産業革命と言われるロボットの台頭により無くなるだろうと言われ、数多くの仕事が消えて無くなる仕事リストに掲げられ、今の小学生の65%は、現在存在しない職業に就くだろうとも言われている。

このような近未来社会へ向けて「学力」を育む時、「学力」を「学んだ結果」として捉えるのではなく、「学ぶ力」として捉えることが、21世紀を生き抜く為の「学力」の実態に即していると考えられる。そして、この学ぶ力の根底となるものが学ぶ意欲と学ぶ習慣である。

ここに示す4つの力「見通す力（Concept）」「挑戦する力（Challenge）」「関わり合う力（Communication）」「自律する力（Control）」は、変化の激しい時代を生き抜く柏市の児童生徒に身に付けて欲しい力である。即ち「4つのC」＝学ぶ力であり、それは困難に直面したとき乗り越える為に学ぼうとする力であり、生涯学び続ける力である。我々は、日々の学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む教育活動の中で児童生徒の学ぶ力が培われていくものと考えている。

本年度学習状況調査では、児童生徒一人一人の「4つのC」の定着状況を数値化できるよう、全学年共通で40の質問項目を設定した。この数値が62校共通の指標となり、児童生徒の学ぶ力が全校で共有化され、授業改善を図る為の指標となることを目指すものである。

学ぶ意欲と学ぶ習慣を支える4つの力（4つのC）はこう決まった

平成25年度第2回調査結果から、学校が好き、国語や算数が好きと回答する児童生徒の方が正答率が高く、学ぶ意欲と正答率の相関関係が認められた。さらに、好きと回答する割合は、小学校高学年から急激に低下し、その低下と正答率の低下にも相関が認められ、学ぶ意欲を持続することが課題であると認識された。

さらに、学ぶ習慣の指標とされる家庭学習時間30分以内と回答する児童生徒が、小学校4年生で50%存在するが、中学校3年でも40.6%存在するという事実を把握し、学ぶ習慣を身につけることの重要性も認識された。

平成26年度第3回調査結果を元に、児童生徒の学ぶ意欲と学ぶ習慣の状況について分析を行った。分析の結果から、中学校区単位で取り組んだり、学校全体の授業改善を通して取り組んだり、組織的に授業における指導改善を行った学校で、一定の効果が見られることがわかった。

このことから、意欲と習慣に関する指標を明確に設定し、校内や中学校区において共通目標を持って取り組めるようにすることが重要であることがわかった。そこで、これからの子供たちに必要な力を、学校管理職・学校教職員・市役所事務系職員・指導主事・管理主事等総勢50名近くにより、複数回のブレインストーミングを通して抽出されたキーワードが、「見通す力」「挑戦する力」「関わり合う力」「自律する力」の4つの力である。

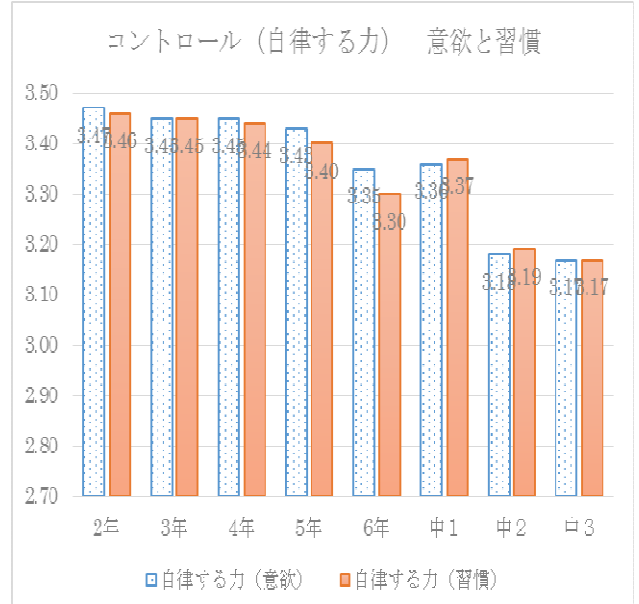
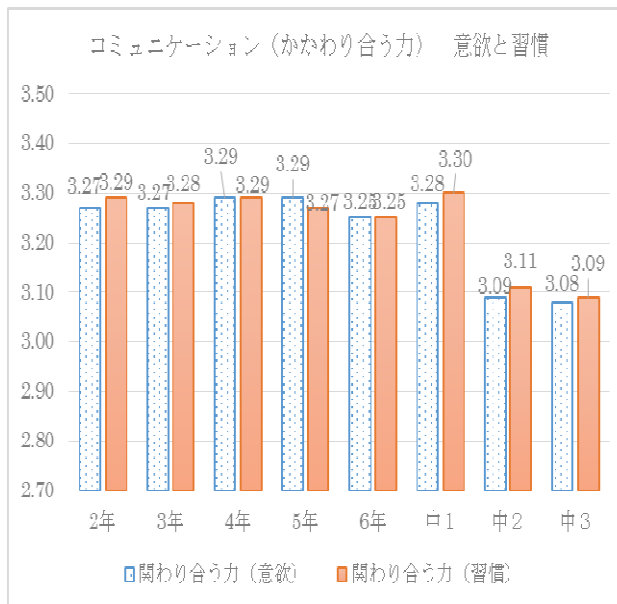
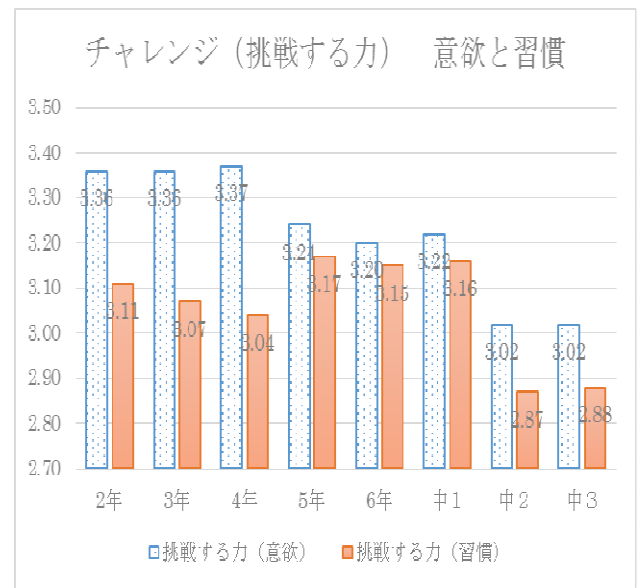
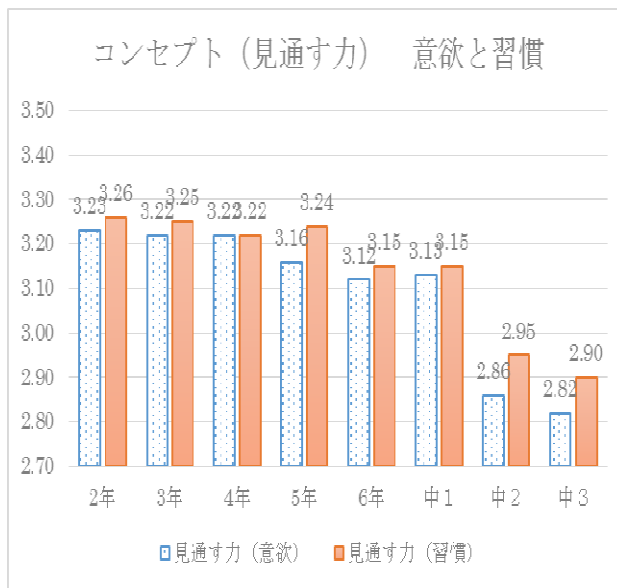
当初、「挑戦する力」と「関わり合う力」の2つを意欲、「見通す力」と「自律する力」の2つを習慣とする考えもあったが、4つの力それぞれに、意欲的に取り組むことと、習慣化することの両面があるとの結論に至り、4つの力ごとに「意欲」に関する質問項目と「習慣」に関する質問項目を5項目ずつ設定して、計40項目を評価指標とした。

4つの力（4つのC）質問項目一覧

4つのC	見出し	番号	小学校2～4年生用	小学5年生～中学校1年生用	中学校2・3年生用		
コンセプト	意欲	夢・目標	1	しょうらいのゆめはありますか。	将来の夢や目標を持っていますか。	将来の夢や目標を持っていますか。	
		計画	4	きまった時間にしゅくだいをして していますか。	ものごとに取り組む時、計画を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、計画を立てて取 り組んでいますか。	
		計画の見直し	5	やろうとしたことがうまくいかなかったと き、べつのやりかたをかながえますか。	ものごとが計画的に進まない時、計 画の見直しをしていますか。	物事が計画的に進まない時、計画の 見直しをしていますか。	
		地域社会への関心	28	テレビのニュースを見ています か。	地域・社会で起こっているできごとやニ ュースに関心がありますか。	地域・社会で起こっているできごと やニュースに関心がありますか。	
		地域社会への貢献	27	学校でべんきょうしたことを、だれかのため にやくだてたいとおもいますか。	学校で学んだことを、地域や社会のため に役立てたいと思いますか。	学校で学んだことを、地域や社会の ために役立てたいと思いますか。	
	見通す力	習慣	学習のめあて	6	めあてをかながえながらべんき ょうをしていますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。	めあてや学習課題を意識して授業 に参加していますか。
			予想	7	もんだいをとくときに、よそうを たてていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。	課題に対して予想を立てて勉強し ていますか。
			本・ICT活用	8	本でしらべることが好きですか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。	課題を解決するために、本やコンピ ュータなどを活用していますか。
			学習方法（関わり）	15	わからないことがあったとき、人に聞いたり じぶんでしらべたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。	わからないことがあった時、人に聞いたり 自分で調べたりしていますか。
			学習の振り返り	20	じゅぎょうのおわりに、まとめや ふりかえりをしていますか。	ものごとに取り組んだ時、まとめや 振り返りをしていますか。	物事に取り組んだ時、まとめや振り 返しをしていますか。
チャレンジ	意欲	学習の目標	3	ことしのもくひょうはありませ んか。	ものごとに取り組む時、目標を立て て取り組んでいますか。	物事に取り組む時、目標を立てて取 り組んでいますか。	
		発見する喜び	25	べんきょうをして、あたらしいこ とを知ることはいはれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはいはれしいですか。	学習して新しいことを知ったり、身につ けたりすることはいはれしいですか。	
		困難さへの挑戦	36	むずかしいことでもちようせん していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。	難しいことでも、失敗をおそれない で挑戦していますか。	
		粘り強さ	37	こまったときに、あきらめずにいろ いろなやり方をかながえていますか。	困難に直面しても、あきらめずにいろ いろな方法を考えていますか。	困難に直面しても、あきらめずにい ろいろな方法を考えていますか。	
		承認経験	41	友だちからほめられてうれし かったことはありますか。	友だちから認められてうれし かったことはありますか。	友だちから認められてうれし かったことはありますか。	
挑戦する力	習慣	夢・目標への努力	2	そのゆめにむかってがんば っていますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。	将来の夢や目標に近づくために努 力していますか。	
		ノートの工夫	16	ていねいにノートを書いていま すか。	ノートの取り方について、自分なり の工夫をしていますか。	ノートの取り方について、自分なり の工夫をしていますか。	
		間違いの見直し	22	テストでまちがえた問だけは、あ とでやりなおしていますか。	テストでまちがえた問題は、後でや り直していますか。	テストでまちがえた問題は、後でや り直していますか。	
		学びの活用	26	学校でべんきょうしたことを、い えでの生活に生かそうとしていますか。	学校で学んだことを、普通の生活に 生かそうと考えていますか。	学校で学んだことを、普通の生活に 生かそうと考えていますか。	
		読書習慣	23	すすんで本を読んでいますか。	進んで本を読んでいますか。	進んで本を読んでいますか。	

コミュニケーション 関わり 合う 力	意欲	地域行事への参加	29	ちいきのぎょうじ（おまつりなど）やボランティアかつどうにさんかしていますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。	地域の行事やボランティア活動に参加しようと思いますか。
		思いやり（意欲）	38	人の気持ちがわかる人になりたいと思いますか。	人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。	人の気持ちがわかる人間になりたいと思いますか。
		傾聴（意欲）	17	話し合いをする時、友だちの話をしっかりと聞いていますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。	話し合いをする時、相手の考えをしっかりと聞きたいと思いますか。
		あいさつ	30	じぶんから先にあいさつしていますか。	自分から先にあいさつするところをこころがけていますか。	自分から先にあいさつするところをこころがけていますか。
		積極的な発言	18	話し合いをする時、じぶんの思ったことやかんがえたことをすすんで話していますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。	話し合いをする時、自分の意見を積極的に発言しようと思いますか。
	習慣	家庭での会話	31	いえの人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。	家の人と学校のできごとについて話をしていますか。
		傾聴（習慣）	44	先生や友だちのはなしをよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。	先生や友だちの話をよく聞いていますか。
		思いやり（習慣）	45	学校で、友だちの気持ちを考えてこうどうしていますか。	普通の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。	普通の生活の中で、相手の立場を考えて行動していますか。
		仲間づくり	46	友だちになりたいとおもった時、じぶんから声をかけていますか。	友だちになりたいと思った時、自分から声をかけていますか。	友達になりたいと思った時、自分から声をかけていますか。
		意思表示	49	先生や友だちにいいたいことをうまくはなすことはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。	先生や友だちに伝えたいことをうまく伝えることはできますか。
コントロール 自律する 力	意欲	貢献意欲	39	しょうらい人のやくに立つ人になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	人の役に立つ人間になりたいと思いますか。
		自己肯定感	40	じぶんによいところがあるとおもいますか。	自分に良いところがあると思いますか。	自分に良いところがあると思いますか。
		授業への集中	19	じゅぎょうにしゅう中していますか。	集中して授業に取り組んでいますか。	集中して授業に取り組んでいますか。
		がんばっていること	51	学校生活でがんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。	学校生活で打ち込めるもの、がんばっていることはありますか。
		運動への意欲	52	体をうごかすこと（うんどう・スポーツ・外あそびなど）はすきですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。	体を動かすこと（運動・スポーツ・外遊びなど）は好きですか。
	習慣	規範意識	42	学校のきまりをまもっていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。	学校の規則やクラスで決めたことを守っていますか。
		家庭学習	21	しゅくだいをきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。	宿題や課題をきちんとやっていますか。
		素直さ	50	じぶんがわるかったとおもうときは、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。	自分が悪かったと思う時は、すなおにあやまっていますか。
		運動習慣	53	体いくのじゅぎょういがいに、すすんで体をうごかしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。	体育の授業以外に、積極的に体を動かしていますか。
		規則正しい生活	54	まい日おなじくらのじかんにねて、あさはじぶんでおきていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。	毎日同じくらの時刻に寝て、朝は自分で起きていますか。

4つの力（4つのC）の状況について



柏市全体の4つのCについて、グラフに示す。どの項目も中学校に入ると極端に低下することが見とれる。その中で、コミュニケーション力とコントロール力については、意欲面・習慣面共に比較的好意的回答が多い、一方、コンセプト（見通す力）やチャレンジする力については、意欲と習慣のバランスが整わず、力の認識も低いことが伺われる。

指標の到達目標値を当面のところ3.2と設定しているが、今後統計分析を加え、到達目標値については検討を重ねていく。本年度は3.2を目標値として、3.2を基準としてデータを見ると、3.2を超えている項目でも、5項目全てが3.2以上になっておらず、細項目毎の状況を見極め、日常的な教育活動における指導改善に生かせるようにしたい。

全校・全学級に対して同じ内容で質問を行っている。今後、指導改善を行っていくにつれ、改善の手立てが有効に機能したものについては、共有化を図っていきたい。

4つの力（4つのC）を活用する授業改善について

（1）効果的な実践を共有する

「学ぶ意欲と学ぶ習慣」を見える化する「4つのC」の改善に取り組むことは、結果として子供たちに学ぶ力を育成することとなり、柏市が目指す学力の育成に繋がると考えている。

4つのCに関する質問は、小学校2年生から中学校3年生まで共通内容で実施した。（文言は年齢相応に変更）

これは、課題を共有化し、効果のある実践を共有化することにつながるよう意図して行っていることである。各学校・各学級の課題解決に向けた取り組みが、オール柏の実践に反映していけることを理想に掲げ、お互いの実践交流が頻繁に行われることを期待している。

（2）指標を生かした授業改善マネジメントを進める

課題とは、目指す姿と現状との差のことを指す。

自校の課題を明確にするために、4つのCの指標を活用し、目指す子供の姿と現状を把握した上で取り組めるよう、次のような手立てを講じるよう努めたい。

① 子供たちの今の姿（現状）を共有する

学習状況調査の4つのCのデータから、課題は何か、自校の強みと弱み等を分析し全職員（事務やサポート・図書館・理科等の人材も含むと良い）で共有化を図る。

② 目指す子供の姿の共有化

課題（現状と目指す姿との差）が明確になったら、全職員によるワークショップ型研修により、自校の子供たちに付けたい力を出し合い、共通理解を深めながら最も力を入れて取り組む内容（指標の質問項目）を1～3点程度に定め、全職員で共有する。

③ 課題解決に向けた実践の手立てを共有する

最も力を入れて取り組む内容（指標の質問項目）が定まったら、この力を育むために授業の中で何に留意し、どう取り組むか（教科・学年ごとに）の方針を立て実践する。また、学校生活や学校行事の中でどう取り組むかを共通理解する。これらの取組の中で効果的な手立てがあれば実践の共有化を図る。

④ 子供たちの姿を見取りながら実践を深める

柏市学力学習状況調査は年1回であるが、学ぶ意欲と習慣を育む為の日々の実践が重要である。課題に偏ることなく、指標となる項目をもとに、子供たちの意識の変化や指導の効果を検証し、子供たちの現状を見取りながら実践を進めることが大事である。授業改善が子供たちの学ぶ力の育成に繋がった時、成就感や達成感とともに、組織としての一体感を得ることができる。

（3）家庭や地域との連携に生かす

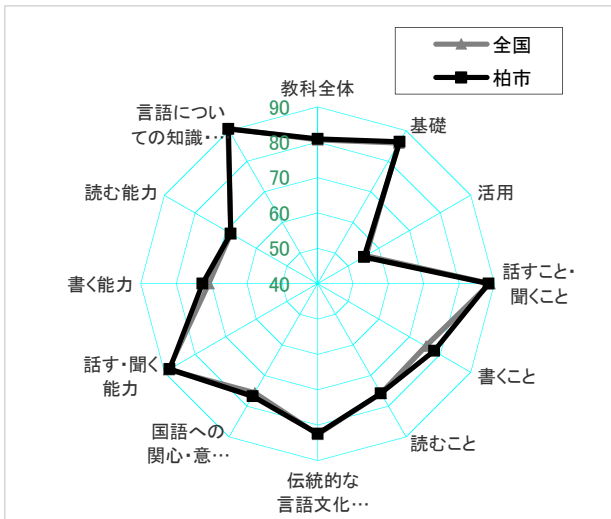
指標から自校の課題を明確にして、全職員で共通実践を行うと同時に、家庭や地域の協力が必要な項目について1～2点程度選び、家庭や地域に具体的に協力を依頼することも大事である。教育ミニ集会等のテーマとして、全職員で行ったようなワークショップを実施して、参加者みんな決めて、参加者みんなで活動することにより、マネジメントサイクルを生かした取組が実施できる。

（4）強みを生かし、重点的に取り組む

学校教育目標に照らし、4つのCに現れる子供たちの実態の中から、強み（得点が高いもの）を生かしながら、弱みを引き上げる工夫を図り、課題となっているもの全てに取り組むといった、総花的な取り組みにならないよう留意したい。

小学 2年 国語

1. 全体傾向

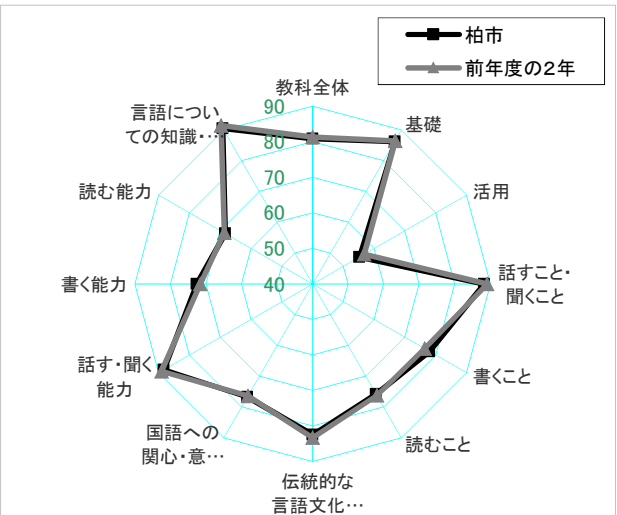
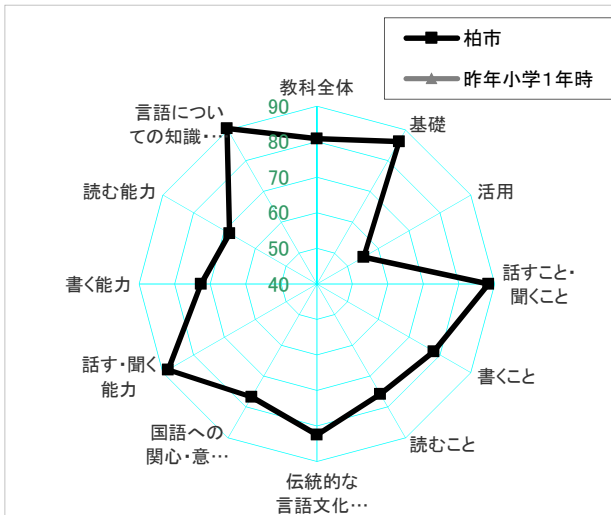


全国平均とほぼ同等の結果である。

領域別に見ると、「書くこと」及び「書く能力」については、全国の平均正答率と比べて2.7ポイント程度上回り、書く力が高い傾向があることがわかる。

問題別の正答率では、9項目、全国正答率より下回っている。特に、「話題に沿った質問をする」設問と「時間的な順序、事柄の順序を考えながら、場面の様子を読み取る」設問について、2.5ポイント以上低くなっている。

2. 経年変化



・第1学年未実施

前年度の2年生の傾向とほぼ一致している。問題別正答率は、15項目において昨年度を下回っている。「漢字の読み書き」「言葉の学習」の誤答率が若干高くなっていることから、基礎・基本を定着させることが大切であると言える。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○平均正答率が80.9ポイントであることから、今回出題された学習内容については、概ね身につけていると考えられる。また、「自分の考えが明確になるように文を書くことができる」が昨年度と比較し、6ポイント以上上昇しており、全国の平均正答率と比べても高いことから、現小学2年生の強みと言える。

●「漢字の読み書き」「言葉の学習」及び「読む」領域が、やや弱みである。

したがって、次の点に留意して授業を改善していくことが望ましいと考える。

- (1)1年生から言葉遊びを通して語彙を増やす取り組みを積極的に行う。
- (2)物語を読み取る、発達段階に応じた基本構造の理解とその指導を行う。
- (3)声に出して正しく読む音読指導を継続する。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

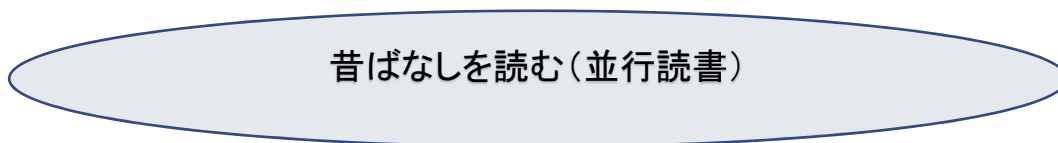
昔話の世界を楽しもう

—— お気に入りの『〇〇たろう』を1年生に朗読しよう ——

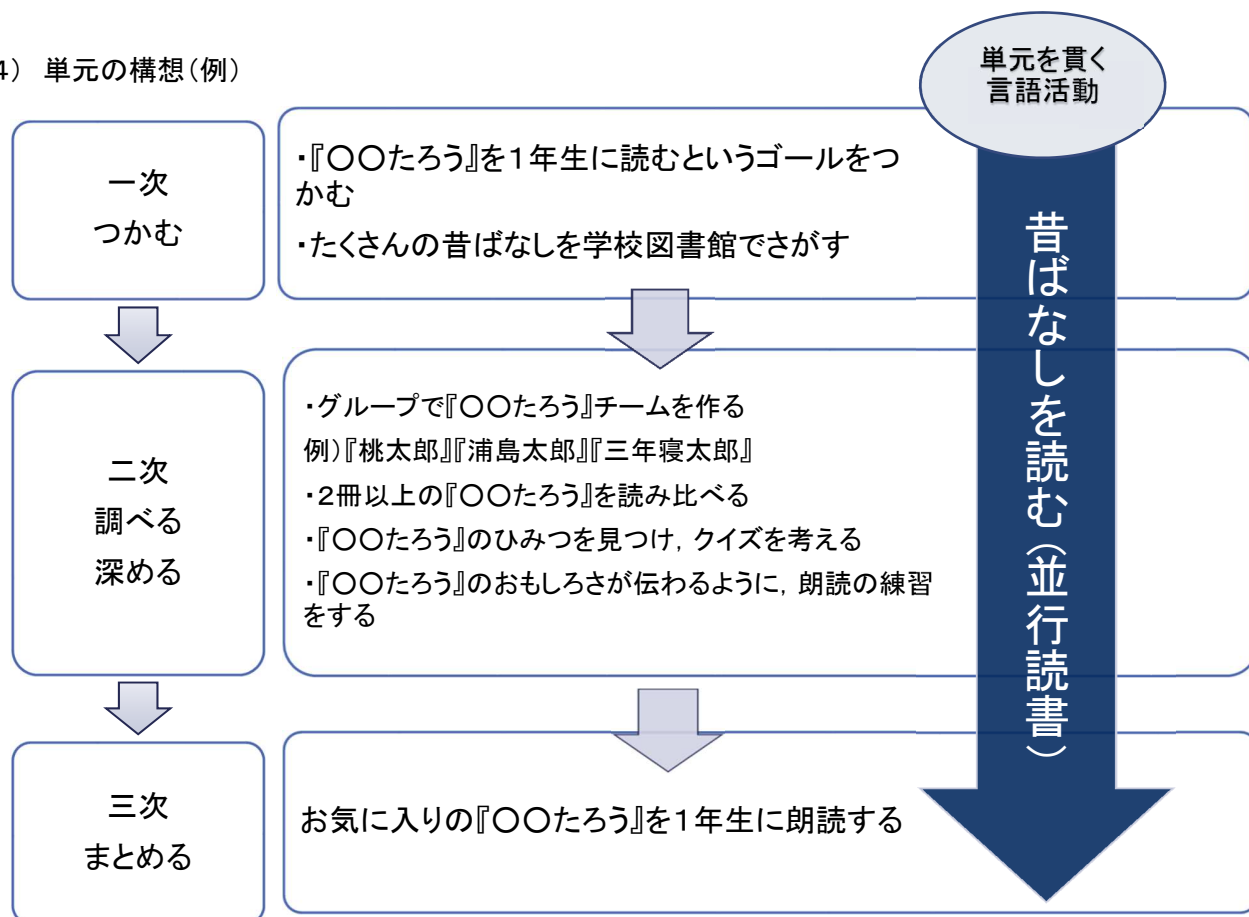
(2) つけたい力

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり, 想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに, 楽しんで読書しようとする態度を育てる。(C 読むこと)

(3) 単元を貫く言語活動



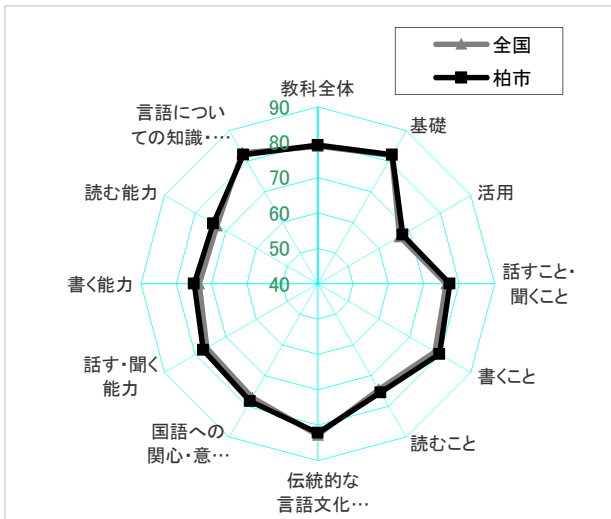
(4) 単元の構想(例)



指導のポイント！ 低学年の児童は、「お気に入り」や「ひみつ見つけ」が大好きです。「1年生を楽しませたい」という目的をしっかり持たせれば、2年生自身も豊富な言語活動を楽しむことができるでしょう。昔ばなしの本を探すときは、学校図書館指導員に支援を頼みましょう。

小学 3年 国語

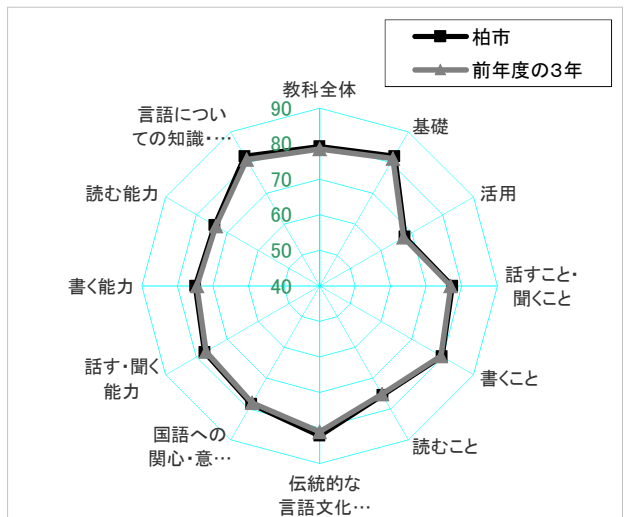
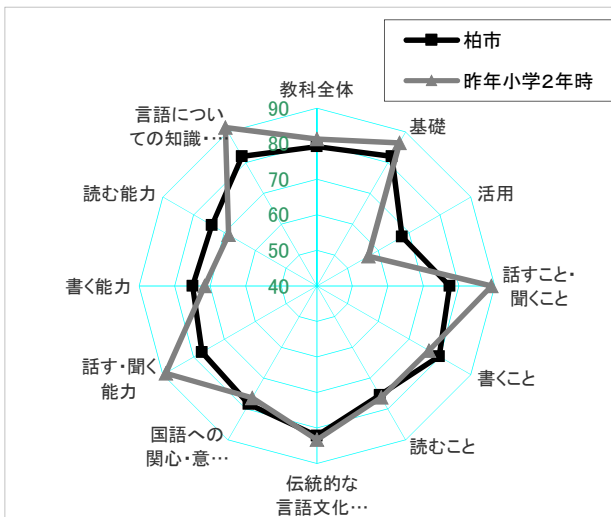
1. 全体傾向



全体的にみると、全国平均と同等の結果であり、観点別では、概ね全国正答率を上回る結果が出ている。
 その中でも「書くこと・書く能力」の領域はしっかり定着してきている。

問題別に見ると、「第2学年の配当漢字を読む・書く」問題で、全国の平均正答率を8問中3問が下回っている。漢字の読み書きについては、4年連続で正答率が下降しており、大きな課題と言える。特に課題が見られるのは以下の設問である。
 ・第2学年までに学習した漢字を書く(黄色)
 無回答率、誤答率合わせて30%

2. 経年変化



現3年は、2年時と比較すると、傾向はほぼ同じである。
 活用する力は11ポイント上がっているが、「言語についての知識・理解・技能」が9ポイント、「話す・聞く」力が12ポイント昨年度を下回っている。問題の量にも関係があると思われる。

前年度の3年と比較すると、すべての領域で上っている。
 問題別に見ると、「説明文の内容を読み取る」設問では、すべての項目で昨年度より上回っており、正確に文章を読み取る力がついてきたことがわかる。
 反面、「物語の場面の様子を読み取る」こと、「カードに書かれている事柄の順序を読み取る」ことについては、昨年度より若干正答率が下がっている。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○平均正答率が79.2ポイントであることから、国語科でつけるべき力がバランスよく身につけていると考えられる。「国語への関心・意欲・態度」、「活用」の正答率が昨年度より上昇しており、3年生の強みと言える。

●「漢字の読み書き」が4年連続で正答率が下降しており、大きな課題と言える。また、「読む」領域がやや弱みである。

したがって、次の点に留意して授業を改善していくことが望ましいと考える。

(1) 1学年から2学年では漢字配当が倍増するため、デジタルコンテンツを利用するなどして興味・関心を持続させながら、漢字習得のための反復練習を行う。

(2) 劇をするために「場面の様子を読み取る」、紙芝居を作るために「事柄の順序を読み取る」など、児童が「読む」必然性をもつような言語活動を仕組む。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

物語のおもしろいところをしょうかいしよう

—— 『モチモチの木』のはてなを見つけよう ——

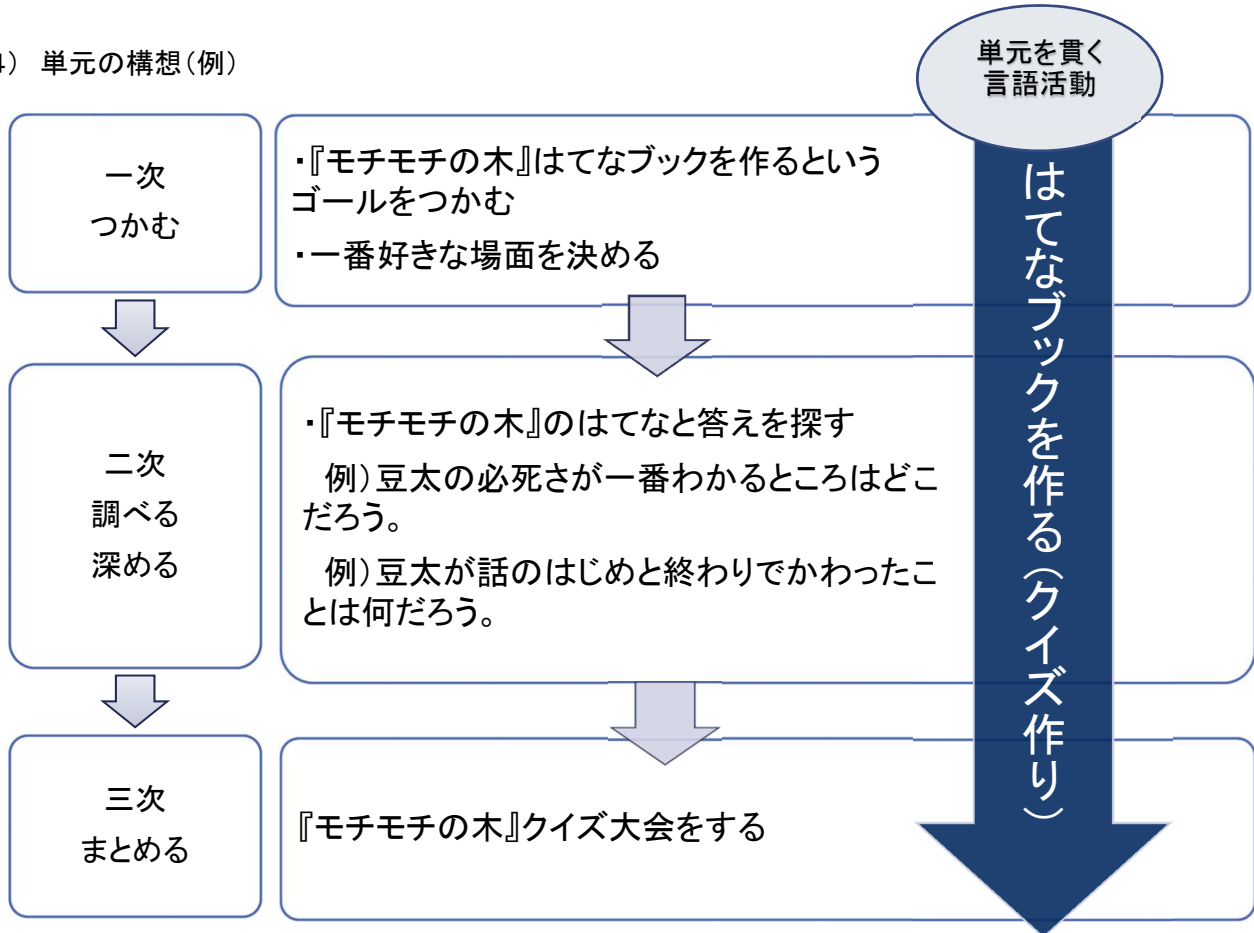
(2) つけたい力

目的に応じ, 内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに, 幅広く読書しようとする態度を育てる。(C 読むこと)

(3) 単元を貫く言語活動

はてなブックを作る(クイズ作り)

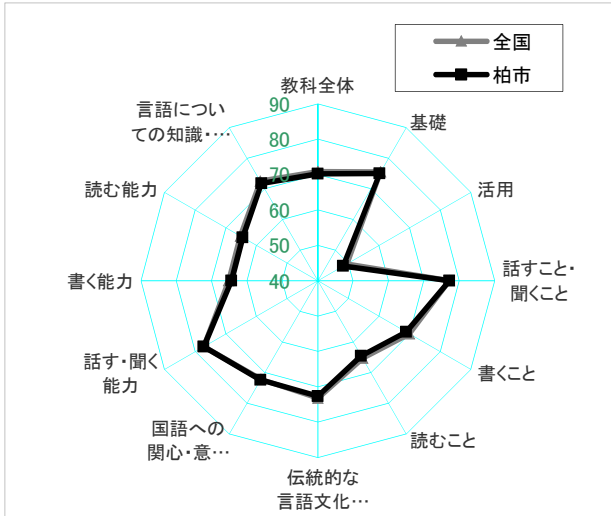
(4) 単元の構想(例)



指導のポイント！ お話の「はてな」と「答え」を見つける, という目的をもって, 読ませます。自分の好きな場面について, 特に集中して問題を作らせるとよいでしょう。好きな場面ごとに, グループを作ってもいいですね。「答え」の根拠もしっかり言わせましょう。

小学 4年 国語

1. 全体傾向

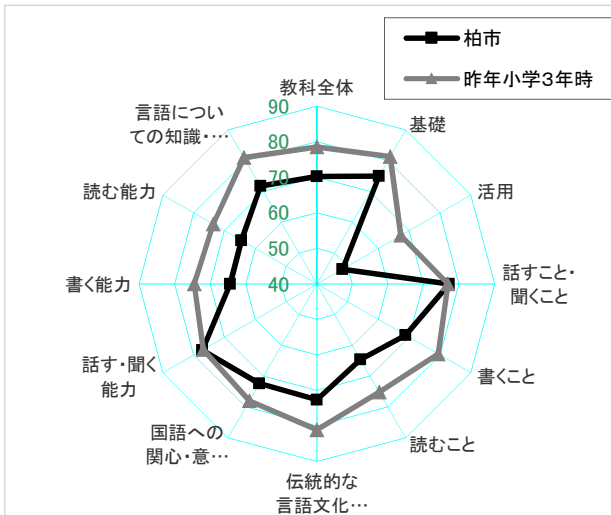


概ね全国の平均正答率と同等の結果となっている。中でも、「話すこと・聞くこと」の領域で正答率が高く、話の中心に気をつけて聞くことができていることがわかる。

反面、国語辞典の使い方や文の構成、二段落構成で文章を書くこと等が全国の平均正答率を下回っている。特に、国語辞典の使い方は、全国の平均正答率を、5.9ポイント下回っている。

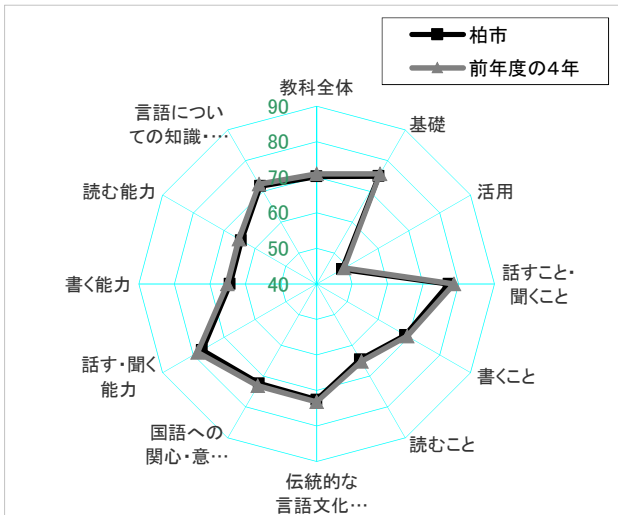
無回答の割合が多かったのは、ローマ字の読み書きである。特に「ローマ字の読み」は、30.6%が無回答であり、ローマ字の学習の定着を図る必要があることがわかる。

2. 経年変化



現4年は、3年時と比較すると全体的に下回っている。特に、「活用」は19ポイント下回っているため、思考力・表現力の向上が課題であると言える。

「話すこと・聞くこと」は、3年時と同等だが、それ以外の「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域が下回っている。



前年度の4年と比較すると、全ての領域で同等の傾向であり、「活用」が低いことに特徴がある。「話すこと・聞くこと」が前年度と同様に高い傾向にある。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○話の中心に気をつけて聞くことや、互いの考えの相違点や共通点を考えながら進んで話し合うことができている。「話す・聞く」領域が強みであると言える。

●「活用」の力をつける必要がある。また、ローマ字の定着に課題がある。

したがって、次の点に留意して授業を改善していくことが望ましいと考える。

(1)ローマ字の読み書きや国語辞典の使い方、文の構成について、国語の時間のみならず、日常生活を通して練習・活用する。

(2)デジタルコンテンツを利用するなどして興味・関心を持続させながら、漢字の書き取りやローマ字学習の定着を図る。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

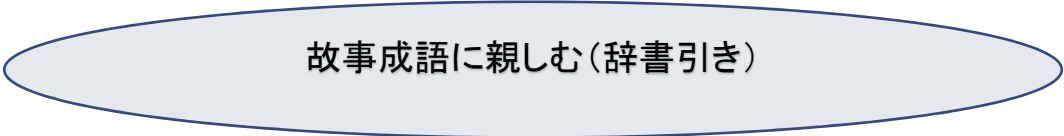
日本の文化に親しもう

—— 故事成語を4コママンガで紹介しよう ——

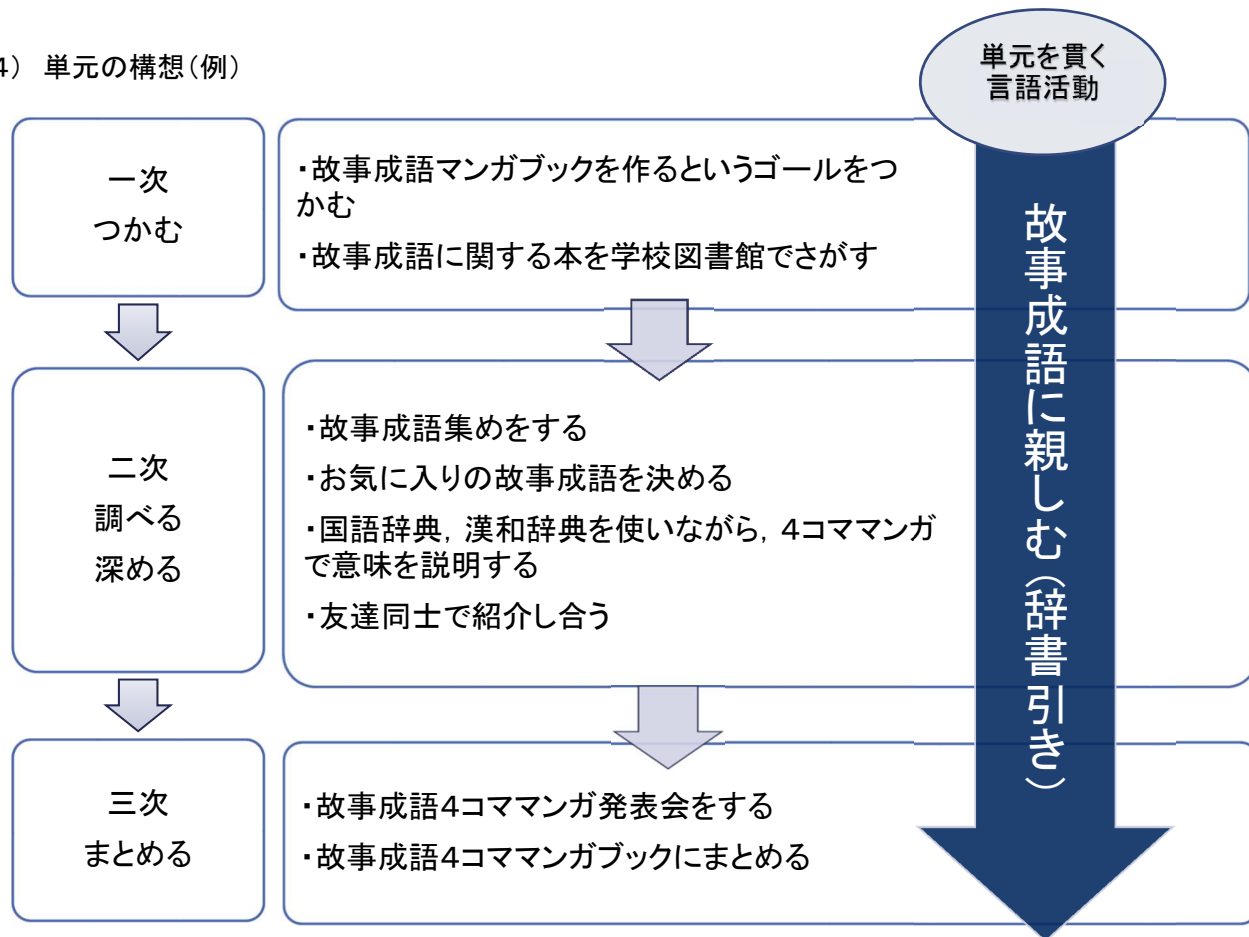
(2) つけたい力

(イ) 長い間使われてきたことわざや慣用句, 故事成語などの意味を知り, 使うこと。
〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

(3) 単元を貫く言語活動



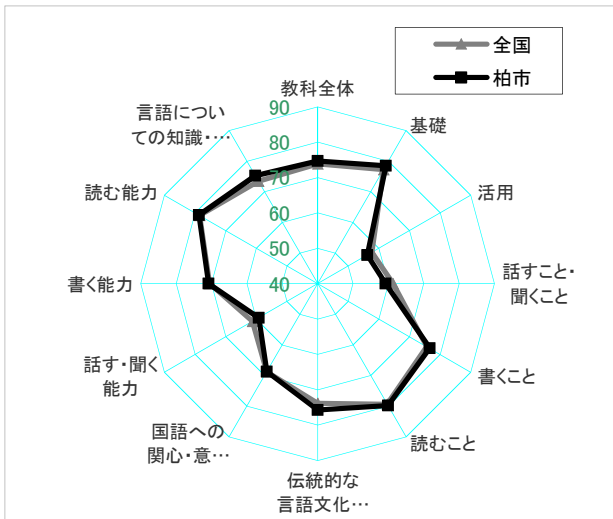
(4) 単元の構想(例)



指導のポイント！ 故事成語に関する本を集めるときは, 学校図書館指導員に支援を頼みましょう。調べた故事成語を, 自分の言葉にするために, 国語辞典と漢和辞典をそばにおいて, 言葉を調べながら4コママンガにまとめさせます。書き言葉と話し言葉も, 使い分けられるとよいでしょう。

小学 5年 国語

1. 全体傾向

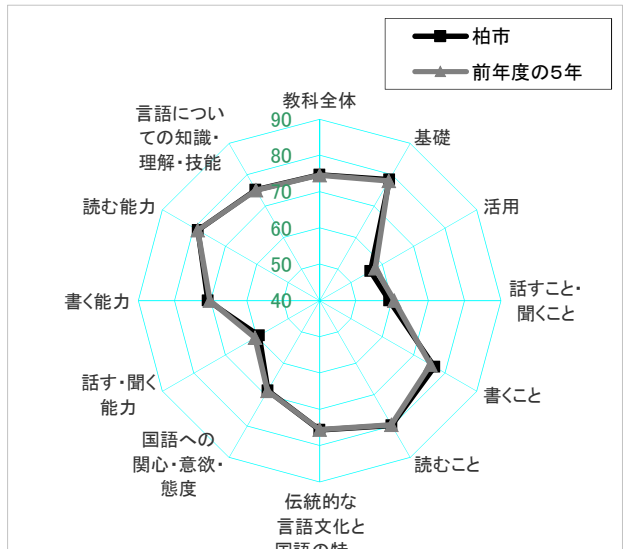
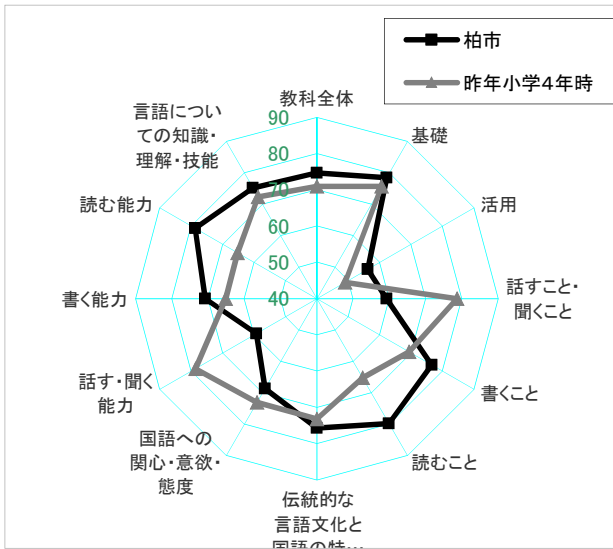


基礎・応用ともに、全国の平均正答率を上回る結果となっている。その中でも、「読むこと」「読む能力」の領域については、しっかりと定着している様子がうかがえる。

反面、「話す・聞く能力」は、全国の平均正答率を下回っている。聞いたことをメモしながら、自分で必要な情報を整理し、話し手の意図や要点を的確につかむ力が不足していると考えられる。

また、記述式の問題で、無回答の児童が10%以上いるため、問題内容の主旨をとらえ、自分の考えを書く活動を多く取り入れる必要がある。

2. 経年変化



現5年は、4年時と比較すると、全体的に国語の力が伸びていることがわかる。中でも、「読む能力」は、昨年、全国の平均正答率を大きく下回っていたため、各学校での指導の成果があらわれていると考えられる。

反面、「話す・聞く能力」については、7ポイント下降している。

基礎・活用ともに、前年度の5年生とほぼ同じ傾向を示している。「基礎」が全国正答率を上回っていることから、定着している基礎学力を活かし、いかに活用力を伸ばしていけるかが課題であると言える。意識的に言語活動の充実を図り、実践的な国語力を培うことが必要である。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○「言語についての知識・理解・技能」などの、基礎・基本の力が定着していることが強みである。

●話し手の意図を考えながら聞き、自分の意見と比較しながら考えをまとめていくことを苦手としている。「話す・聞く」領域が弱みである。

したがって、次の点に留意して授業を改善していくことが望ましいと考える。

(1)「話す・聞く」能力を向上させるため、日常的にスピーチ等の活動を取り入れ、話し手・聞き手双方のスキルの向上を図る。

(2)学級の友達と交流する、グループ学習を取り入れるなど、授業に「話す・聞く」場面を多く取り入れる。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

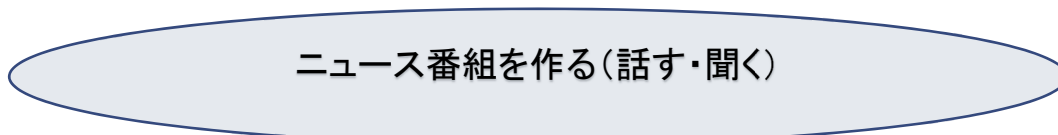
「わが町ベスト・スリー」を決めよう

—— アナウンサーになって, わが町ニュースを作ろう ——

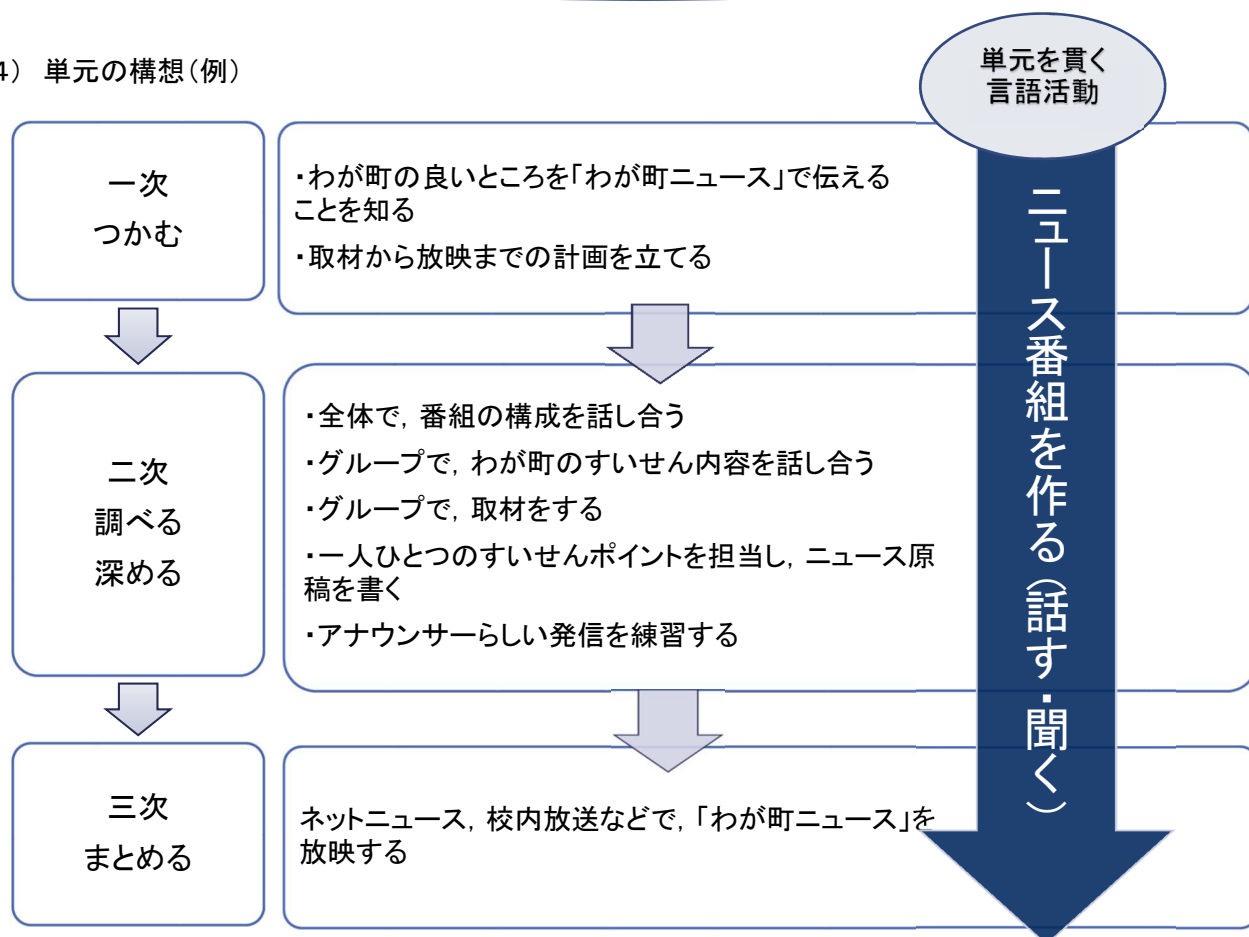
(2) つけたい力

目的や意図に応じ, 考えたことや伝えたいことなどについて, 的確に話す能力, 相手の意図をつかみながら聞く能力, 計画的に話し合う能力を身に付けさせるとともに, 適切に話したり聞いたりしようとする態度を育てる。(A 話すこと・聞くこと)

(3) 単元を貫く言語活動



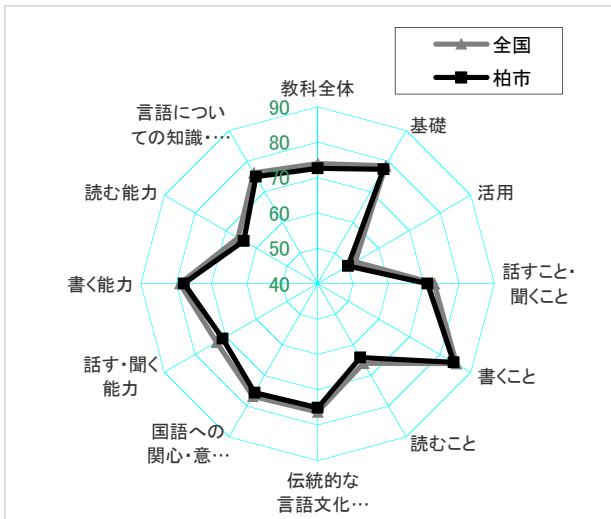
(4) 単元の構想(例)



指導のポイント！ 「話す・聞く」活動を豊富に取り入れた単元です。ペア, グループ, 学級など, 活動の人数を適宜変え, 交流場面を繰り返し仕組むとよいでしょう。「総合的な学習の時間」や学校行事を効果的に活用, 取材, 放映時間を作りましょう。

小学 6年 国語

1. 全体傾向



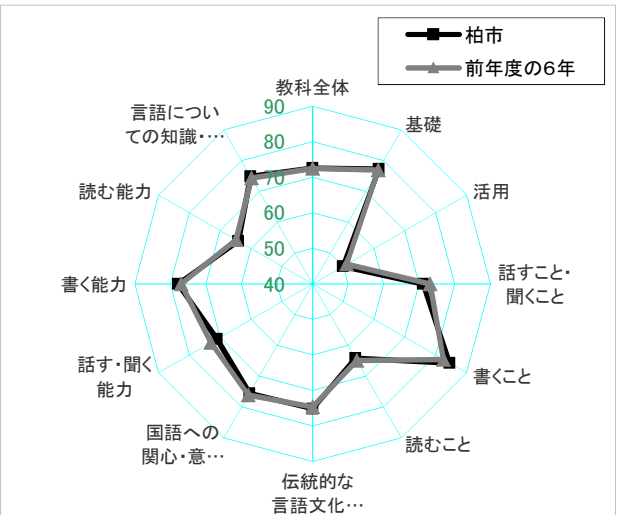
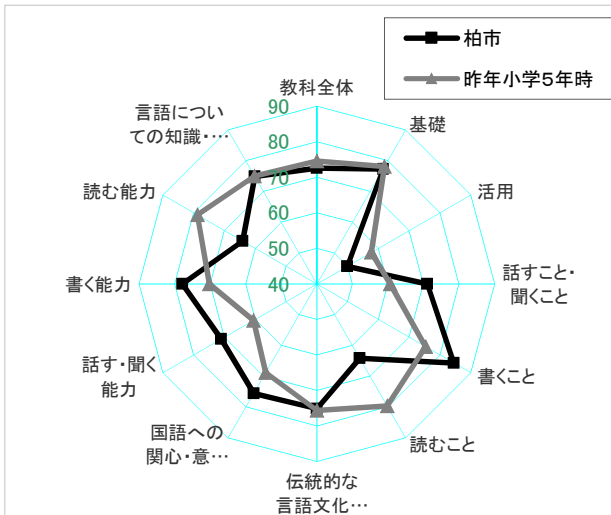
全国平均と同等の結果である。

問題別に見ると、全国平均ポイントを上回った設問はない。

全国平均を3ポイント以上、下回ったのは、以下の設問である。

- 1 文の構成(述語)を理解している
- 2 説明的文章の内容を的確に押さえながら読む
- 3 2段落構成で文章を書く

2. 経年変化



現6年は、5年時と比較すると、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の正答率が良くなっている。

反面、「読むこと」に関しては、3.6ポイント下回った。文学的文章の登場人物の心情や様子の読み取りは、正答が5年時9割から6年時6割台に下降している。文の長さにも関係していると思われる。

全体的に見ると、前年度の小学6年とほぼ同等の傾向が見られる。

問題別に見ても、同等の傾向である。文の構成(主語)の問題については、全国と比較すると下回っているものの、前年度の6年より2ポイント上回っている。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○現6年は、全国平均や前年度の6年と比較して、ほぼ同等の傾向となっており、どの領域もバランス良く力をつけているところが強みと言える。また、「国語への関心・意欲・態度」のポイントが上昇していることも強みと考えられる。

●昨年度と比較して正答率の低下が顕著であった「読む」領域が、弱みであると言える。

したがって、次の点に留意して授業を改善していくことが望ましいと考える。

- (1) 授業でも日常でも、学校図書館を活用することにより、読書の絶対量を確保する。
- (2) 教材に取り組む前の「先行読書」、単元を貫く「並行読書」、教材学習後の「関連読書」を、教材に応じて適宜取り入れる。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

物語の世界を広げよう

—— 学年に応じた「〇〇文庫」を開設しよう ——

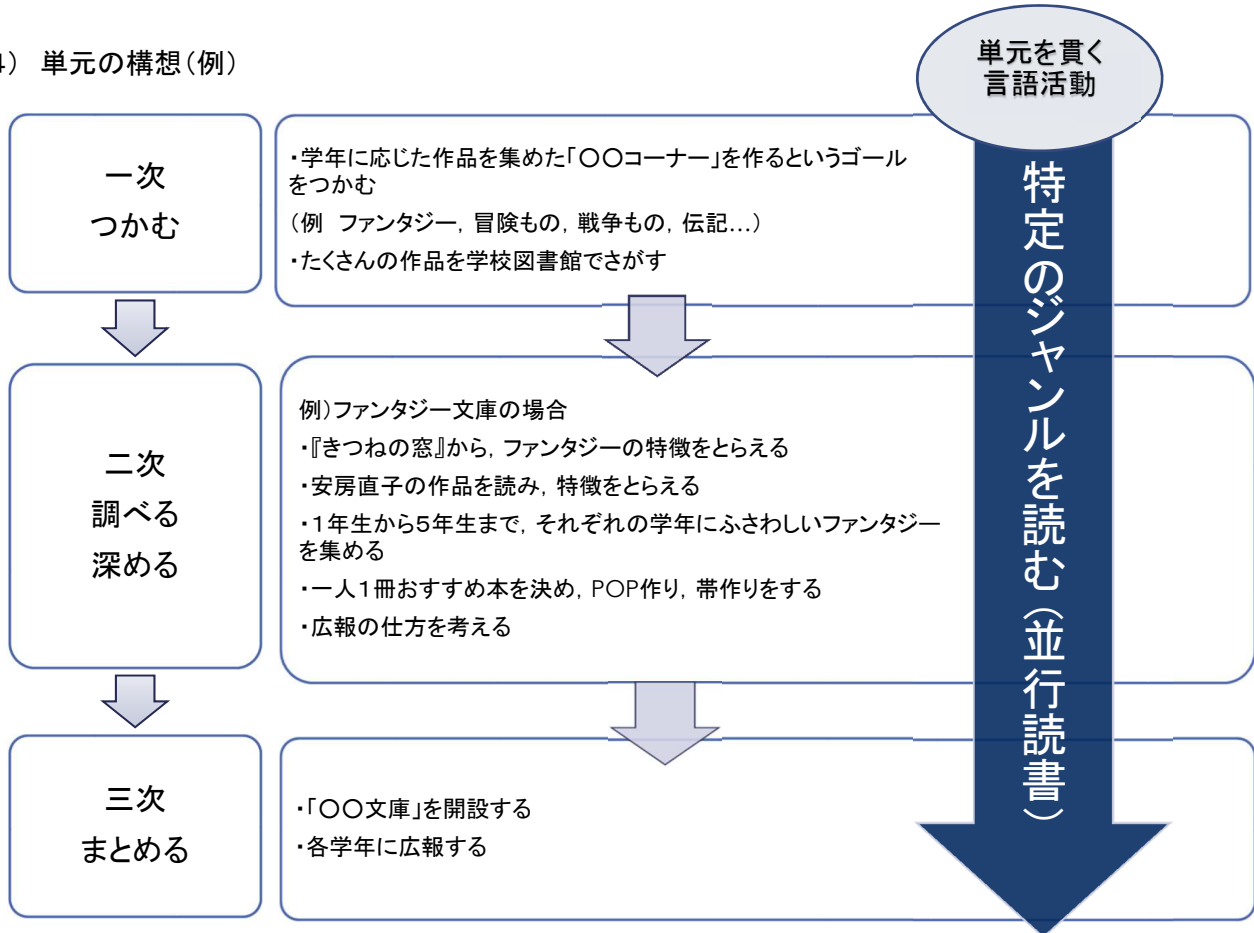
(2) つけたい力

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。(C 読むこと)

(3) 単元を貫く言語活動

特定のジャンルを読む(並行読書)

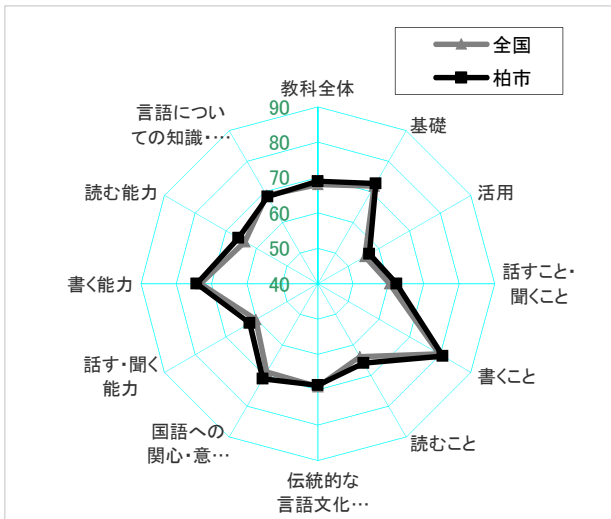
(4) 単元の構想(例)



指導のポイント！ 異学年に本を薦めるという目的で、特定のジャンルの本を多読させます。『きつねの窓』からファンタジー、『川とノリオ』から戦争物語、『伊能忠敬』から伝記など、様々なバリエーションが考えられます。特定のジャンルの本を探すときは、学校図書館指導員に支援を頼みましょう。

中学 1年 国語

1. 全体傾向



全体的に見ると、全国平均と同等の結果である。

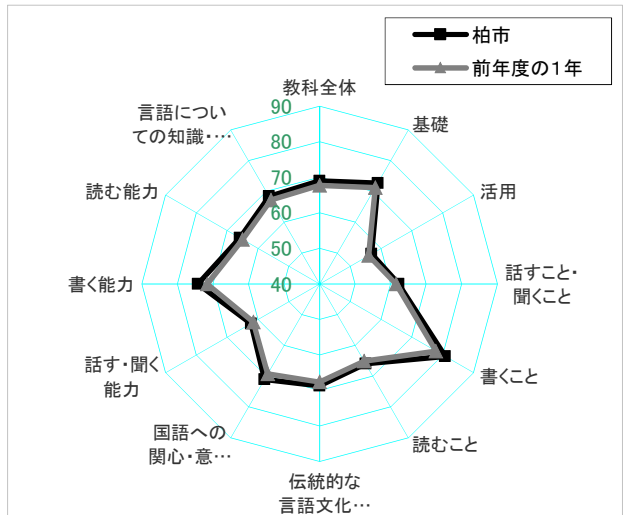
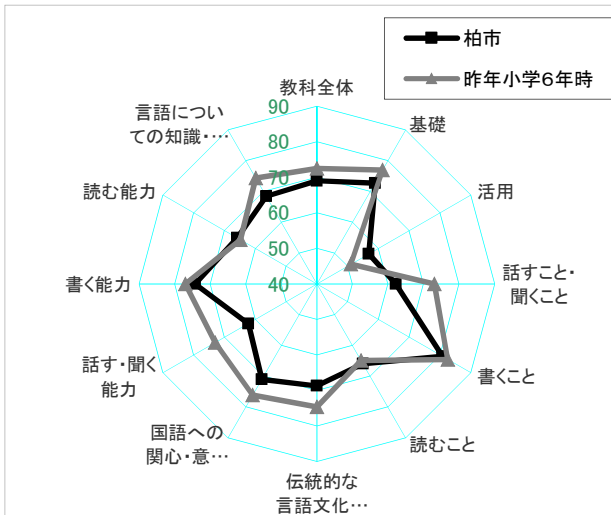
問題別に見ると、全国平均を3ポイント以上、上回ったのは、以下の設問である。

- 1 話の内容を正確に聞き取る
- 2 小学校で学習した漢字を書く(1/4)
- 3 ことわざについて理解している
- 4 登場人物の心情をとらえる
- 5 話し合いの様子とメモを比較して相違点を見つける

逆に全国平均を3ポイント以上、下回ったのは、以下の設問である。

- 1 小学校で学習した漢字を書く(1/4)
- 2 修飾語について理解している

2. 経年変化



現中学1年は、小学6年時と比較すると、下回った領域が多くみられる。中でも「話す・聞く」領域は、小学6年時より10.8ポイント下回っており、大きな課題である。

また、小学6年時には「活用」にやや課題が見られたが、今年度は5.8ポイント上昇し、改善の傾向が見られる。

全体的に見ると、前年度の中学1年とほぼ同等の傾向が見られる。詳しくみると、すべての領域において、わずかなポイントではあるが正答率が上回っている。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○現中学1年生は、全国平均や前年度の中学1年生と比較して際立って落ち込む領域がなく、極めて平均的である。昨年度の中学1年生に関してやや心配であった「書く」領域については、80%を超える正答率となった。

●反面、小学6年時より「関心・意欲・態度」「話す・聞く」領域が低下している。

したがって、次の点に留意して授業を改善していくことが望ましいと考える。

(1) 学習の見通しと振り返りの場を設定することにより、学習への意欲向上を図る。

(2) 学級の友達と交流する、グループ学習を取り入れるなど、授業に「話す・聞く」場面を多く取り入れる。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

古典と出会う

—— 私の家族を紹介します「ことわざ・故事成語」 ——

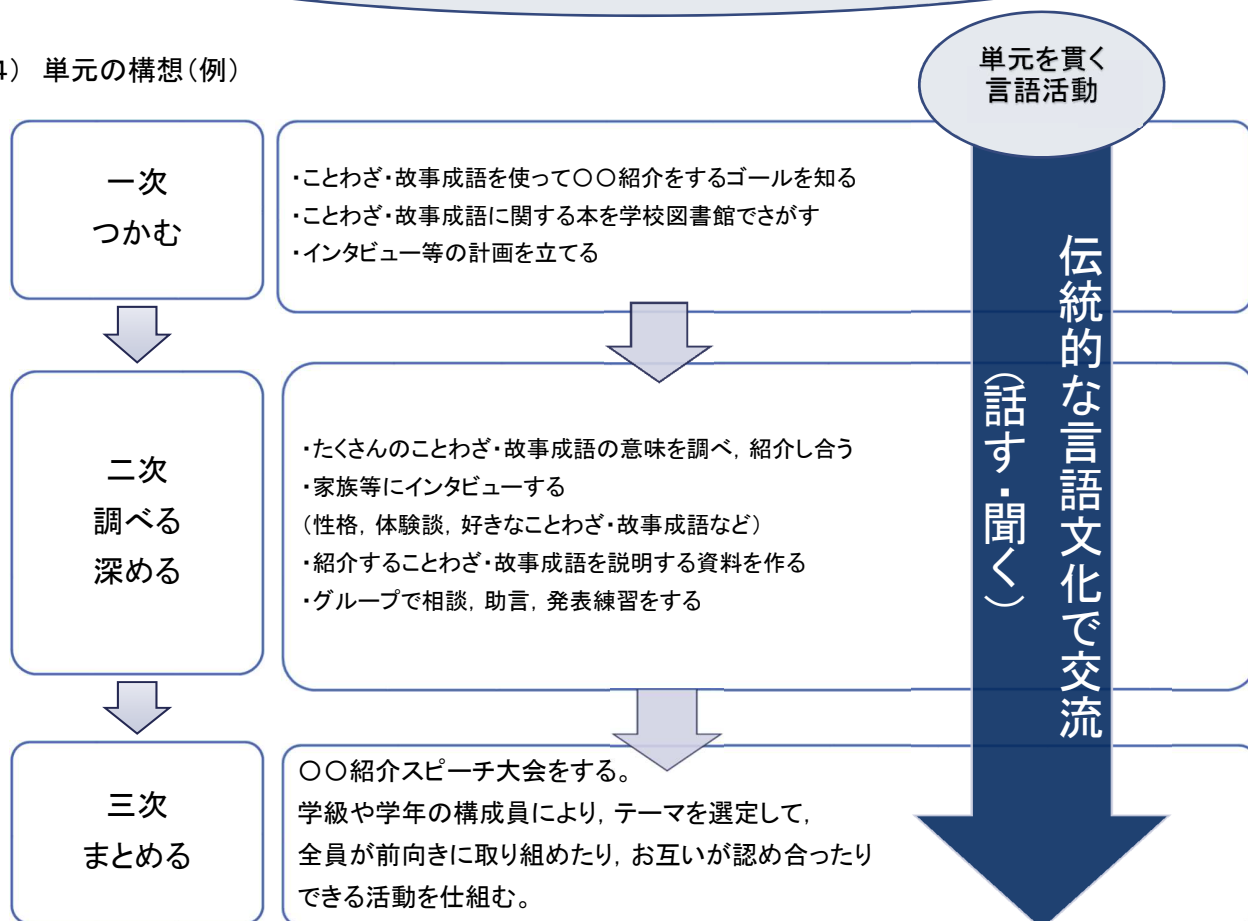
(2) つけたい力

目的や場面に応じ, 日常生活にかかわることなどについて構成を工夫して話す能力, 話し手の意図を考えながら聞く能力, 話題や方向をとらえて話し合う能力を身に付けさせるとともに, 話したり聞いたりして考えをまとめようとする態度を育てる。(A 話すこと・聞くこと)

(3) 単元を貫く言語活動

伝統的な言語文化で交流(話す・聞く)

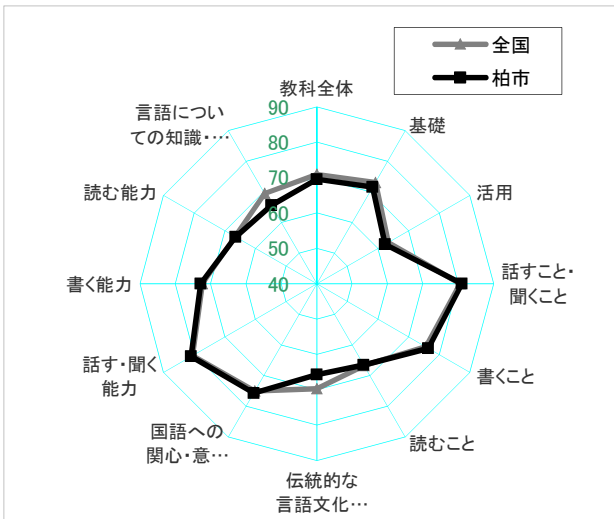
(4) 単元の構想(例)



指導のポイント! 古典と、「話すこと・聞くこと」を合わせた単元構成です。家族紹介が難しい場合は、部活動紹介、委員会紹介、先生紹介など、様々なバリエーションが考えられます。「話す・聞く」活動を充実させたいので、インタビューやグループ交流は豊富に取り入れましょう。ことわざ・故事成語に関する本を集めるときは、学校図書館指導員に支援を頼みましょう。

中学 2年 国語

1. 全体傾向



全体的に見ると、バランス良く学力を身に着けている。しかし、「言語についての知識・理解・技能」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、全国平均を下回っている。

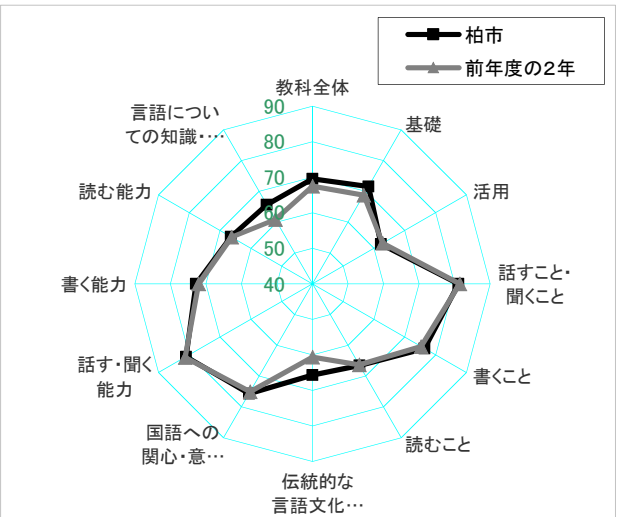
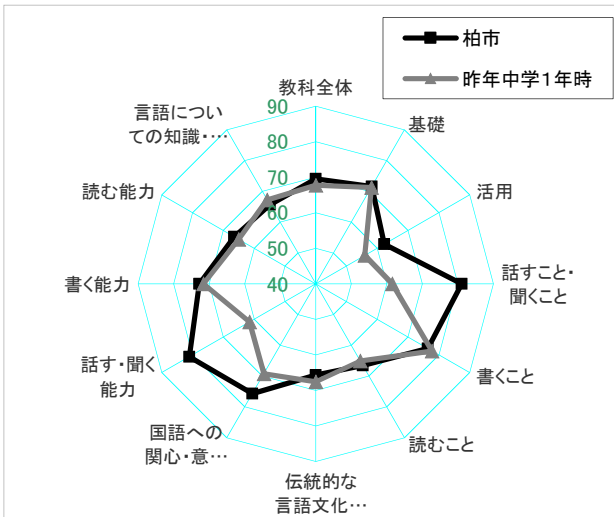
問題別に見ると、全国平均を3ポイント以上、上回ったのは、以下の設問である。

- 1 小学校で学習した漢字を書く(1/4)
- 2 漢字の音訓について理解している
- 3 文章の展開に即して内容をとらえる
- 4 自分のとった立場の理由を書く

逆に全国平均を3ポイント以上、下回ったのは、以下の設問である。

- 1 第1学年までに学習した漢字を読む(2/4)
- 2 小学校で学習した漢字を書く(2/4)

2. 経年変化



現中学2年生は、1年時と比較すると「話す・聞く」領域が19.5ポイント上昇した。「活用」6.3ポイント、「関心・意欲・態度」6.4ポイントの上昇も見られた。小学6年から中学1年にかけて一時下降した領域に、回復の傾向が見られる。

現中学2年生は、前年度の中学2年と比較すると、やや上回った領域が多数ある。中でも、「言語についての知識・理解・技能」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については、全国平均よりは下回っているものの、それぞれ5.0ポイント前後、前年度より上回った。引き続き向上を図りたい。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○現中学2年生は、バランス良く学力を身に着けている。特に、中学1年時に課題であった「話す・聞く」領域が正答率80%を超えたところは、強みとなったと言えるだろう。

●反面、全国平均より下回る「言語についての知識・理解・技能」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては、漢字、文法の習得が弱みであることがわかる。

したがって、次の点に留意して授業を改善していくことが望ましいと考える。

- (1) 語彙(漢字を含める)を獲得する場面と、学習した語彙を活用する場面を、授業や生活に多く取り入れる。
- (2) 国語科の授業のみならず、他教科における学習場面においても、豊富な言語活動を取り入れる。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

伝統を見いだす

—— 『枕草子』オリジナルガイドを作ろう ——

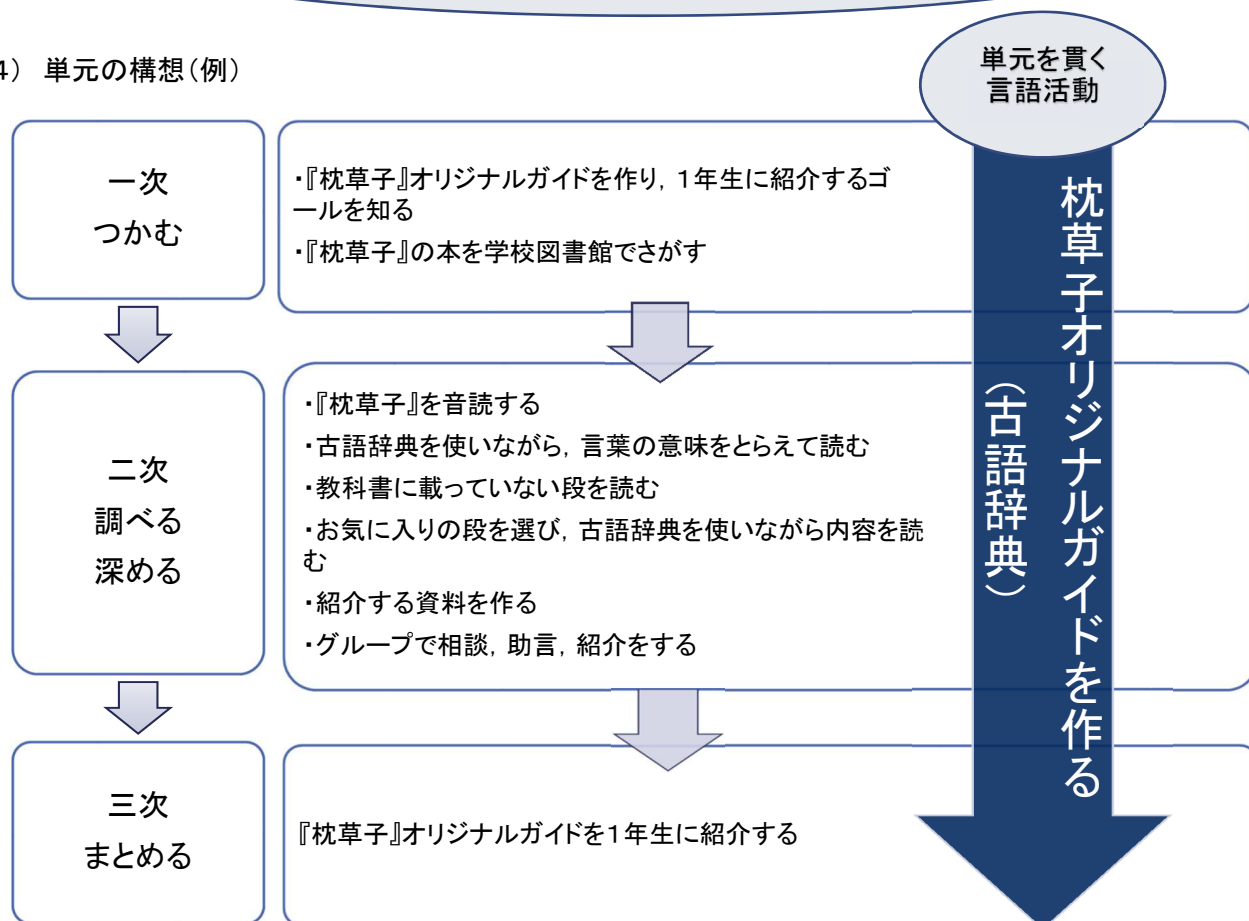
(2) つけたい力

抽象的な概念を表す語句, 類義語と対義語, 同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し, 語感を磨き語彙を豊かにすること。
 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項]

(3) 単元を貫く言語活動

『枕草子』オリジナルガイドを作る(古語辞典)

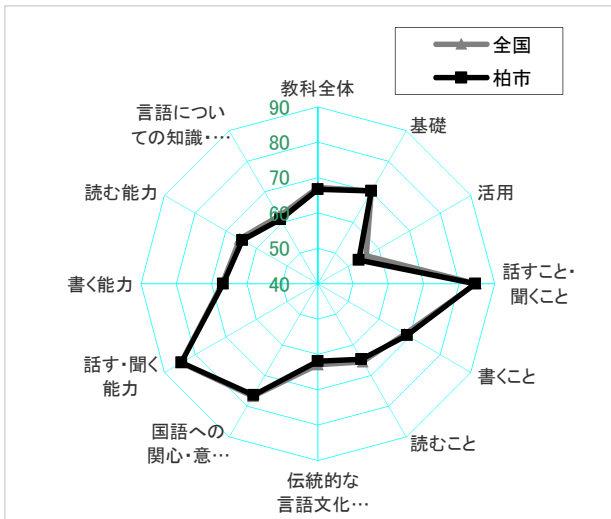
(4) 単元の構想(例)



指導のポイント! 古典と、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」を合わせた単元構成です。語彙を豊かにすること, 辞書を多用することを目的としていますので, 本の現代語訳をそのまま写したり, 読んだりするだけの活動にはしないようにしましょう。『枕草子』の本はバリエーション豊富にあります。学校図書館指導員に支援を頼みましょう。

中学 3年 国語

1. 全体傾向



全体的に見ると、全国平均と同等の結果である。

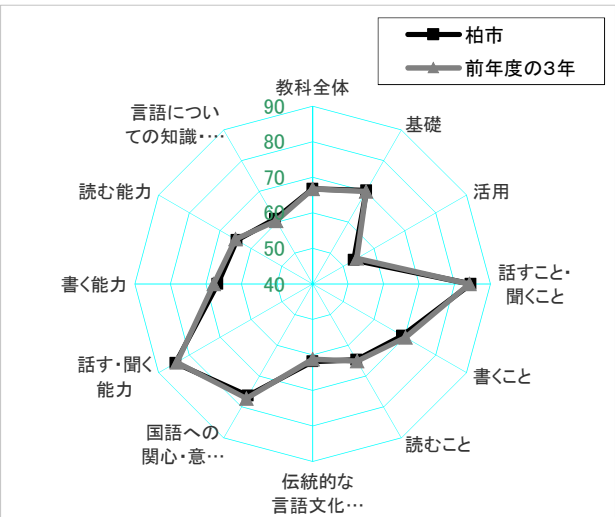
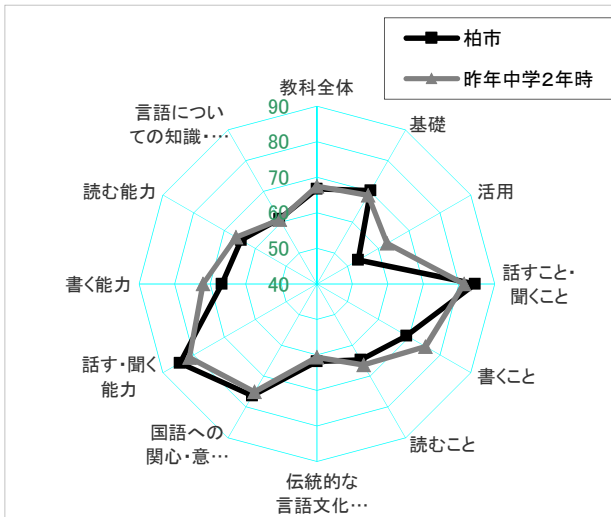
問題別に見ると、全国平均を3ポイント以上、上回ったのは、以下の設問である。

- 1 第2学年までに学習した漢字を読む(2/4)
- 2 小学校で学習した漢字を書く(1/4)
- 3 指定された文字数で作文を書く

逆に全国平均を3ポイント以上、下回ったのは、以下の設問である。

- 1 小学校で学習した漢字を書く(3/4)
- 2 敬語・類義語・対義語・同音異義語について理解している
- 3 基本的な手紙の書き方について理解している
- 4 文章の内容を的確にとらえて、手紙の内容をまとめる

2. 経年変化



現中学3年生は、2年時と比較すると「活用」が9.2ポイント、「書」領域が6ポイント前後、下降している。課題別に詳しく見ると、メモから手紙に書きなおす設問と、グラフから読み取ったことを作文に表す設問について、課題が見られる。無回答率が高いことにも特徴がある。(手紙19.4%、作文14.3%)

現中学3年生は、前年度の中学3年とほぼ同等の傾向が見られる。数値で見ても、全項目について±1ポイント以内の差であった。

3. 強みと弱み (○強み ●弱み)

○現中学3年生は、全国平均や前年度の中学3年生と比較して、際立って落ち込む領域がなく、極めて平均的である。「話す・聞く」領域の正答率が85%に近いところは、2年生と同様、強みと言えるだろう。
●反面、「活用」の分野、特に「書く」領域が弱みである。漢字や作文について、無回答率が高いことが大きな課題と言える。

したがって、次の点に留意して授業を改善していくことが望ましいと考える。

- (1) 語彙(漢字を含める)を獲得する場面と、学習した語彙を活用する場面を、授業や生活に多く取り入れる。
- (2) 手紙や葉書、作文等の基本的な書き方を身につけさせ、一定の条件のもとで書く場面を多く取り入れる。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 単元名

自分の作品集をつくる

—— 卒業に向け, 感謝の気持ちを伝えよう ——

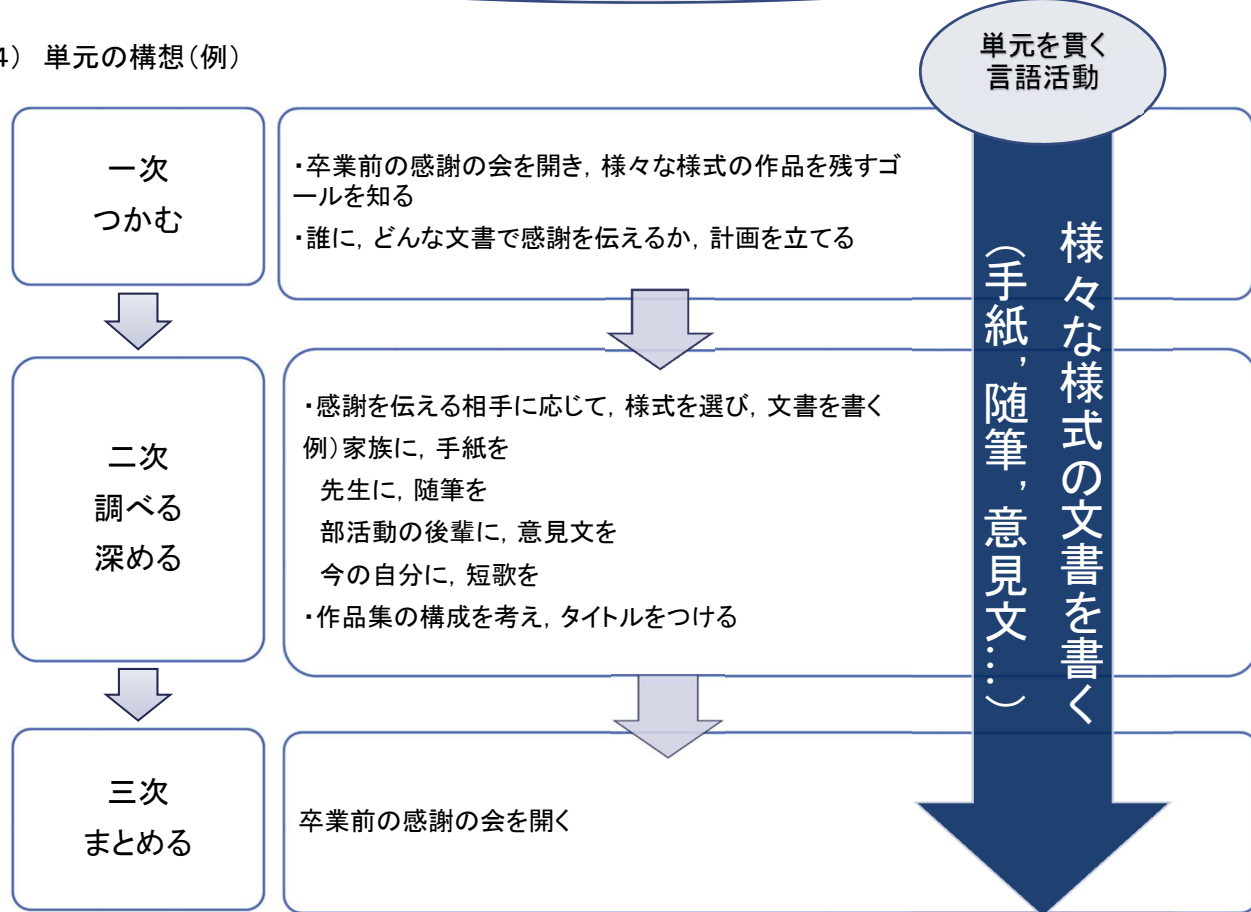
(2) つけたい力

目的や意図に応じ, 社会生活にかかわることなどについて, 論理の展開を工夫して書く能力を身に付けさせるとともに, 文章を書いて考えを深めようとする態度を育てる。(B 書くこと)

(3) 単元を貫く言語活動

様々な様式の文書を書く(手紙, 随筆, 意見文...)

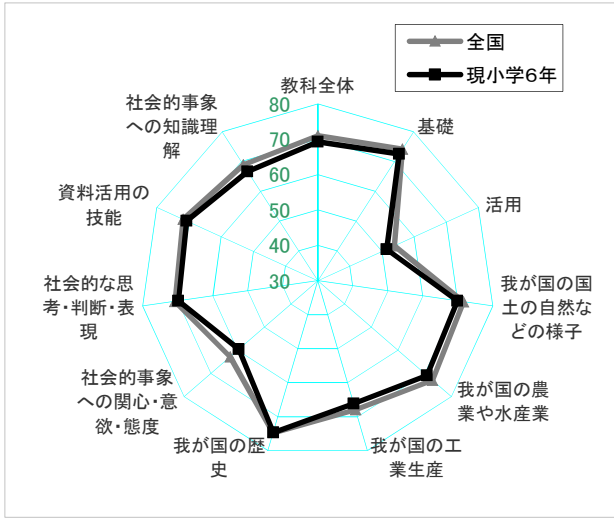
(4) 単元の構想(例)



指導のポイント! 手紙を書く機会の少ない現代の子どもですので, 手紙の型はしっかりと教える必要があります。時候の挨拶や敬語も, 併せて指導しましょう。そのほかの文書は, 本人の意思に任せて, 自由に書かせても良いでしょう。「感謝の会」については, 学級の子どもたちの様子に合わせて, 開催の形を工夫すると良いでしょう。

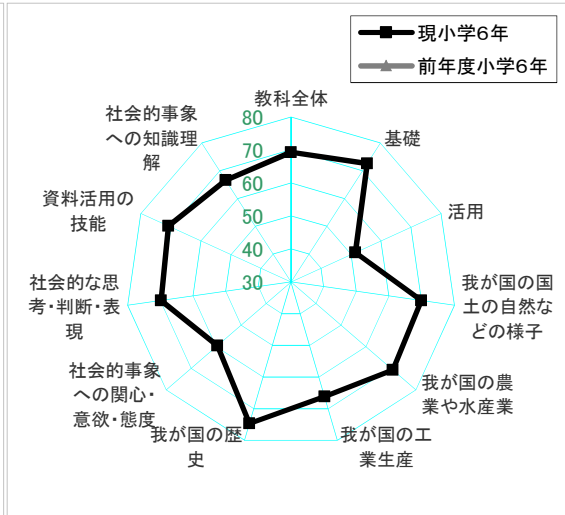
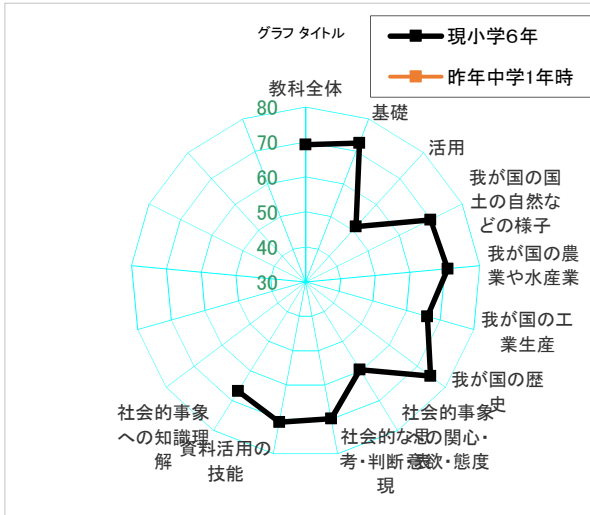
小学 6年 社会

1. 全体傾向



コメント
 ・教科全体として、目標値は全て上回っており、基本的な理解は達成されている。
 しかし、全国平均正答率は全ての項目で下回り、課題である。
 ・基礎的な用語の理解として、関東から九州にかけて工業な盛んな地域を「太平洋ベルト」と回答する設問への正答率が極端に低くなっている。単に暗記させるのではなく、地域の様子や太平洋に面していることと結びつけられた名称であることを理解させる必要がある。
 ・グラフに現れている現象から、日本の食料輸入が増えるるとどのような問題が起きるか、

2. 経年変化



コメント
 ※比較するデータが無いため、コメントはありません。

コメント
 ※比較するデータが無いため、コメントはありません。

3. 強みと弱み

全国とほぼ同程度で、良好な状況です。
 ○学習内容の定着率が、全体的に高い。
 ●地図の読み取りや、複数の資料から情報を読み取る力を身に付ける必要がある。
 ●社会科の学習は、事象と事象の関連性から、なぜという疑問を見いだすことが大切であるが、事象の暗記を中心にしていたり、教科書の内容をなぞるような授業が展開されていたりする傾向が伺われる。

4. 授業改善の方向，効果的指導例（小学校）

日本の農林水産業を自分で調べる力をつける

◎展開の工夫

[見出す]

- ・わが国の農林水産業と自分たちの生活はどのような結びつきがあるのか。

[調べる]

- ・**課題** 地方の特徴を生かした，〇〇地方宣伝弁当を作ろう！

～バランスのよいお弁当にしよう～

- ・どの地域で，どのような農林水産業が資料収集をする。
- ・使いたい食材とコストについて調べたり考えたりする。
- ・図書館を活用する。※ブックトラックで教室へ運搬するなどの工夫。

[深める]

- ・地方ごとに特色ある食材をお弁当箱に描く。その際に，食材の説明もメモし，食材に関する情報を収集し，宣伝になる内容を整理し，広報原稿をつくる。

[まとめあげる]

- ・弁当で巡る日本一周の旅，大発見につぼん食材の宝庫！で発表会をする。
- ・日本の農林水産業について，自分の考えをまとめる。

◎ユニバーサルな視点を取り入れる授業づくり

【スモールステップ】 …… 個々の食材について調べる。

【視覚化】 …… 調べた食材を弁当のおかずとして描く。

【身体性の活用（動作化・作業化）】 …… 図書を活用して調べる。食材を描く。

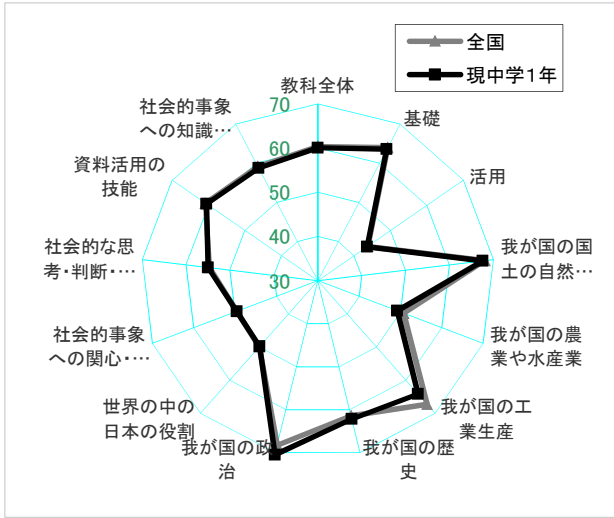
【共有化】 …… 自分の作ったお弁当を発表する。また，互いに評価し合う。

《参考資料》

「ユニバーサルデザインの視点をもって生徒をたくましく育てる教育活動」 日野市立日野第三中学校)

中学 1年 社会

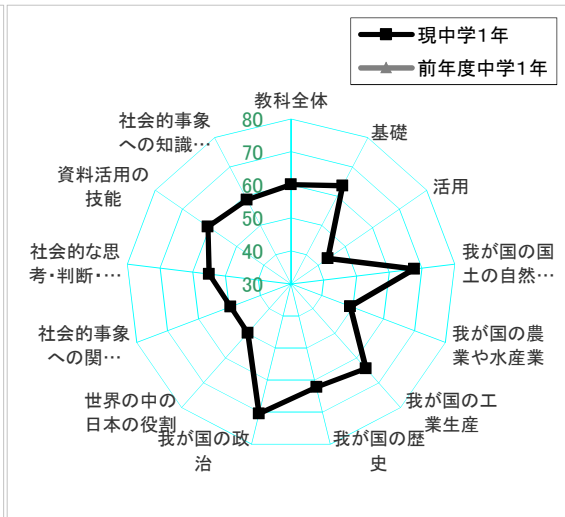
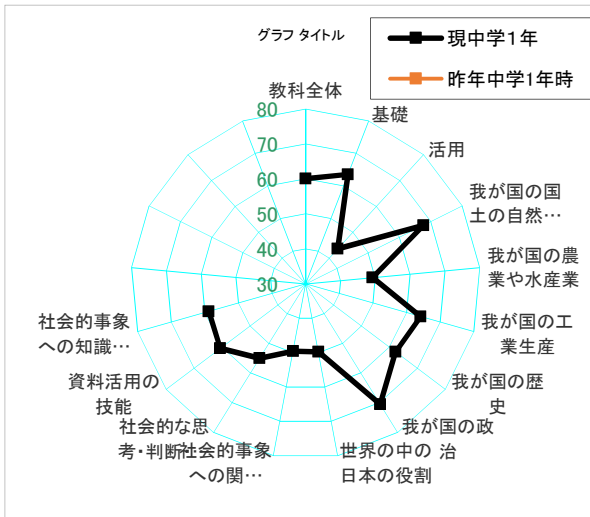
1. 全体傾向



コメント

- ・目標値、全国平均正答率ともに下回る傾向が見られる。しかし、「基礎」・「活用」ともにほぼ全国と同程度と見ることができる。
- ・観点別正答率については、社会的な事象への関心・意欲・態度が目標値を下回っている点について、課題となっている。
- ・領域別正答率は、「我が国の国土や自然などの様子」についてや「我が国の政治」についての正答率が大変高かった。反面、「我が国の農業や水産業」や「世界の中の日本の役割」については、相対的に正答率が低くなっている。これは、実際の場面に当てはめて考える設問に対して、十分に実際場面が

2. 経年変化



3. 強みと弱み

全国とほぼ同程度で、良好な状況です。

○歴史については、大きな時代の流れをつかむことができている。

●例えば身近なものを教材化するなどして、関心・意欲・態度を高めていきたい。

●社会的な事象について、丁寧に記述して説明できる力をつけたい。

●地理的分野については、基礎・基本について復習が必要である。

●複数の資料の読み取りおよび読み取った事象間の関連性を考える力をつけたい。

4. 授業改善の方向，効果的指導例（中学校1年生）

中世の社会を自分から資料から調べる力をつける（鎌倉時代）

◎展開の工夫

【見出す】

・ A「武士の館」 B「定期市の様子」を見て，鎌倉時代の人々は，どのような暮らしをしていたのかを考え，鎌倉人物語にしよう。

【調べる】

⇒班を A， B をそれぞれ調べる担当に分ける。

・それぞれの資料を中心に調べる。⇒資料から読み取れるものを書き出す。

【深める】

・読み取れたことから，当時のくらしの様子を考え，一日の出来事にまとめる。
・図書館を活用する。※ブックトラックで教室へ運搬するなどの工夫。

【まとめあげる】

・調べた内容についてまとめる。

（例）「鎌倉時代の人々の生活を，武士と民衆に分けて，次の二つずつの語句を使って説明してみましょう。[武士：弓馬の道・惣領／民衆：二毛作・定期市]」

・班内で，互いに調べた内容を伝え合う。

◎ユニバーサルな視点を取り入れる授業づくり

【スモールステップ】……それぞれの資料から，ひとつずつ読み取れることを書き出せるワークシートを用意し，必要に応じて利用できるようにする。

そこから当時のくらしのようすについて考える。

【身体性の活用（動作化・作業化）】……資料から読み取った生活の様子を一日の出来事という形で生活の様子にまとめあげる作業。

【共有化】……調べた内容を伝え合う。

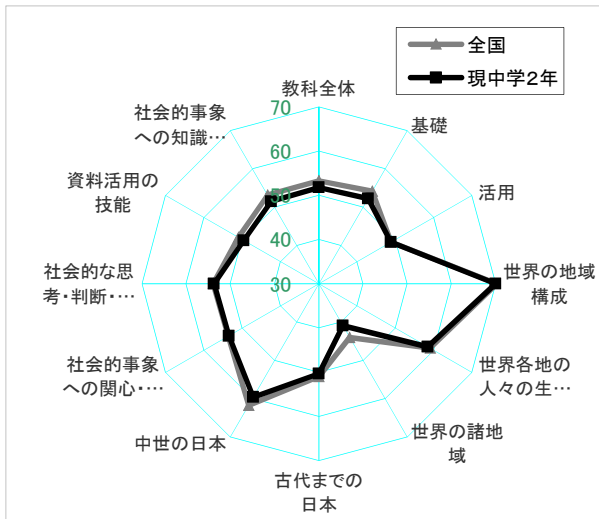
《参考資料》

東京書籍『新しい歴史』P64～65

「ユニバーサルデザインの視点をもって生徒をたくましく育てる教育活動」 日野市立日野第三中学校)

中学 2年 社会

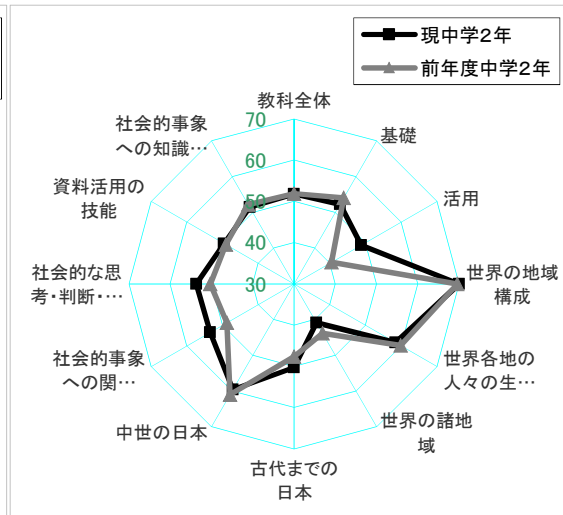
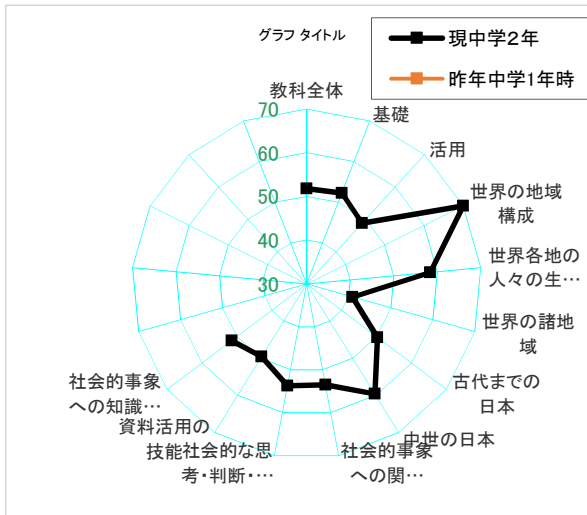
1. 全体傾向



コメント

・教科全体としては、目標値をやや超えているものの、全国平均正答率を少し下回っていた。
 ・「基礎」・「活用」ともに ほぼ全国と同程度と見ることができるが、「基礎」については、全国正答率約2ポイント下回っている。
 ・観点別正答率については、すべての観点で目標値を上回っている。
 ・領域別正答率は、「世界の地域構成」についての正答率が大変高かった。反面、「世界の諸地域」については、相対的に正答率が低くなっている。

2. 経年変化



コメント

・昨年度の2年生との比較では、「活用」についてが約8ポイント、「社会的な事象への関心・意欲・態度」が約5ポイント上昇している。他の領域、観点についての正答率は、概ね同様の傾向であると言える。

3. 強みと弱み

全国とほぼ同程度で、良好な状況です。

○全体的に意欲・関心・態度の数値が高いので、より一層興味関心の高い授業展開が求められる。

○地理的分野の学習内容の定着が良い。

○歴史的分野についても、概ね時代の流れを大きくつかむことができている。※古代～中世

●資料から情報を読み取って、的確に説明する力や、その背景についても考えさせる力を付けたい。

4. 授業改善の方向、効果的指導例（中学校2年生）

中国・四国地方を自分で調べる力をつける

◎展開の工夫

【見出す】

- ・中国・四国地方，住むならベスト環境はここ！リストを作ろう！。
- ・雨温図等の条件から，ベスト地のリストを作るため資料を用意しよう。

【調べる】

課題 中国・四国地方を大観して，様々なデータから自然環境の特色をまとめる。

【深める】

- ・住む場所を選ぶという観点から，写真，地図，雨温図，季節風の様子，断面図などの資料を読み取り，自然環境についてまとめ，候補地を絞る。
- ・図書館を活用する。様々な白書データや Web データの活用をすすめる。

【まとめあげる】

- ・調べた内容についてまとめる。
（例）「おすすめの地方を「山陰，瀬戸内，南四国」地域から選び，それぞれ200字程度でまとめて，おすすめパンフを作ってみよう。」
- ・席が隣の人と，まとめた内容を伝え合う。

◎ユニバーサルな視点を取り入れる授業づくり

【スモールステップ】 ……住むならココという観点から調べる項目を決めて調べる

【視覚化】 ……パンフレットに表していく

【身体性の活用（動作化・作業化）】 ……おすすめ地域を絞る。

【共有化】 ……自分でまとめた内容を，互いに伝え合う。

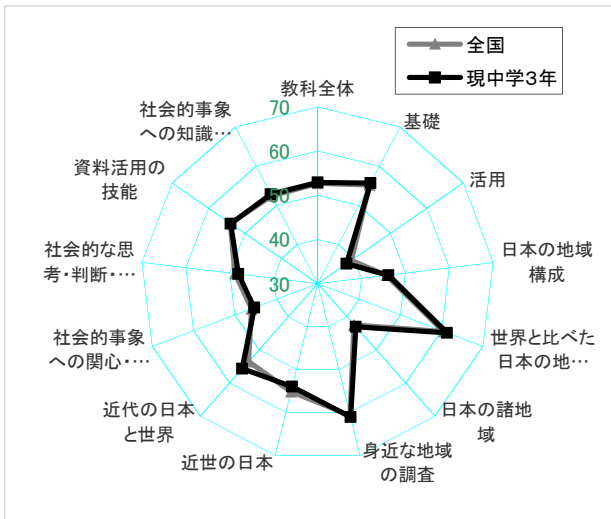
《参考資料》

東京書籍『新しい地理』P170～171

「ユニバーサルデザインの視点をもって生徒をたくましく育てる教育活動」 日野市立日野第三中学校)

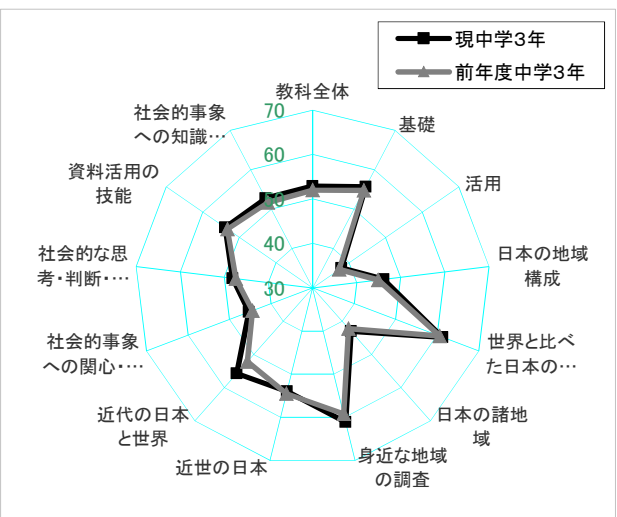
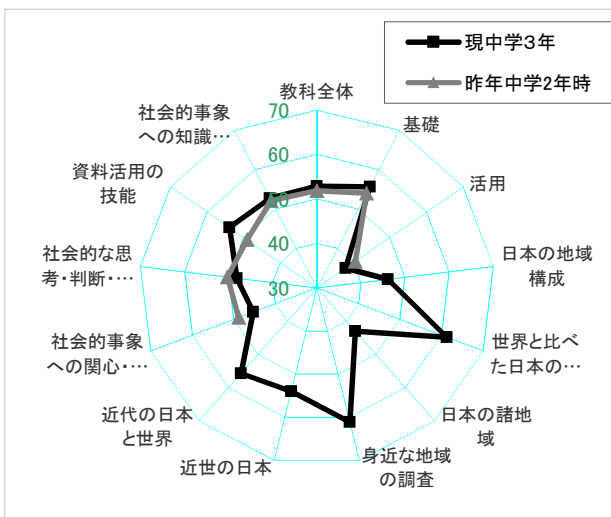
中学 3年 社会

1. 全体傾向



コメント
 ・目標値をやや下回り、全国平均正答率も少し下回っている。
 ・「基礎」、「活用」とも全国平均正答率と同傾向であった。領域別正答率や観点別正答率についても、ほぼ同様の傾向であった。
 ・観点別正答率については、社会的な事象への関心・意欲・態度が目標値を下回っている点が、課題となっている。
 ・領域別正答率は、「日本の地域構成」や「日本の諸地域」がとても低い結果となっている。単なる暗記ではなく、関連性を持たせた指導が徹底されていない面が表れている。

2. 経年変化



コメント
 昨年と比較すると、基礎は少し下がっているが活用が約3ポイント上昇している。観点別では、資料活用の技能は若干上昇したものの、社会的な思考・判断・表現、社会事象への関心・意欲の観点が大きく落ち込んでいる。

コメント
 昨年度の3年生と比較すると、全体的に概ね同様の傾向を示している。改善点として指摘している、暗記ではなく、物事の関係性の中で理解させて、覚えさせることができていない。指導法の改善が必要である。

3. 強みと弱み

- 全国とほぼ同程度で、良好な状況です。
- 歴史的分野については、時代の流れを大きくつかむことができている。※近世～近現代
 - 資料から情報を読み取り、説明できるような力をつけたい。
 - 地理的分野の中でも、日本地理についての学習定着が弱い。

4. 授業改善の方向，効果的指導例（中学校3年生）

人権について資料を元に調べる力をつける

◎展開の工夫

【見出す】

- ・ 16種類の人権について，調べあって人権に優しい社会づくりの提案をしよう。
- ・ 1から16までの人権課題に関する資料を集め調べる分担を決める。

【調べる】

課題 人権課題について，自分の分担を調べてわかりやすく伝えよう。

【深める】

- ・ 16の人権課題について，調べた者同士で意見を出し合い，課題をまとめる。
- ・ 人権課題について，発表会を開き，様々な人々にとって暮らしやすい社会を考える。

【まとめあげる】

- ・ すべてのグループの発表内容を生かし，暮らしやすい社会像を話し合い，提言としてまとめる。

◎ユニバーサルな視点を取り入れる授業づくり

【スモールステップ】……カードごとに，グループで考察する。

【共有化】……グループ毎の意見をクラスで発表する。

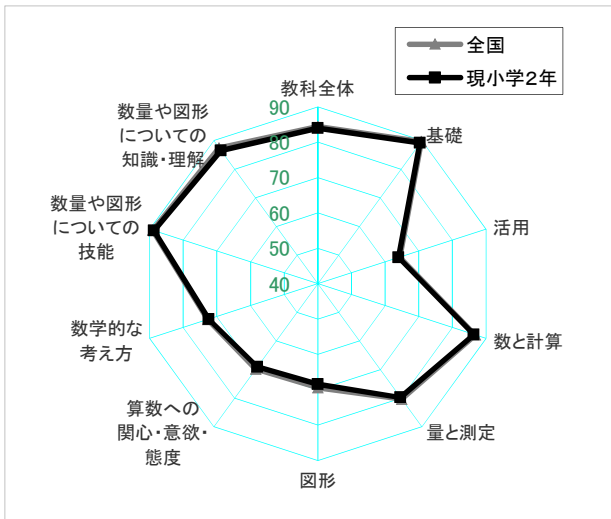
《参考資料》

東京書籍『新しい公民』P32～33

「ユニバーサルデザインの視点をもって生徒をたくましく育てる教育活動」（日野市立日野第三中学校）

小学 2年 算数

1. 全体傾向



コメント

全体的に見ると、全国正答率と同等の結果である。

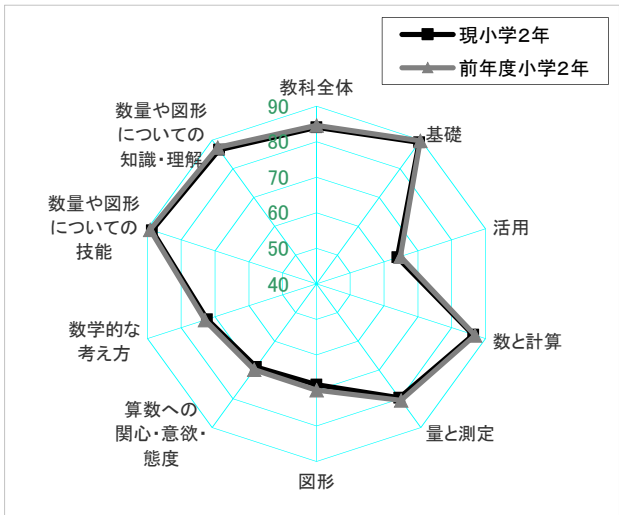
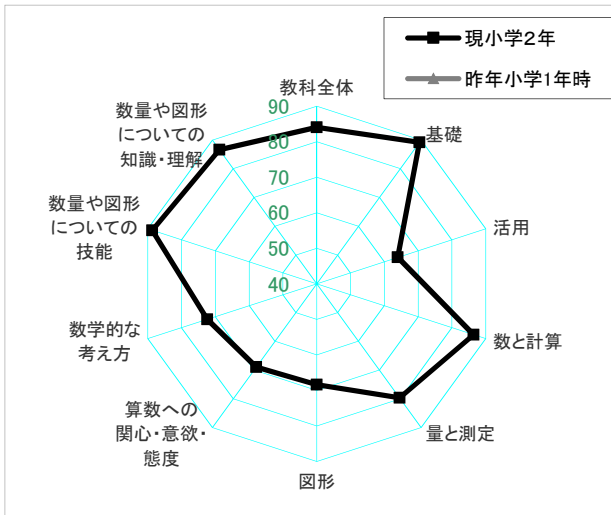
項目ごとに見ると、「活用」・「図形」・「関心・意欲・態度」が60%台となっており、昨年度とほぼ同じ傾向を示している。

問題別に見ると、全国正答率を2ポイント以上、下回ったのは、以下の設問である。

- ・方向や位置に関する言葉理解
- ・何時を示す時計の読み方

「絵の中の時計を読み取り、条件を満たす場合を考える問題」については、目標値から5ポイント以上、下回っているが、全国正答率と比べると、3ポイント近く高

2. 経年変化



コメント

第1学年未実施

コメント

平成26年度の小学校2年生と比べると、39問中27問において僅かではあるが、正答率が下がっている。

昨年度比べて、2ポイント以上、下がっているのは、以下の問題である。

- ・引き算を使った文章問題
- ・ロッカーの位置を言葉から考える問題

3. 強みと弱み

○基本的な計算の仕方を理解し、処理する力は90%以上の正答率であり、今回出題された内容は概ね身につけていると考えられる。

●課題のある問題や経年変化から見ると、次の3点の対策が考えられる。

・体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動を多く取り入れ、時計の読み方などは、日常生活においても使う機会を多くする。

・長い文章問題から必要な情報を取り出すことができるように、文章を読み取る力をつける。

・「算数って楽しい！」と子どもが思えるような授業を展開していくこと。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 授業改善の方向

第2学年の「かさ」の指導では, 具体物を用いた活動などを通して, 長さや体積などの単位と測定について理解できるようにし, 量の大きさについての感覚を豊かにする。

基準となる普遍単位を用いることの必要性に気づき, 単位の意味を理解するとともに, 単位を用いて正しく測定できることをねらっている。

(2) 効果的な指導例

① 生活に関連した問題提示の工夫

どちらが多いかな。

L? dL? mL?



○かさの違いがはっきりわからない容器を見せ,

「どちらが多いか比べてみたい」という意欲を高めるような

問いを準備する。その際, 1学年での学習を想起させることも重要である。

○生活の中のかさを表す単位探しから, 小さなかさを表すmLの単位を見つけさせる。

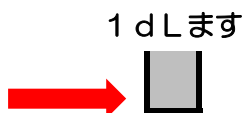
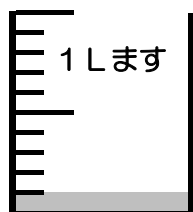
自分が探した単位として1mLの大きさ(粘土で製作するなど)を予想させたり, 1dLが何mLかを調べさせたりする。

② 算数的活動と伝え合う場の設定

○間接比較や任意単位を用いた測定, まずを用いて身の回りの物を測定する活動を繰り返し行うことにより, 実感させ, 理解させていく。「長さ」の学習との関連をはかりながら単位を指導すると, さらに効果的である。

○測定活動を行う前に, かさの見当をつけさせる。その際, その理由や測定方法について友達に伝えたり, 修正方法を相談したりすることで, 学び合う場をつくる。

《ワンポイントアドバイス》 ※かさを体感する

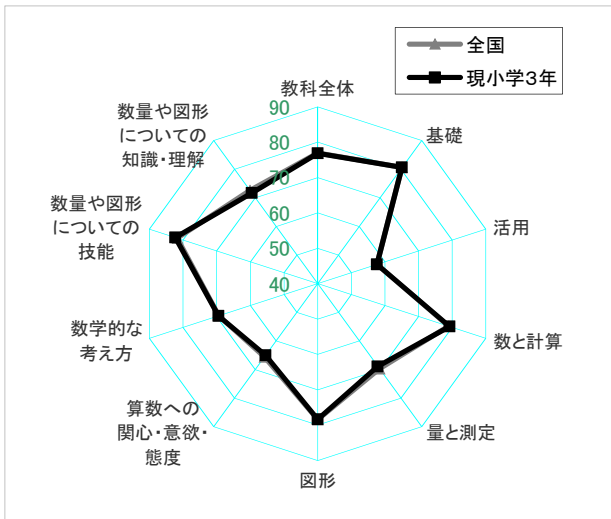


$$1 \text{ L} = 10 \text{ dL}$$

$$1 \text{ L} = 1000 \text{ mL}$$

小学 3年 算数

1. 全体傾向



コメント

全体的に見ると、全国正答率とほぼ同等の結果である。

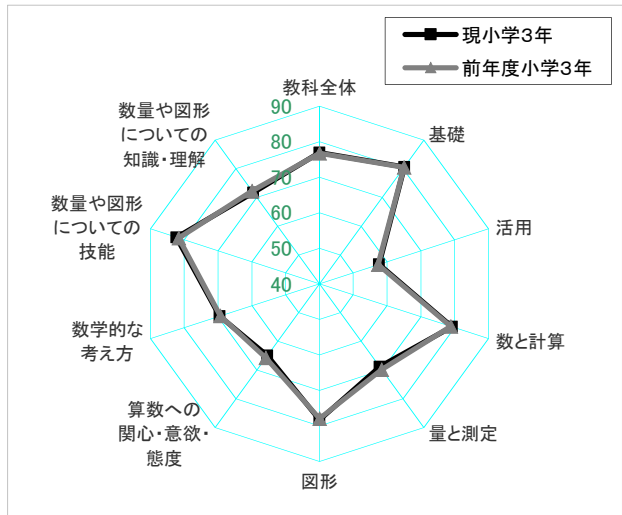
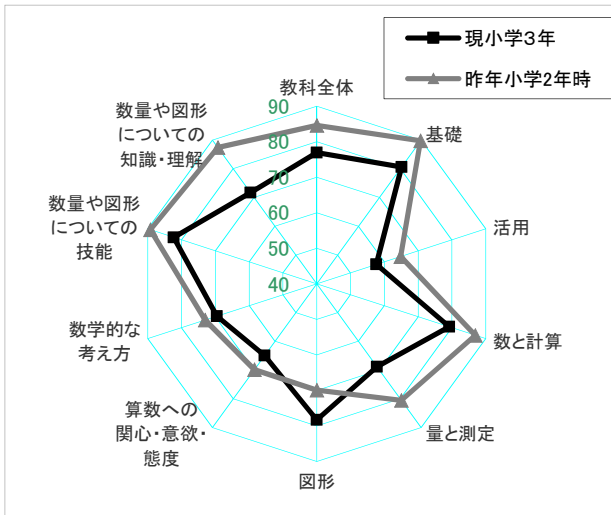
項目ごとに見ると、「活用」のみ50%台となっており、昨年度と同様に活用力を高める指導が、求められている。

問題別に見ると、全国正答率を2ポイント以上、下回ったのは、以下の設問である。

- ・数の相対的な大きさ
- ・1時間=60分であることを理解し、時間を求める

全国正答率を5ポイント以上、下回ったのは、以下の

2. 経年変化



コメント

昨年度と比べると、全体的に正答率が8ポイント近く下がっているが、昨年度と今年度の全国正答率を比較しても同様な状態であるため、問題傾向が変化したことによる正答率変化と考える。

コメント

平成26年度の小学校3年生と比べると、ほぼ同等であるが、小学校2年生と同じように「関心・意欲・態度」が僅かではあるが、下がっているのが気になるところである。

昨年度比べて、5ポイント以上下がった問題は、全国

3. 強みと弱み

○児童の平均正答率からみると、今回出題された学習内容についてはおおむね身に付いていると考えられる。

●課題のある問題を見ると、次の3点の対策が考えられる。

- ・日常生活の場面で、学習したことを用いて問題を解決する活動を通して、理解を深める指導をする。
- ・具体的な操作活動(紙を折る, 切る, 実際に測るなど)を多く取り入れ, 実感を伴った指導をしていく。
- ・判断や考えの誤りを指摘する場合, どの部分がどのように誤っているのかを明確にして, 根拠を示しながら説明したり, どのように修正すればよいのかを検討したりする活動を取り入れる

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 授業改善の方向

第3学年の「数量の関係を表す式」の指導では, 具体的な場面に対応させながら, 数量の関係を式に表すことができるようにするとともに, 式が表している場面などの意味を読み取ったり, 式を用いて自分の考えを説明したり, 式で処理したり考えを進めたりするなど, 式を使いこなすことができるようにする。

(2) 効果的な指導例

5本1たばになったチューリップの花束が, 3たば入った箱があります。
この箱が4箱あるとき, チューリップは全部で何本になりますか。

式の意味を考える



$$5 \times (3 \times 4) = 5 \times 12 \\ = 60$$

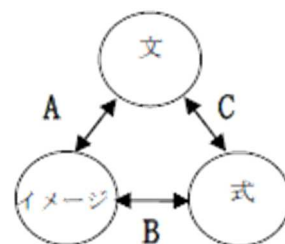
たばの数を先にもとめた。



$$(5 \times 3) \times 4 = 5 \times 12 \\ = 60$$

ぼくは...

- 立式の際に, 図や半具体物を用いて場面をとらえる活動を大切にする。それにより数量の関係と, 問題場面を捉えやすくなることに気づかせ, 計算方法や理由を端的に言えることが大切である。



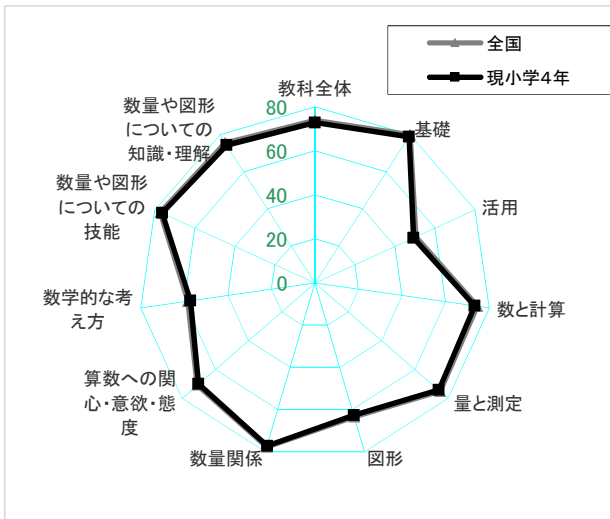
- 立式から友達の考えを推測したり, 話し合ったりする活動を取り入れることで, 式の意味を場面と結び付けて説明できるようにする。

《ワンポイントアドバイス》

- 「はじめに」「つぎに」という言葉があると, 説明としてとても分かりやすくなります。しかし, 算数科における言語活動の充実として, つなぎ言葉の評価が対象ではありません。何を評価するのか, その時間でどんなことを身につけたいのかをイメージして授業をすることが大切です。算数科における言語活動によって, 「思考力・判断力・表現力」が身についたことを評価します。

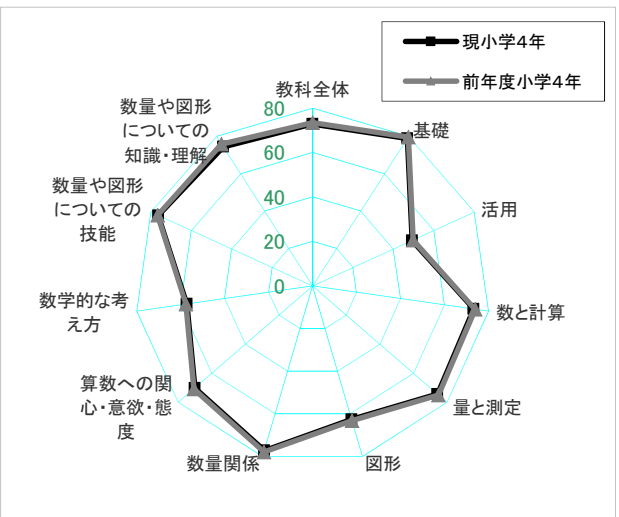
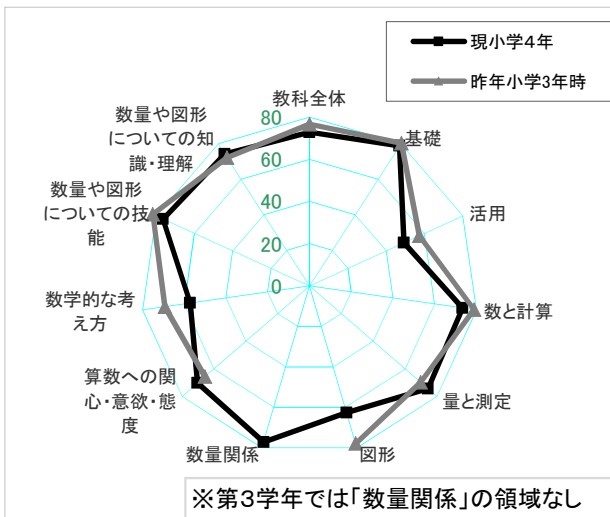
小学 4年 算数

1. 全体傾向



コメント
 ・4年生算数を見ると、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。
 ・計算の基礎的技能が高い。また、「数と計算」における小数の問題や「数量関係」における棒グラフの有用性や特徴を理解する問題は全国を10ポイント以上上回る。
 ・「量と測定」における身近にあるものの重さを推察する問題の正答率が低い。学習内容と生活経験を結びつけて考えられていないことやグラムなどの単位がどのくらいの重さを示しているのかが理解できていないためである。

2. 経年変化



コメント
 ・小学3年時と比べると、「算数への関心・意欲・態度」や「数量や図形についての知識・理解」が向上した。一方、「数学的な考え方」や「数量や図形についての技能」は低下した。
 ・「図形」の低下が顕著である。

コメント
 ・平成26年度の小学4年と比べると、ほぼ同程度である。

3. 強み(○)と弱み(●)

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身につけていると考えられる。
- たし算やひき算などの基礎的計算技能が高く、小数や分数の仕組みを知り計算も十分理解している。
- 「算数への関心・意欲・態度」が高く、これまでの算数に対する知識や理解も定着している。
- 「量と測定」領域で、身近にあるものの長さや重さを測定・推測し、適切な単位を考えたり、「図形」領域では、様々な図形の定義をもとに、筋道を立てて考えたり、体験的活動を行う必要がある。
- 筋道を立てて考えをつくり、表現方法を工夫しながら、図や式、算数用語を適切に使って分かりやすく説明する活動を充実させていく必要がある。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 授業改善の方向

- 観点 言語活動の充実（思考・判断・表現）
- ・話し合い活動で考えを深める
 - ・課題解決のための授業づくりの視点
- 視点1・・・筋道立てて考える学習活動を行う
- 視点2・・・意図的に表現する場面を取り入れる
- 視点3・・・集団の力を生かす

【出展名 千葉県教育委員会 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムより】

(2) 効果的な指導例

「量と測定」における身近にあるものの重さを推察する問題

下の1～4の中で、重さがだいたい300gのものはどれですか。

- 1 卵の重さ
- 2 自転車1台の重さ
- 3 500円玉3まいの重さ
- 4 りんご1この重さ

<グループ学習・問題解決型学習>

ステップ1	見出す	身近にあるものの重さを予想させる。
ステップ2	調べる	グラムなどの単位がどのくらいの重さを示しているのか体験させる。
ステップ3	深める	再度、ものの重さを予想させる。
ステップ4	まとめあげる	天秤ばかりやバネばかり等を使って実測させる。

【出展名 千葉県教育委員会 「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムより】

<ワンポイントアドバイス>

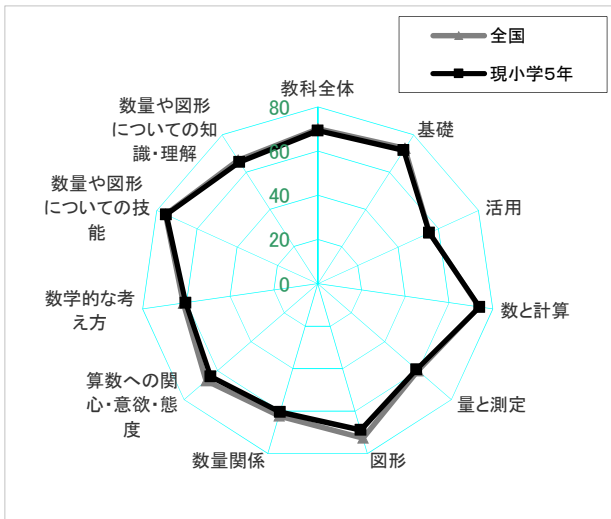
算数・数学的活動の例

- 作業的・体験的な活動
- 具体物を用いる活動
- 実態や数量等を調査する活動
- 探究・発展・応用的な活動

【出展名 千葉県教育委員会 「学びの突破口ガイド」より】

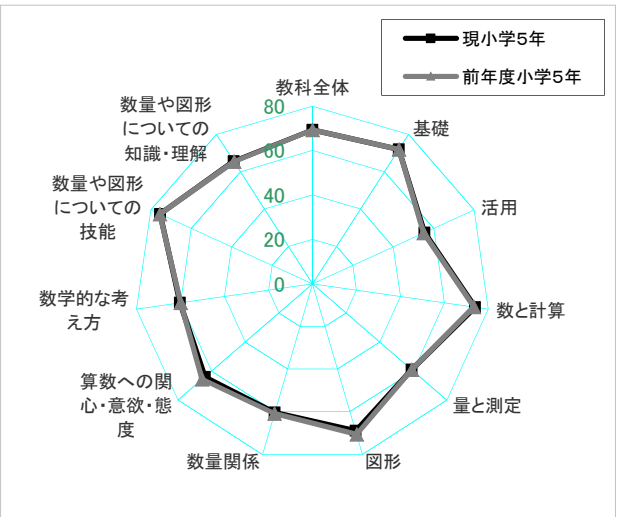
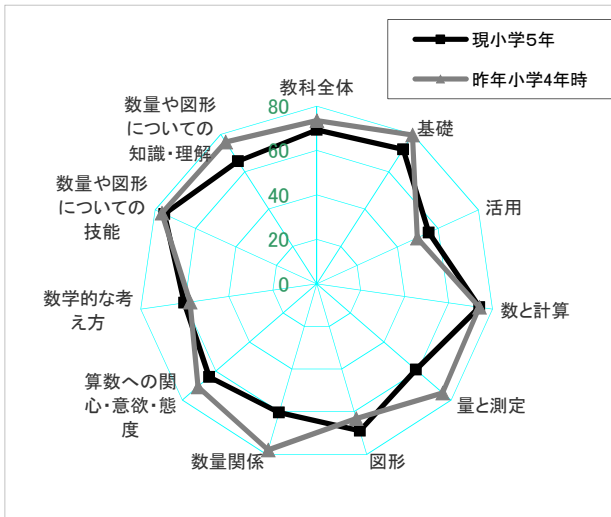
小学 5年 算数

1. 全体傾向



コメント
 ・5年生算数を見ると、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。
 ・「数と計算」における文章問題を解くための整数÷整数＝小数第一位の除法の立式に関する問題の正答率が高い。
 ・計算の基礎的スキルは高いが、全国的な傾向と同様に、「数と計算」における、わり算の正答率が低い。
 ・昨年度と同様に全国的な傾向とも言えるが、「数量関係」における伴って変わる2つの数量関係から記号を使った式に表す問題の正答率が低い。

2. 経年変化



コメント
 ・小学4年時と比べると、「活用」「図形」「数学的な考え方」が向上した。
 ・昨年度と同様に「量と測定」「数量関係」の低下が顕著である。

コメント
 ・平成26年度の小学5年と比べると、ほぼ同程度である。

3. 強み(○)と弱み(●)

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身につけていると考えられる。
- 基本的な四則計算のスキルが高く、四則混合や小数、分数の計算も十分理解している。
- 全国と比較して「算数への関心・意欲・態度」が高く、これまでの算数に対する知識や理解も定着している。
- 「数量関係」領域で、任意の数量を表すときに適したグラフは何かを考える。また、きまりをみつけて記号を使った式に表すことができるようにする必要がある。
- 筋道を立てて考えをつくり、表現方法を工夫しながら、図や式、算数用語を適切に使って分かりやすく説明する活動を充実させていく必要がある。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 授業改善の方向

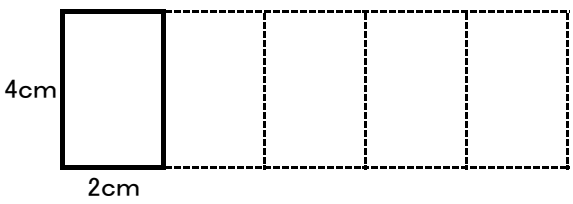
- 観点 言語活動の充実（思考・判断・表現）
- ・話し合い活動で考えを深める
 - ・課題解決のための授業づくりの視点
 - 視点1・・・筋道立てて考える学習活動を行う
 - 視点2・・・意図的に表現する場面を取り入れる
 - 視点3・・・集団の力を生かす

【出展名 千葉県教育委員会 「思考し, 表現する力」を高める実践モデルプログラムより】

(2) 効果的な指導例

「数量関係」における伴って変わる2つの数量関係から記号を使った式に表す問題

たてが4cm, 横が2cmの長方形があります。



たろうくんは, 横の長さが4cm, 6cm, ……になると, 面積はどのように変わるかを調べています。

横の長さ(cm)	2	4	6	8	……
面積 (cm ²)	8	16	24	32	……

横の長さを○cm, 面積を□cm²として, ○と□の関係を式に表しましょう。

<グループ学習・問題解決型学習>

ステップ1	見出す	既習事項や生活経験を基に予想させる。
ステップ2	調べる	具体物や図を描くことなどを通し, 変量を体験させる。
ステップ3	深める	自分の考えを表現し, 互いに伝え合う活動をさせる。
ステップ4	まとめあげる	言葉の式でまとめさせた後, ○や□などの記号を用いて表すことができるように指導していく。

【出展名 千葉県教育委員会 「思考し, 表現する力」を高める実践モデルプログラムより】

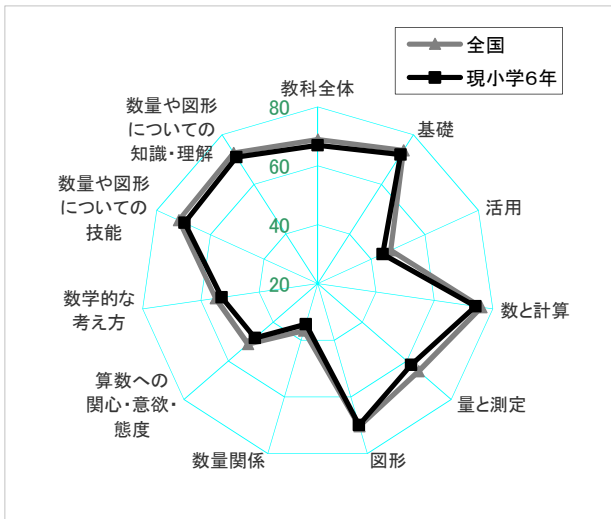
<ワンポイントアドバイス>

算数・数学的活動の例
作業的・体験的な活動
具体物を用いる活動
実態や数量等を調査する活動
探究・発展・応用的な活動

【出展名 千葉県教育委員会 「学びの突破口ガイド」より】

小学 6年 算数

1. 全体傾向

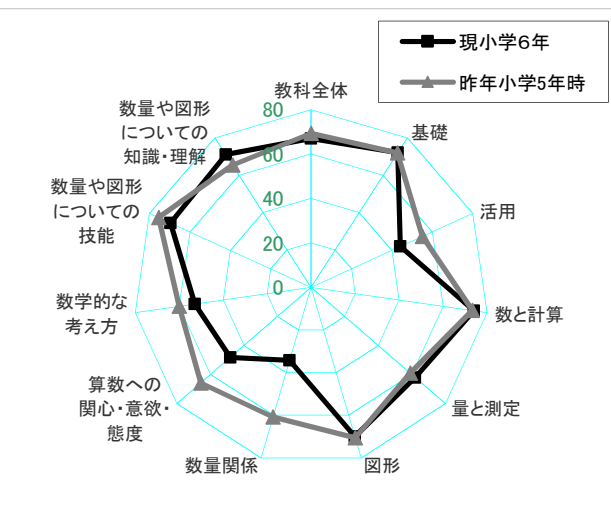


全体傾向は、全国平均を若干下回り、基礎内容に比べて活用内容が下回っている。

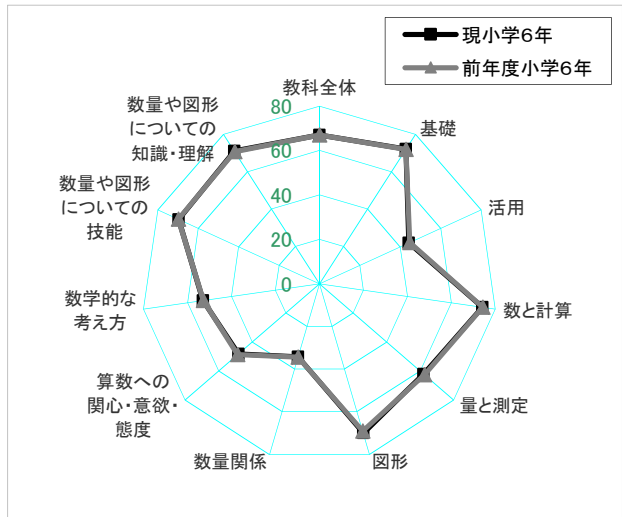
領域別では、数と計算と図形の分野は目標値が高く、数量関係の分野の目標値は低い、全国平均とほぼ同等である。量と測定の分野は全国との差が一番大きい。

観点別では、どの観点もやや下回り、算数への関心・意欲・態度が全国との差が一番大きい。

2. 経年変化



昨年の5年時と比べると基礎力はほぼ同等であるが活用力が大きく下回った。領域で顕著なのが数量関係で、大幅に下回っている。観点別では、知識理解は上まっているものの他の3つの観点は、下回り、算数への関心意欲態度が一番差が大きい。



前年度6年生との比較は、すべて1ポイント以下の差であり、ほぼ同等の傾向が見られる。

<強み>

- △「数と計算」分野では、計算の技能に高い定着率。
- △「図形」分野では、図形の角・円周を技能的に求める問題
- △「量と測定」の知識、技能を理解し求める面積や体積の問題

<弱み>

- ▼「数と計算」分野の小数・分数の計算の確実な理解
- ▼「図形」の思考・判断力を要する問題
- ▼「量と測定」の単位量あたりの大きさの内容
- ▼「数量関係」の百分率とグラフの内容

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 授業改善の方向

6年生の算数では, これまで学んだことをまとめたり, 中学校で学習する内容とつなげたりする意識をもつことが大切である。四則計算の使われる場面が様々であることを再確認したり, グラフや図にしたりする学びを価値付けながら既習内容を深めていく。

(2) 効果的な指導例

どんな場面の式なのかな?

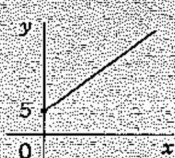
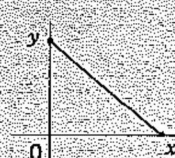

「文字を使った式」

- ①提示した式がどのような場面を表しているのかを考えさせる
- ②求残の場面である式について考えさせる
- ③比例の場面である式について考えさせる

できるだけ多くの子どもから多様な場面を引き出していくために, それらを部分的に紹介し, 他の子どもに続きを考えさせていくことがポイント!!

【本時の板書】

どんな場面の式なのかな?

① $x + 5 = y$	② $x + y = 32$	③ $y = 8 \times x$
<ul style="list-style-type: none"> ・ 5つ合わせる ・ 5人増える ・ 5台多い 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 片方ともう片方 ・ 読んだページと残りのページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ xの8倍 ・ 比例  <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> もしyが面積で底辺がxだったら8が高さ </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; width: 150px;"> もしyが周りの長さだったらxは正八角形の一辺の長さ </div> </div>

《ワンポイントアドバイス》

○表す

文字を使った式の様子を言葉やグラフに表す

○見えてくる!

四則計算それぞれの活用場面

簡単なたし算の場面だよ。
xが増えればyは5だけ大きくなるね

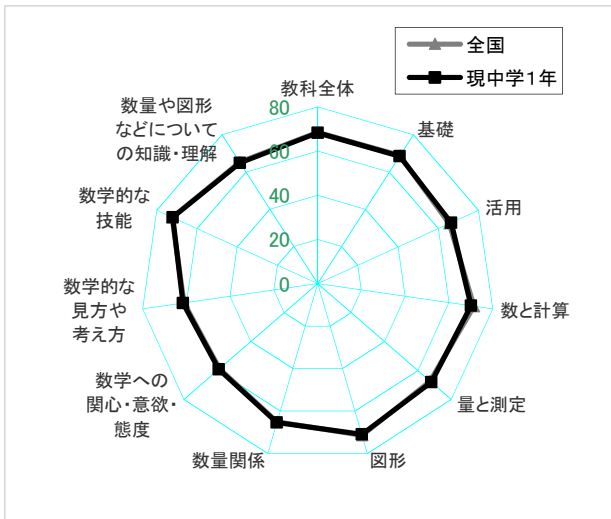
例えば本を「読んだページ」と「残りのページ」の場合だね

①と②の式は似てるけどグラフはだいぶ違うね

もしyが面積なら8もxも長さになるよ!

中学 1年 数学

1. 全体傾向

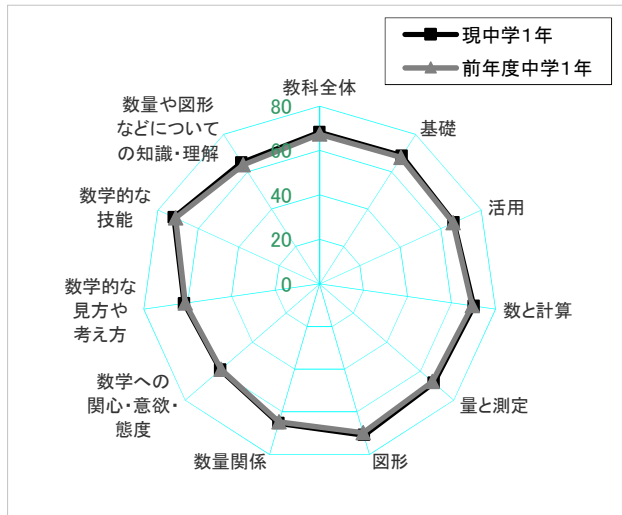
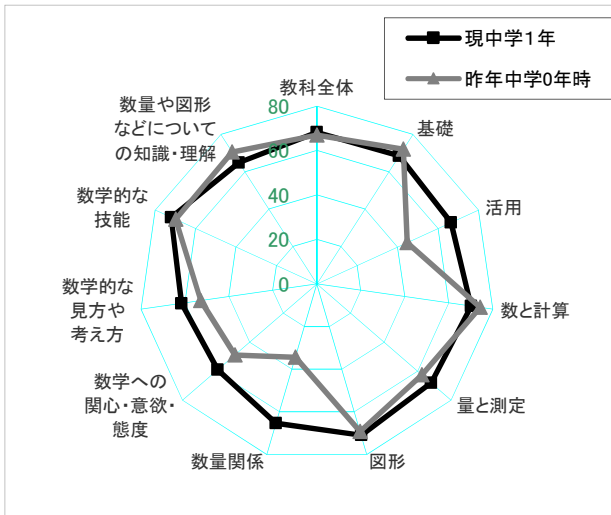


全体傾向は、すべての項目で全国と1ポイント未満でほぼ同等の数値である。

4つの領域の中で比べると数量関係が全体的に低い。

観点別では数学への関心・意欲・態度及び数学的な見方や考え方において低い傾向がある。

2. 経年変化



昨年度小学6年時と比べると基礎力が若干下がり、活用力が大幅に上昇した。領域別では数量関係が大幅に上昇し量と測定もやや上昇している。観点では知識・理解がやや下がっているが数学的な見方や考え方と数学への関心・意欲・態度が上昇し、全体的に平均化してきた。

前年度中学1年生徒の比較は、ほぼ同等の数値であるが、全項目において現中学1年生の方が上回っている。しかし、最大1.2ポイントの差である。

<強み>

- △「数と計算」の技能的な計算
- △「領と測定」の思考力を要する面積と体積の問題及び単位量あたりの大きさの考え方。
- △「図形」の平面図形の知識理解
- △「数量関係」の文字と式の技能と数学的な考え方及び棒グラフの読み取り

<弱み>

- ▼「数と計算」の分数の四則混合の計算
- ▼「図形」合同な四角形
- ▼「数量関係」2つの量が反比例している数量関係

4. 授業改善の方向、効果的指導例

(1) 授業改善の方向

1年では、身近な題材から、比例、反比例という2つの量の関係を見つけられるようにする。表、式、グラフなどを用いて説明することは容易でない。そこで自分の考えたことを説明補助シートにまとめ説明すべき事柄を明確にし、これを基に4人程度の班で他者に説明する流れをつくる。

(2) 効果的な指導例

右の表は、2004年に起きた新潟県中越地震における観測地7ヶ所の初期微動継続時間 x (秒間) と震源距離 y (km) をまとめたものです。 x と y の間にはどんな関係がありますか。

観測地	初期微動継続時間 (秒間)	震源距離 (km)
湯之谷	2.62	19.7
下田	5.25	39.4
上川	6.88	51.2
蒲原	7.62	67.1
加茂	6.88	51.6
川西	3.35	25.1
敦彦	8.33	62.5

○説明補助シートを活用して、根拠を明らかにして説明できるようにする。

見出した関係と、それをどのように見出したのかを説明しやすくするために、説明補助シート(ワークシート)を工夫した。自分の気づきや考えを明確にし、相手に説明しやすくなり、他者の説明を聞く際にも、注目すべき点が変わりやすくなり、説明が不十分な部分も明確になるので、その改善点等を指摘しやすくなる。

《ワンポイントアドバイス》

※言語活動に関する指導上の留意点
生徒が次の点に着目できるようにする。

- ①どのような表現を用いて、どのように表したのか。
- ②その結果、どのような関係に気付いたのか。
- ③その関係が成り立つことの根拠は何か。

地震の初期微動継続時間と震源距離の関係は？

説明補助シート

1年

班の人に説明する前に、自分の考えをまとめておきましょう。
【まとめ方の例】

x の値と y の値 を 表 に表し

x が何倍になっているときに、 y が何倍になっているかを調べた。(した)とこ

y が x に比例する ことがわかった
なぜなら、
 x が、約2倍になっているとき、約2.6倍になっている時に、 y も、約2倍になっている。また、約2.6倍になっている

からだ。

【自分の考え】

x の値と y の値 を 式 に表し

y を x を使って表。(した)とこ

y が x に比例する ことがわかった
なぜなら、
観測地7ヶ所、すべての初期微動継続時間と震源距離を調べると、おおよそ、 $y=1.75x$ の式で表わせることが分かった。

からだ。

図1 説明補助シートの記入例

【自分の考え】

x と y の値 を 表 に表し

x の比例定数をしらべた。(した)とこ

y が おおよそ x の1.75倍という ことがわかった
なぜなら、
 x が0にしたとき y が0になるため。

からだ。

図2 生徒Aの説明補助シート

【自分の考え】

x と y の関係 を グラフ に表し

どのような点の位置になっているかを見た。(した)とこ

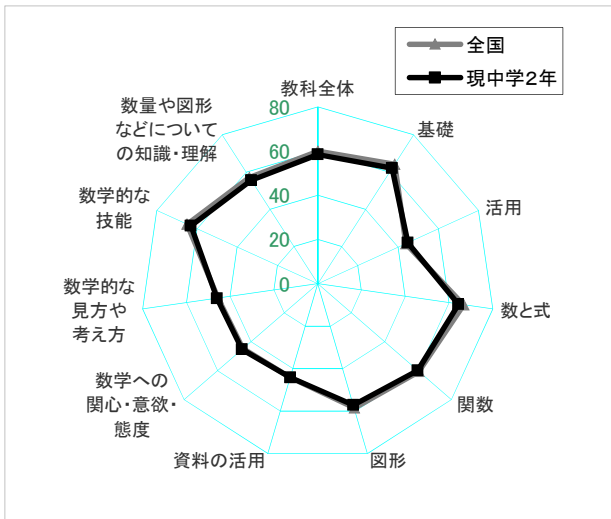
y が x に比例している ことがわかった
なぜなら、
原点から、それぞれの点の配置を見つみると、だいたい原点を通る直線になった

からだ。

図3 生徒Bの説明補助シート

中学 2年 数学

1. 全体傾向

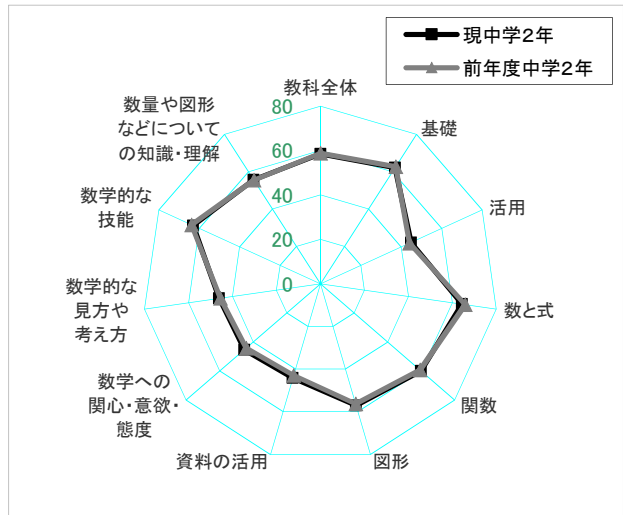
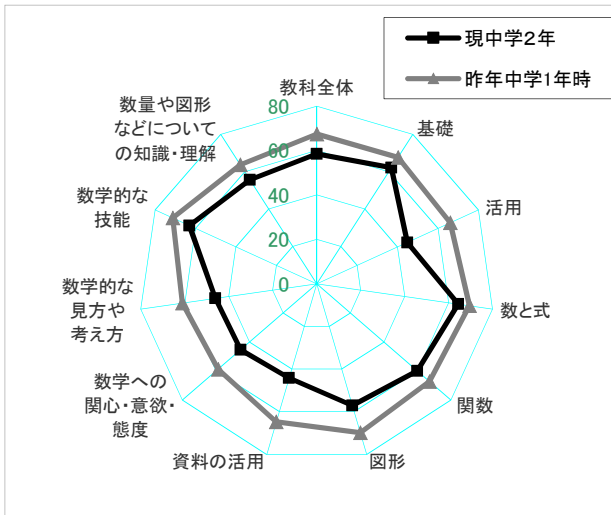


コメント

平均正答率に関しては、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

問題の内容面からみると、小学校の計算の復習や正の数・負の数の正答率が高いが、「数と式」領域の1次方程式の解法に関する「数学的な技能」は定着しているとは言えない。また、「関数」領域の比例の式からグラフをかいたり、条件に見合うグラフを選ぶなどの問題の正答率が低い傾向がある。

2. 経年変化



コメント

昨年の1年時と比べると、すべての領域・観点ともに下回っている。基礎内容はやや下回っている程度で、活用内容は大幅に下がっている。中学校数学の内容の難易度が高くなった影響によると思われる。

コメント

全体的に平成26年度とほぼ同等だが、正答率は若干下回っている。しかし、「資料の活用」の領域で全国を上回る問題がある。観点別では、「数学への関心・意欲・態度」と「数学的な見方や考え方」の観点でやや下回っていることで応用問題に弱い傾向がうかがえる。

3. 強みと弱み

○計算の復習や正の数・負の数の「数と式」領域の「数学的な技能」の観点で定着している。

○「図形」領域の空間図形の問題内容で、知識・理解の観点で定着している。

●「関数」領域の比例・反比例の内容において、式とグラフの読み取りの知識・理解と技能に課題がある

●「資料の活用」領域の「資料の散らばりと代表値」の内容で、知識・理解と考え方に課題がある。

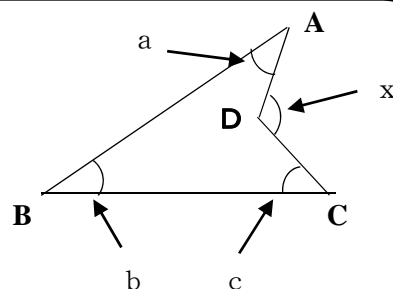
4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 授業改善の方向

第2学年の「基本的な平面図形の性質」の指導では, 論理的に筋道を立てた推論(帰納, 類推, 演繹)を行って図形を調べさせる。その際, 図形を観察したり, 作図したりする操作などの活動を通して, その推論の過程を自分の言葉で, 他者に伝わるように分かりやすく表現できるようにしたい。

(2) 効果的な指導例

右のような凹四角形で,
 $\angle a$, $\angle b$, $\angle c$, $\angle x$ の間には,
どのような関係があるでしょうか?
いろいろな方法で考えてみましょう。

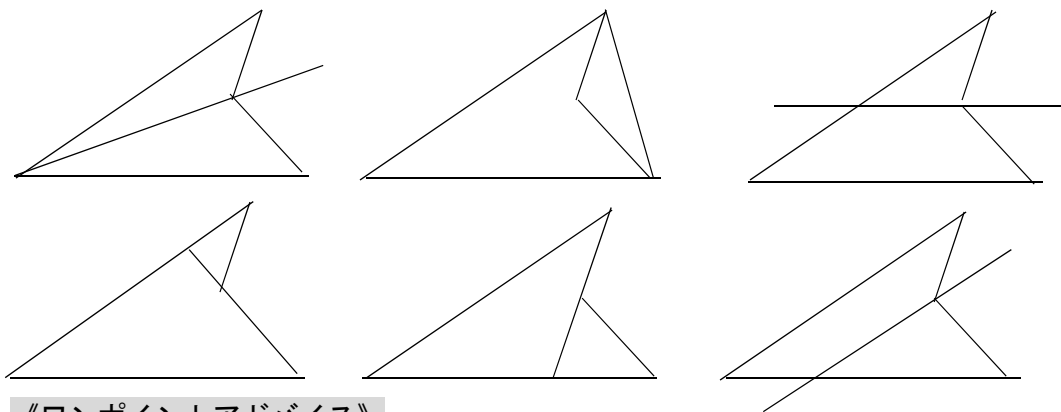


① 関係を帰納的に発見する

生徒が各自のノートに, 具体的な角度を決めて凹四角形をかき, 実測して角度を求めるが, 生徒が用いる数値が異なることから, 「 $\angle a + \angle b + \angle c = \angle x$ 」がいつでも成り立つのではないかと予想させる。

② 関係が成り立つことを演繹的に考える

帰納的に見出した関係が成り立つことを演繹的に考える場面では, いろいろな補助線の説明や根拠となる説明をノートに書かせたり, そのノートを見せ合ったりしながら, 口頭で伝えられえようにする。



《ワンポイントアドバイス》

○伝え合う活動を通して, 自分の説明の改善を図るようにする。

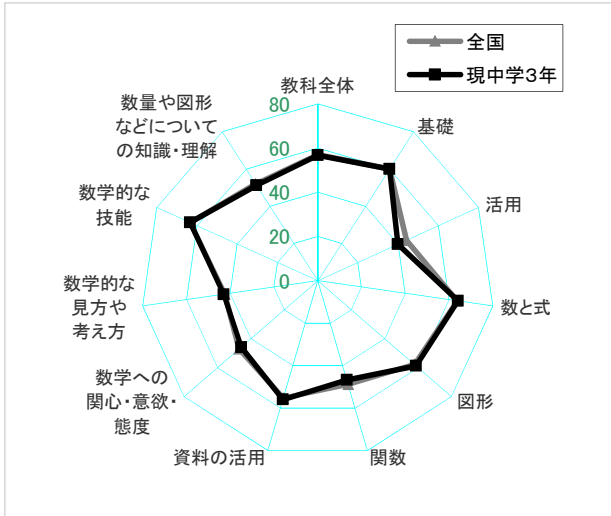
多様な方法で解決できる問題では, 自分の考えを他者に説明する活動を充実する。

○伝え合う活動において, 他者の考えを読み取ることができるようにする。

例えば, 図に補助線を入れたところで, 相手の生徒にそこからどのように考えられるのかを推測させ, 説明させることも考えられる。

中学 3年 数学

1. 全体傾向

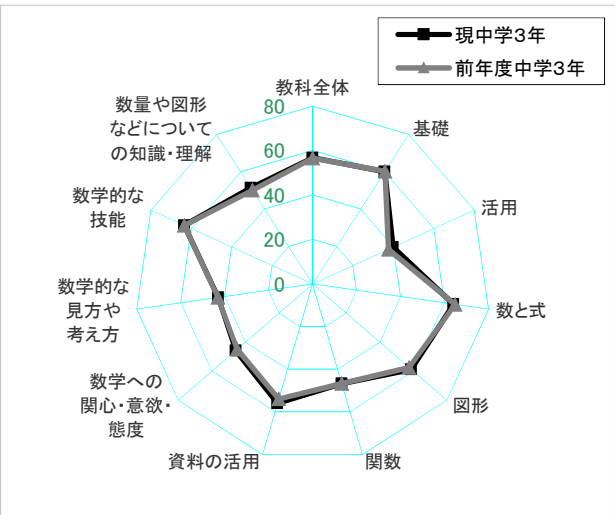
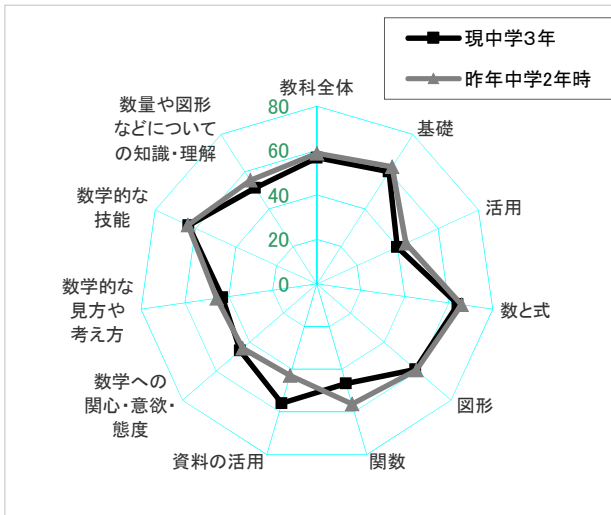


コメント

平均正答率に関しては、全国とほぼ同程度で、良好な状況である。

問題の内容面からみると、全国的な傾向として、計算の復習や図形の性質の正答率は高く、「数と式」と「図形」の領域の「数学的な技能」は定着している。その反面、1次関数と証明問題の正答率が低く、「数学的な見方や考え方」が定着していない傾向がある。

2. 経年変化



コメント

昨年の2年時と比べると基礎・活用内容ともに下回り、「数量や図形などについての知識・理解」の観点も下がっている。領域別でみると「関数」分野が大きく下回っているが、図形と関数が融合した総合問題によると思われる。

コメント

基礎内容は、平成26年度とほぼ同じであるが、活用内容で下回っている。「数学への関心・意欲・態度」と「数量や図形などについての知識・理解」の観点で下回っていることは、じっくり考えて答える問題に弱い面がうかがえる。

3. 強みと弱み

○計算の復習や式の計算の「数学的な技能」の観点は、全国平均を上回り、定着している。

○「図形」領域の図形の性質の問題内容で、知識・理解と技能の観点が定着している。

- 「関数」領域の1次関数の内容において、グラフを読み取る知識・理解を要する問題での正答率が低い。
- 連立方程式の問題文とそれを解くための連立方程式を読み取り、 x と y が何を表すのかに課題がある。
- 「図形」領域の証明問題の正答率が低い。
- 「資料の活用」領域の確率は、技能に課題がある。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

(1) 授業改善の方向

第3学年の「整数の性質を文字式を利用して証明する」の指導では、帰納的に推測した数の性質が成り立つことを、文字を使って演繹的に考察して証明する経験を積ませる。その際、数学的な表現を用いて根拠を明らかにし、筋道立ててお互いに説明し合う活動を取り入れるようにする。

(2) 効果的な指導例

連続する2つの整数の2乗の差について、
どのようなことが言えるかを予想しましょう。
また、それが成り立つ理由を説明しなさい。

$$\begin{aligned}5^2 - 4^2 &= 9 \\6^2 - 5^2 &= 11 \\13^2 - 12^2 &= 25 \\(-2)^2 - (-3)^2 &= -5\end{aligned}$$

① 自力解決でのノートづくりの工夫

自分の考えを持った上で、他者との交流の場に臨むことにより、生徒同士の「学び合い」を深めることをねらうための前提として、ノートには結論だけでなく、自分はどのように考え、どのような結論に至ったかを記述させる。その際、「あとで自分が見て分かるように記述する」や「他の人が見ても分かるように記述する」の2点を意識づける。はじめは十分に書き表せなくても、少しずつ自分の考えたことをまとめられるようにしていく。以下にポイントを2つ示す。

- ・既習事項等や思いついたことをメモ的に書かせる。
- ・式だけにこだわらず、自分の言葉（文章）を書き加えさせる。

すべての結果は奇数ばかりだ！

$$\begin{aligned}(n+1)^2 - n^2 &= n^2 + 2n + 1 - n^2 \\&= 2n + 1 \\&= n + (n+1)\end{aligned}$$

小さい方をnとすると、大きい方は1だけ大きいので、n+1になる！
だから式は、・・・と表せる！

② 自力解決において他者と交流する場で工夫

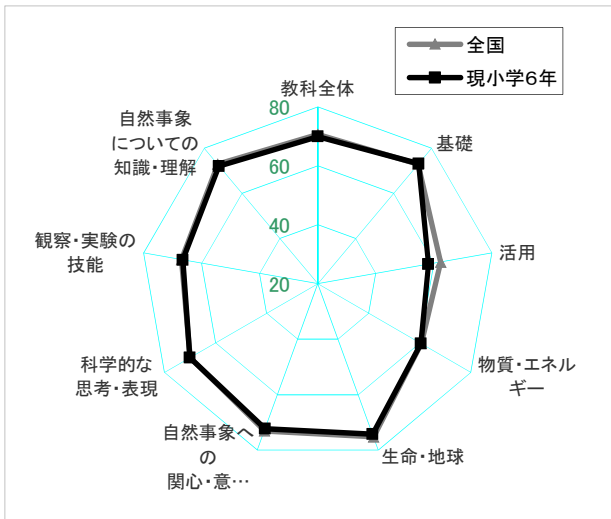
全体で比較検討する前に、論証が苦手な生徒は自力での解決が難しいので、近くの生徒どうし（ペア）で、自分がどのように考えたのかを説明する。このことで授業への参加意欲を引き出すようにする。具体的には、ノートを基にして、自分の考えと相手の考えの共通点や相違点を浮き彫りにさせる。特に説明に自信がもてない生徒には、他者との交流を通し、その良い点や参考になる点などを自分の説明に取り入れられるようにする。

《ワンポイントアドバイス》

- 自分の考えを簡潔、明瞭、的確に伝えることができたか？
- 相手にわかりやすい説明を意識できたか？ 等を評価規準にする。

小学 6年 理科

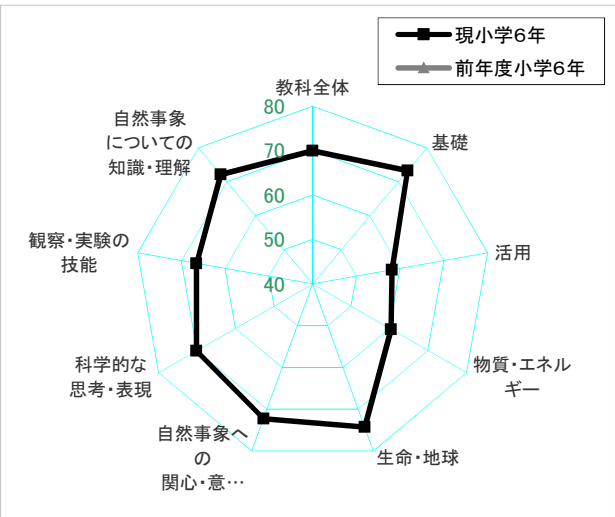
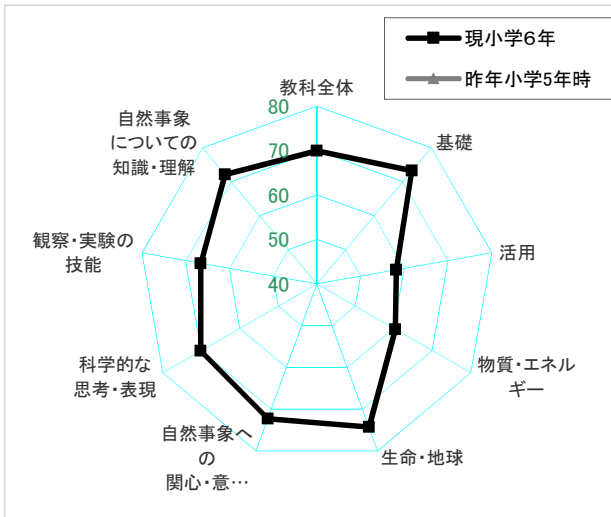
1. 全体傾向



コメント

- ・学習の到達度は、全国平均とほぼ同等か、やや下回る。
- ・「活用」に課題がある。
- ・「自然事象への関心・意欲・態度」「自然事象についての知識・理解」を問う問題において、全国平均をやや下回っている。
- ・「科学的な思考・表現」については、おおむね身についている。
- ・領域による到達度の差はない。単元ごとの差がある。
- ・「物質・エネルギー」「生命・地球」の2領域とも、全国平均をやや下回っている。

2. 経年変化



コメント

第5学年では柏市学力・学習状況調査の理科を実施していない。

コメント

・昨年度、第6学年では柏市学力・学習状況調査の理科を実施していない。

3. 強みと弱み

〈強み〉

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身についていると考えられる。
- 「けんび鏡の使い方」は、おおむね身についていると考えられる。
- 「生命・地球」領域の「植物の発芽と成長」「植物の花のつくりと実」の学習はおおむね良好である。
- 「物質・エネルギー」領域の「ふりこのきまり」の学習は概ね良好である。

〈弱み〉

- 「活用」の学力到達度がやや不十分である。観察・実験の結果から考察することに課題がある。
- 「魚と人のたんじょう」に誤答、無回答が多い。へその緒とつながっている部分を答えられない。
- 「植物の発芽と成長」に誤答、無回答が多い。ヨウ素デンプン反応と植物の発芽と結びついていない。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

(1) 授業改善の方向

小学校の理科では，実感を伴った理解が深まるように，観察や実験の中に具
体物の操作を多く取り入れ，体感し実感を持たせることが大切である。

そのために，観察や実験において「何のための観察・実験」なのかを，学習
問題の内容を子どもたちに意識させることが重要である。

さらに，科学的な見方や考え方が深まるように，予想・仮説と結果を関係づ
けながら言葉と体験を結びつけて考え，考察を言語化し表現するようにしたい。

生活科との関連も考慮しながら，目的を持った観察や実験を通じて「体験活
動」と「言語活動」を充実させ，学びの質を向上させたい。

(2) 効果的な指導例

☆ 指導・学習活動例 ☆

- 視点をもって観察記録を整理し，差異点や共通点について分析することが
できるようにする。

自然の事物・現象を多面的に考察するためには，視点を明確にしなが
ら観察記録を整理し，差異点や共通点に着目して分析することが大切である。

よって，指導に当たっては，観察記録を一覧できるように並べたり，表に整理
したりして，差異点や共通点に着目しながら気付いたことを話し合い，考察でき
るようにすることが重要である。

例えば，魚の育つ過程や人が母体内で成長する様子，植物の発芽と成長の様子
を調べ，養分のとり方という視点で話し合いながら観察記録を整理することで，
成長の様子と養分のとり方とを関係付けながら考察することができる。

また，メダカの稚魚のおなかのふくらみが成長に伴って小さくなったり，発芽
したインゲンマメの子葉が成長に伴ってしぼんできたりする様子を比較すること
で，生物の成長と養分のとり方についての共通性を考察することができる。

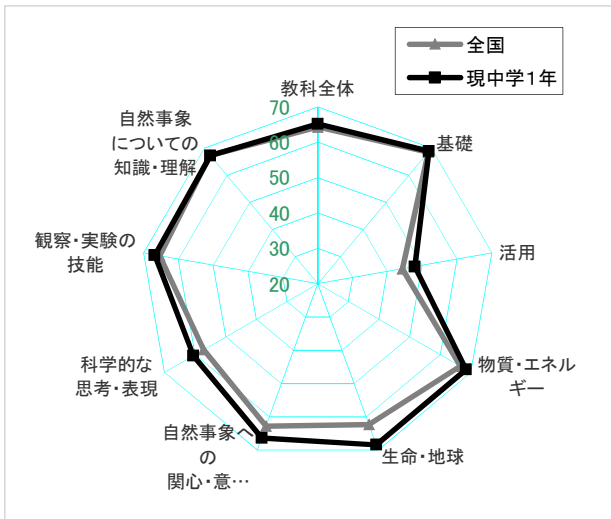
児童が動植物の世話をしながら，継続的に対象にかかわる場を保障しつつ，観
察記録を生かした教師の適切な働きかけが大切である。

<観察したことや調べたことを記録したカードを養分のとり方で整理した例>

もともと持っている 養分を使っている	自分でほかの生物の 養分をとり入れている	母親から養分を もらっている
 メダカ 受精後12日目	 メダカ	 人 受精後8日目
 インゲンマメ 種まき後2日目	 人	 人 受精後24日目

中学 1年 理科

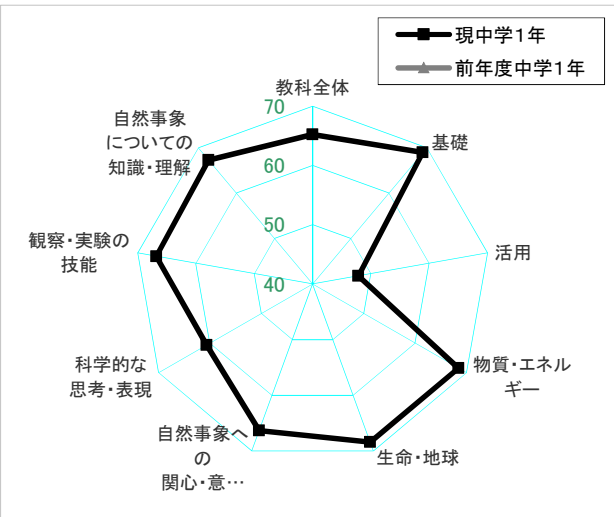
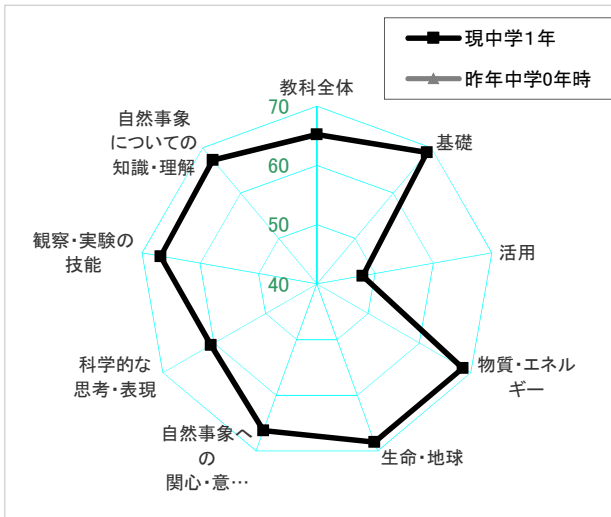
1. 全体傾向



コメント

- ・学習の到達度は、全国平均を上回っている。
- ・「活用」で全国平均を大きく上回っている。
- ・「自然事象への関心・意欲・態度」「科学的な思考・表現」を問う問題において、全国平均を上回っている。
- ・「観察・実験の技能」はおおむね良好。
- ・「自然事象についての知識・理解」を問う問題において、全国平均をやや下回っている。蒸散のはたらきなどの定着に課題がある。
- ・領域による到達度の差はない。単元ごとの差がある。
- ・「生命・地球」で、全国平均を大きく上回っている。

2. 経年変化



コメント

・昨年度、第6学年では柏市学力・学習状況調査の理科を実施していない。

コメント

・昨年度、第1学年では柏市学力・学習状況調査の理科を実施していない。

3. 強みと弱み

<強み>

- 全体的には今回出題された内容については、おおむね身につけていると考えられる。
- 「気体検知管や顕微鏡の使い方」は、おおむね身につけていると考えられる。
- 「生命・地球」領域の「月と太陽」の学習はおおむね良好である。
- 「物質・エネルギー」領域の「物の燃え方」「てこのはたらき」の学習は概ね良好である。

<弱み>

- 「自然事象についての知識・理解」がやや不十分である。考察やまとめの過程で理解が十分ではない。
- 「植物のつくりとはたらき」に誤答、無回答が非常に多い。重要語句を理解していない。
- 「生物とかんきょう」に誤答、無回答が多い。複数の資料から理由を考察し説明することに課題がある。

4. 授業改善の方向，効果的指導例

(1) 授業改善の方向

中学校では，観察・実験の結果を分析して解釈する能力や，導き出した自らの考えを表現する能力の育成を目指している。そのためには，教科を横断した「言語活動の充実」が重要である。

生徒が教えあい，学び合う時間を設けることにより，知識の定着はもとより，生徒に自己決定の場面を与え，自己肯定感や自己有用感を育むことができる。加えて，観察・実験前後の時間を充実させていくことで，生徒に主体的な学びを促すことになる。

【観察・実験の「意義づけ」】

- **本時のねらいを明確にして**，子どもと共有し，観察や実験に意味を持たせる。
- **学習問題，予想，結果，考察，まとめの時間を確保する。**

【観察・実験の「価値づけ」】

- **グループ，ペアなど話し合う時間を設け**，用語・原理・法則への理解を深める。
- **まとめを子どもと共に練り上げたり，自分の言葉で書かせたりする。**

(2) 効果的な指導例

☆ 指導・学習活動例 ☆

○ 目的に沿った実験を計画したり，根拠を示して考察したり，性質に応じた用途を科学的な概念を使用して考えたり説明したりする。

第1分野・第1学年 物質のすがた（物質の区別の仕方）

1 ねらい

代表的なプラスチックに関心を持ち，計画立案した実験方法で性質を調べることができる。

2 本時の展開と言語活動の充実の工夫

○実験方法を計画立案する学習活動

- 導入として代表的な5つのプラスチックを提供し，見た目では見分けにくいことを実感させ，見分けけることを学習課題とした。
- 性質を掲載したワークシートを配付し，実験方法を計画立案させた。
- 計画立案した方法をワークシートに手順も含めて記述させ，学級全体で考えを発表し合う機会を設け，再考させた。

○結果を分析し解釈する学習活動と自己評価

- 結果を表の形式で表し，提供されていた性質と実験によって得た結果を分析・解釈し，5つのプラスチックを同定した。
- 計画した方法に沿って実験を行わせ，結果を表にまとめさせ，班で結論付けさせる。
- まとめと振り返りを記述させ，自己評価とした。

○定型文を中心とした表現技能の習得と根拠を明確にして説明する学習活動

- 結論を学級全体で共有し，異なる結論について検討し合ったり，再実験したりさせた。
- 定型文「(結論)である。なぜならば，(分析・解釈・判断)だから。」を用いた表現技能の習得。各班の結論を，学級全体で共有させた。
- 異なる結論に，4番のプラスチックがあった。ポリスチレン(P S)であることを結論付けたコミュニケーションボードは，分かりやすい言葉を選んで表すことができている。
- まずは，結論を表すことで，課題への意識のぶれがなくなった。そして，なぜならばの後に，実験によって得られた結果を踏まえ，根拠を明確にして説明している。
- 定型文による表現は，科学的な視点を自分の言葉で表現することになる。内容も分かりやすくなったとする生徒も多くなる。

文部科学省
「言語活動の充実に関する指導事例集【中学校版】」より

プラスチックの種類	PE	PVC	PP	PET	PS
密度	約0.94	約1.40	約0.91	約1.38	約1.04
熱に対して	大変強く，縮まる	熱に強く，少し柔らかくなる	比較的強く，変形しやすい	強く，変形する	柔らかく，変形する

2. 実験方法と手順，計画（見直しをもった実験方法や手順を考え，計画を立てよう）

① 水に浮かぶか沈むか → PE or PP / PVC or PET or PS に！
 ② 熱に → ③ 食塩水に → 浮かぶなら PS → 縮むなら → PVC or PET をあげる
 PE → 白ぼろになったら PVC

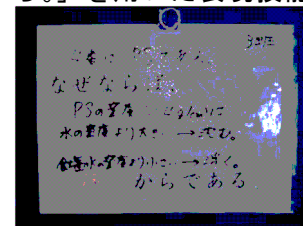
資料1 ワークシート1（プラスチックの一部の性質と班で計画立案した方法と手順）

結果	PET	PE	PVC	PS	PP
水に沈む	沈む	沈む	沈む	沈む	沈む
熱に		縮む			変形×
食塩水	沈む		沈む	沈む	
曲げる	変形×		白ぼろ		

3. 結果をまとめる（自分の考えをまとめ，自分の結果を振り返る）

今までプラスチックなんて全て一緒だと思っていたけど，色んな種類のプラスチックがそれぞれに性質があるのでもう少し調べてみたい。

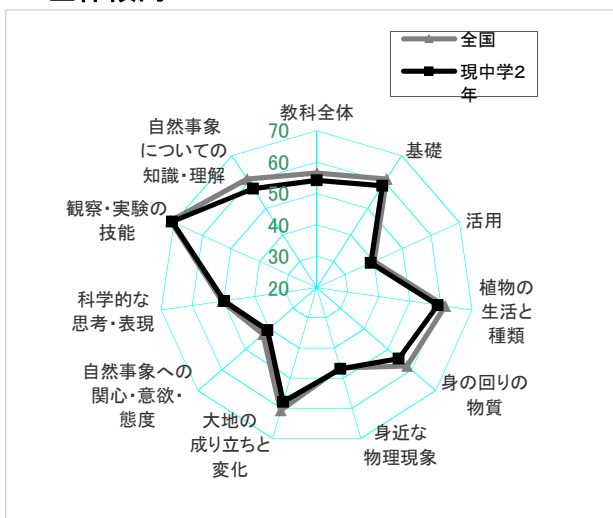
資料2 ワークシート2（結果の表と結論，まとめと振り返り）



資料4 交流が深まったコミュニケーションボード

中学 2年 理科

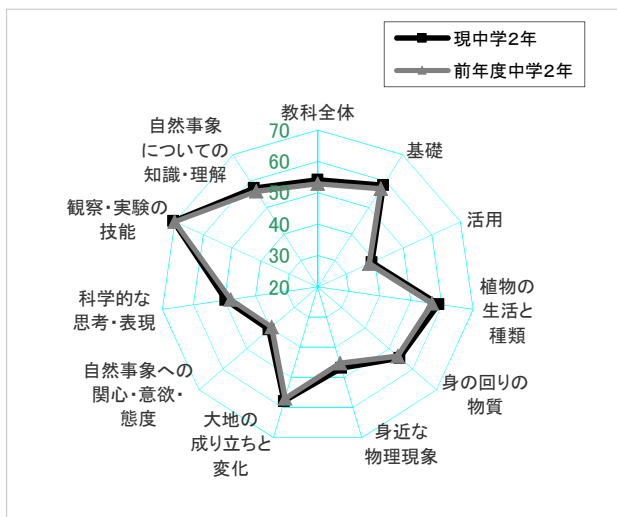
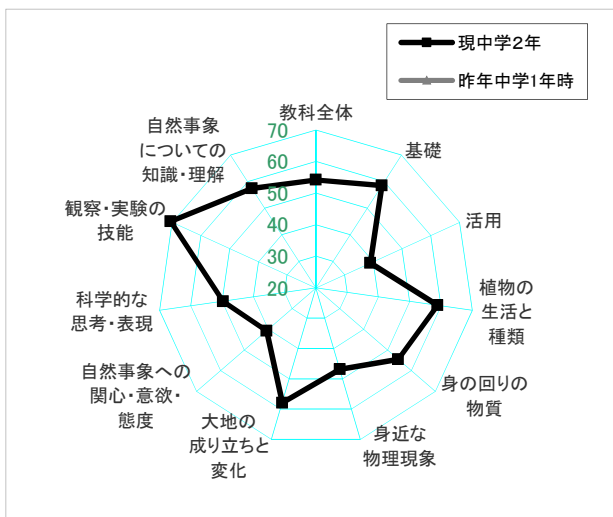
1. 全体傾向



コメント

- ・学習の到達度は、全国平均とほぼ同等か若干下回るものである。
- ・「自然事象についての知識・理解」「自然事象への関心・意欲・態度」を問う問題において、全国平均を下回っている。
- ・「観察・実験の技能」については、身についている生徒が多い。
- ・「植物の生活と種類」「身の回りの物質」「大地の成り立ちと変化」の領域の学習には課題がある。
- ・「身近な物理現象」の領域の学習は概ね良好である。

2. 経年変化



コメント

- ・昨年度は中学1年時の調査は実施していない。

コメント

- ・昨年度は2年前と比較して各項目ともに若干低下が見られ、特に「活用」と「自然事象への関心・意欲・態度」の低下が大きかった。今年度は昨年度とほぼ同様の結果である。

3. 強みと弱み

<強み>

- ・「観察・実験の技能」が身についている生徒が多い。
- ・「身近な物理現象」の学習は概ね良好である。

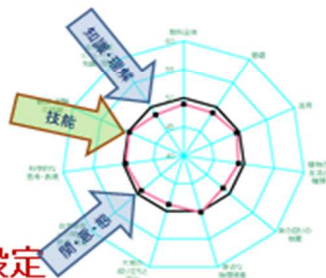
<弱み>

- ・「基礎」「活用」ともに学力到達度がやや不十分である。
- ・「自然事象への関心・意欲・態度」が不十分である。
- ・「自然事象についての知識・理解」がやや不十分である。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

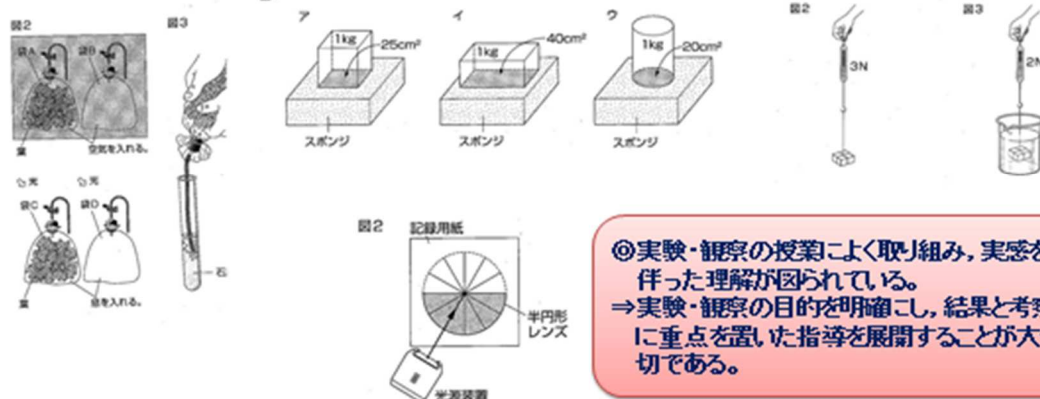
○観点からの改善の方向

- 「実験・観察の技能」については, 身につけている生徒が多い。
→ 実験・観察を重視した授業展開がなされている。
- 「自然事象への関心・意欲・態度」に課題がある。
- 「自然事象についての知識・理解」に課題がある。
→ 興味・関心・意欲を高める
 - 教材の工夫・開発
 - 身近な現象や日常生活との関連づけ
 - 授業の導入の工夫
- 知識を活用する場面を設定する
 - 用語や原理・法則を使用して書く・話す場の設定
 による知識の定着と理解の促進



○正答率が高い問題からの改善の方向

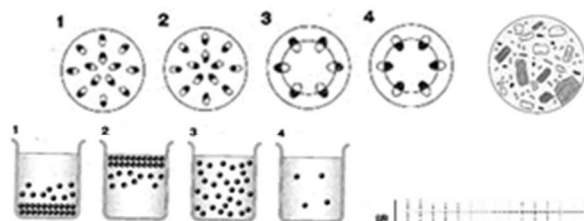
- 「ヨウ素反応からデンプンをつくった葉を指摘する」
- 「力と浮力」「光の屈折」「密度を求め金属を区別」



◎実験・観察の授業によく取り組み, 実感を伴った理解が図られている。
⇒実験・観察の目的を明確にし, 結果と考察に重点を置いた指導を展開することが大切である。

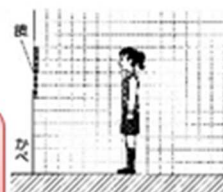
○誤答が多い問題からの改善の方向

- 「植物の分類」(思)分類図における分類の観点
- 「シダ植物やコケ植物は何でふえる」(知)胞子
- 「植物の水の通り道」(知)
- 「火山岩のつくり」(知)斑状組織
- 「重量パーセント濃度を求める」(知)
水100gの砂糖25gの砂糖水
- 「水溶液の粒子モデル」(思)
- 「鏡に全身を映す方法」(思13.3%)
- 「示準化石の特徴」(思7.2%)



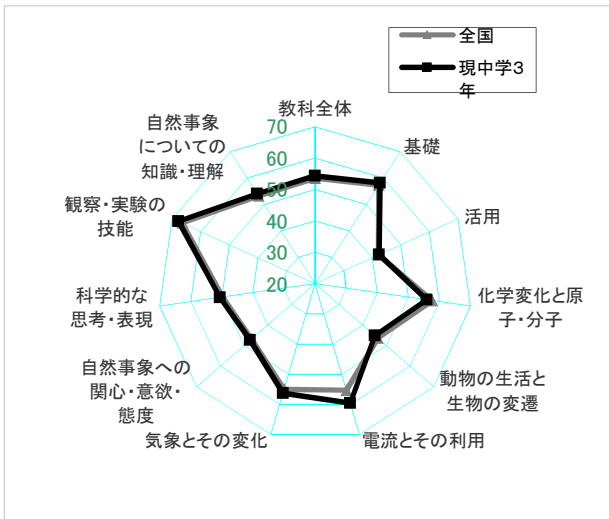
限られた時代に広い地域に栄えた生物

★知識・理解の定着が不十分な領域がある。
★説明や理論的に思考することは苦手な傾向がある。
⇒繰り返し学習して知識・理解を定着させるだけでなく, 生徒が用語や原理・法則を活用して活動する場の設定(用語や原理・法則を使用して書く・話す・作業するなどの場の設定)により, 知識の定着と理解の促進を図るとともに, 思考力を高める。



中学 3年 理科

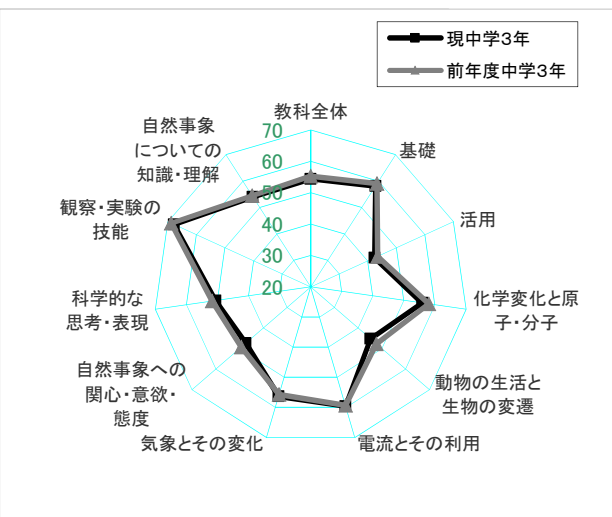
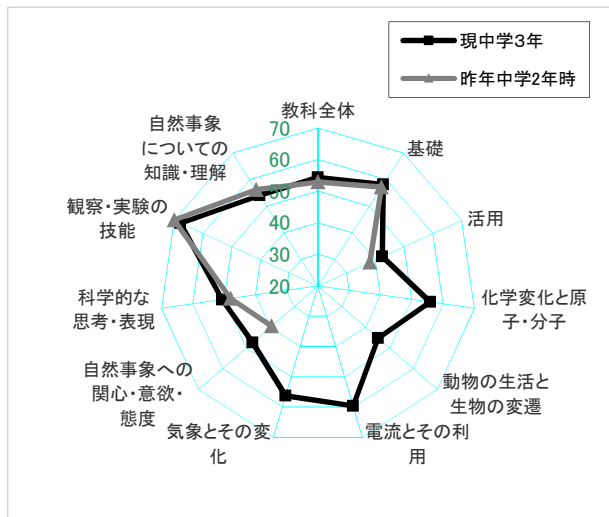
1. 全体傾向



コメント

- ・学習の到達度は、全国平均とほぼ同程度か若干上回っている。
- ・観点別正答率は、4観点とも全国平均を若干上回っている。
- ・「観察・実験の技能」については、身につけている生徒が多い。
- ・「電流とその利用」「気象とその変化」の領域の学習は良好である。
- ・「化学変化と原子・分子」「動物の生活と生物の変遷」の領域の学習には課題がある。

2. 経年変化



コメント

- ・中学1年時の学習の到達度は、全国平均とほぼ同等か若干下回るものであったが、中学2年時の学習は全国平均とほぼ同程度か若干上回るまで向上している。特に、低下していた「自然現象への関心・意欲・態度」が向上している。

コメント

- ・学習の到達度は、各項目が全国平均とほぼ同程度か若干上回る状況で、昨年度とほぼ同様の結果である。

3. 強みと弱み

<強み>

- ・学習の到達度が中学1年時と比較して向上している。
- ・「電流とその利用」「気象とその変化」の学習は概ね良好である。
- ・「観察・実験の技能」が身につけている生徒が多い。

<弱み>

- ・「化学変化と原子・分子」「動物の生活と生物の変遷」の領域は課題がある。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

○誤答が多い問題

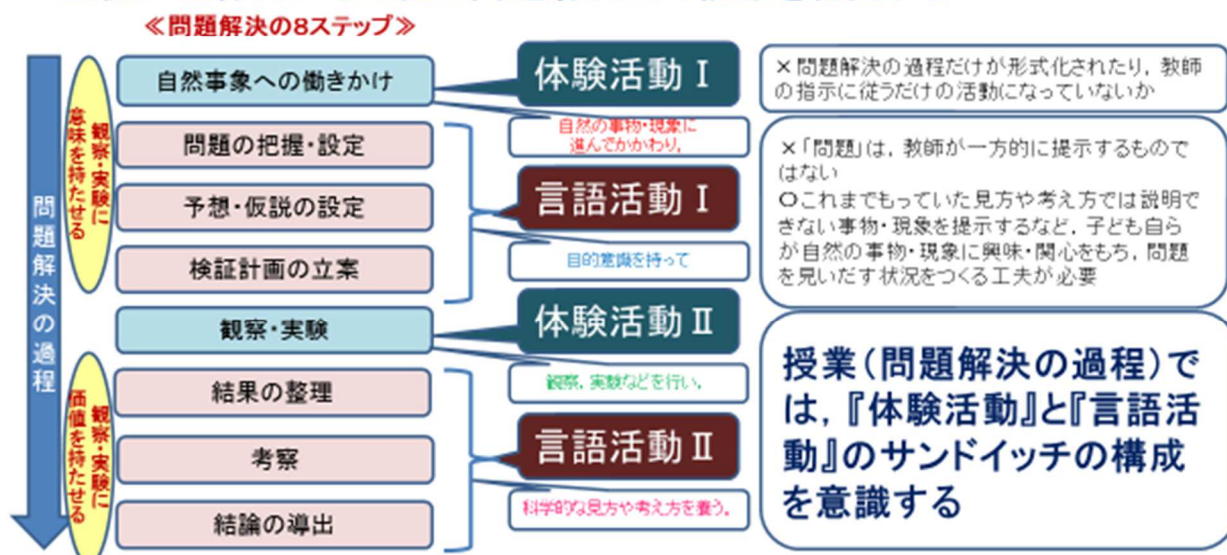
- ・「化学反応式」(知) $2\text{H}_2\text{O} \rightarrow 2\text{H}_2 + \text{O}_2$
- ・「酸化銅と炭素の粉末を加熱してできた物質」(知)銅
- ・「ガスバーナーの火を消す手順」(技)
 - ①ガラス管を抜く ②火を消す ③ピンチコックで閉じる
- ・「血液と細胞の間で物質の受け渡しをする液」(知21.7%)組織液
- ・「柔毛のつくりの利点を説明」(思・表)表面積が大きくなる
- ・「セキツイ動物と無セキツイ動物のからだの特徴を比較」(思・知15.9%)
 - 筋肉を使ってからだを動かす 胃などの内臓がある 内部に骨格がある
- ・「家庭内の配線が並列になっている理由」(思・表15.3%)
 - どの電気器具にも同じ電圧がかかる,
 - 1つの電気器具が切れても他の電気器具が切れない

○授業改善の方向①

- ・中2の時の調査と中3の時の調査で、下位群の生徒数がほぼ同程度である。
⇒下位群の生徒の理解を高めるための指導の工夫が必要である。また、用語や原理・法則を使用して書く・話す場を設定し、知識の定着と理解の促進を図る。
- ・思考力や表現力を必要とする問題は苦手である。「家庭内の配線が並列になっている理由」を問う設問は、2年連続して極めて正答率が低い。
⇒理科の学習と日常生活を関連付けた教材や学習内容の工夫が必要である。また、思考力や表現力を高めるために、予想や考察などの思考する場面を大切に、予想や考察を文章として記述する活動、グループや学級で考えを交流する活動を重視した指導が必要である。
- ・「ガスバーナーの火を消す手順」の正答率が低い。
⇒実験・観察において、基本的な器具の扱いを繰り返し指導することと、実験・観察を少人数で行い、一人一人が操作できる機会を設ける。

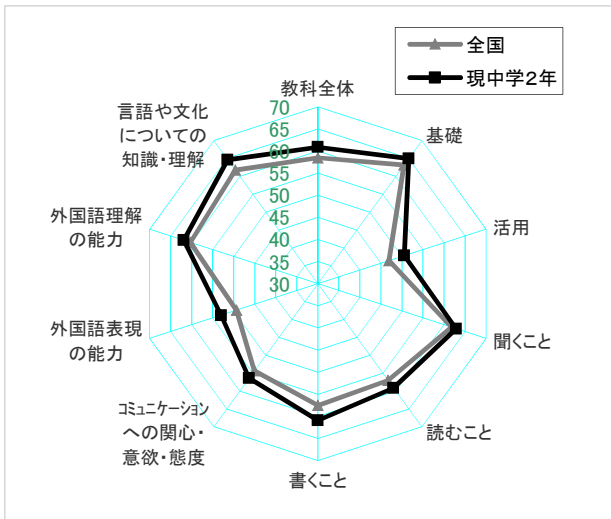
○授業改善の方向②

- ・生徒が主体的に取り組む問題解決型の授業を展開する



中学 2年 英語

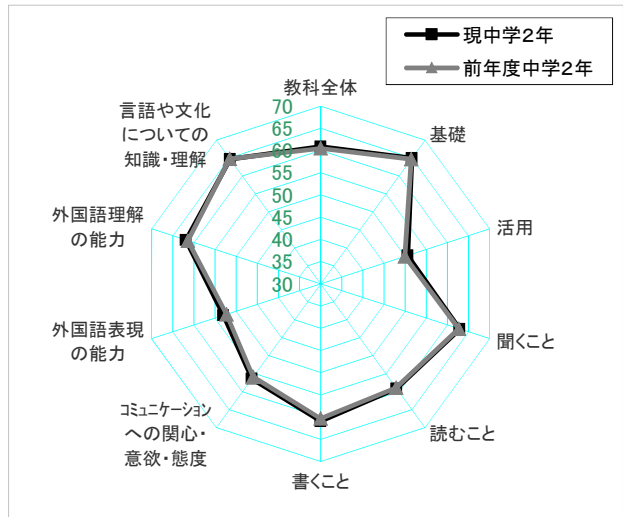
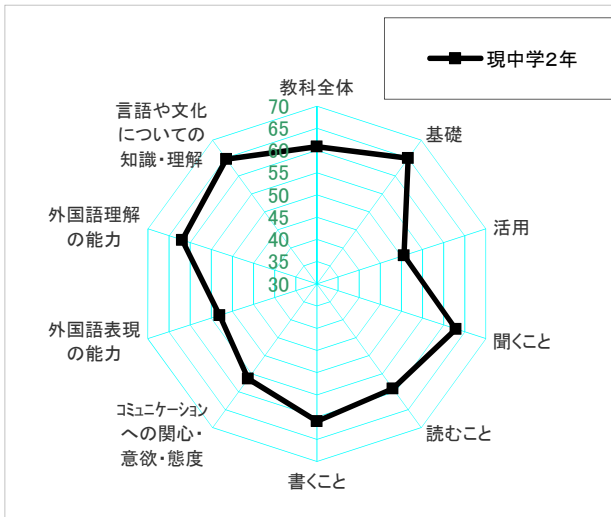
1. 全体傾向



コメント

・柏市の正答率は、すべての領域・観点において全国の正答率を上回っている(1.1～3.7ポイント)。しかし、問題の内容別で比較すると、「リスニング内容理解」と「英作文」において全国の正答率をわずかに下回っている。
 ・柏市の強みと弱みの傾向は、全国と似ており、「活用」と「外国語表現の能力」が他のものと比べ弱いことがわかる。
 ・正答率が低い問題を見てみると、「場面に応じて書く英作文」では35.9%である。

2. 経年変化



コメント

コメント

・今年度と昨年度の正答率の傾向はほぼ同じである。
 ・例年の傾向として見られるのは、「活用」が他と比べて明らかに低いことである。「外国語表現の能力」を伸ばす活動を見直して、「活用」の正答率を上げることにつなげていきたい。

3. 強みと弱み

正答率の高かった学校と、そうでなかった学校における「強み」と「弱み」をあげると次のようである。
 〈正答率が高かった学校〉:「書くこと」や「言語や文化についての知識理解」が特に優れている。表現の能力を伸ばすためには、優れている能力を活用する活動を工夫していくことが必要である。

〈正答率が低かった学校〉:「外国語表現の能力」が特に劣っていることが読み取れる。これは「活用」する力であるので、「基礎」の力が定着していないことが原因と考えられる。「基礎」の力を弱みとして捉えて「言語や文化についての知識・理解」を、「読むこと」や「書くこと」の活動とともに確実に身に付けさせることが必要である。

4. 授業改善の方向, 効果的指導例

中学2年生の時期は、小学校での外国語活動を経て、中学校で1年間の英語を学習していく中で学習意欲が低下していく生徒が多くなる時期でもある。これは、音声言語(聞く, 話す)の学習から、文字言語(読む, 書く)の学習が増え、学習内容も難しくなるからであると考えられる。

このようなことから、今回の調査の結果から「聞くこと」の正答率が他の技能よりも高かったこと、生徒の多くは4技能の活動のうち比較的「聞くこと」に対する興味が高いことを踏まえ、「聞くこと」の活動を主とした学習法を取り入れることにより学習意欲を高めることをねらいたい。

〈「聞くこと」の方式〉

「聞くこと」の方式として、次の二つを使い分けながら行うものとする。

○トップダウン: 英語を聞いて、内容を大まかに理解する。次第に細かな内容を把握していく。

○ボトムアップ: 音声を聞き分けて、一つでも多くの単語を認識していくことから始め、内容を理解していく。

〈3つの活動に分けた指導〉

○第1段階の活動

- ・聞く前に、内容にかかわる事前情報を知らせ、内容を想像させる。
- ・聞こえた単語、繰り返して聞こえた表現を拾う。
- ・内容を推測しながら、話されていることの全体像を大まかに理解する(絵を順に並べ替えるなどでもよい)。

○第2段階の活動

- ・内容把握に関する課題(空欄うめのワークシート等)課題を与えながら、内容を正確に、詳細に理解させる。
- ・連語や文法について解説をする。

○第3段階の活動

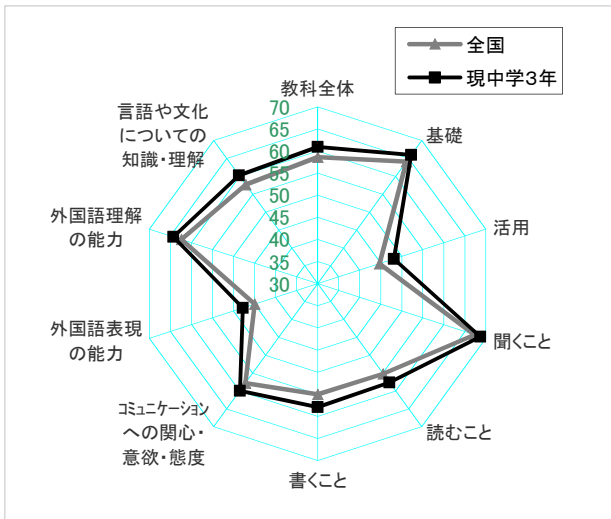
- ・話者の意図に関する課題(なぜ〇〇は□□と言ったのだろうか?等)を与え、話者の意図を理解させる。

〈配慮する点〉

- ・どのように聞けば内容を把握できるかなどの、聞き方のポイントを指導する。
- ・生徒の実態に合わせて、課題やワークシートの内容を考える。
- ・興味を持てる教材を使用する。この活動に合う教材(題材)かどうか判断する。
- ・できれば、音声の再生スピードが調節できるとよい。
- ・写真や絵など、生徒の興味を引くもの活用し、内容理解に役立たせる。
- ・スモールステップからラージステップへ(単語の綴りがわからない時はカタカナ表記も可とする等)。
- ・各段階の活動において、生徒の意見を共有していく。
- ・耳から聞いた言葉を実際に使う場面を作っていく。
- ・振り返り(自己評価)カード等を活用し、生徒の理解度や指導の改善点について把握する。

中学 3年 英語

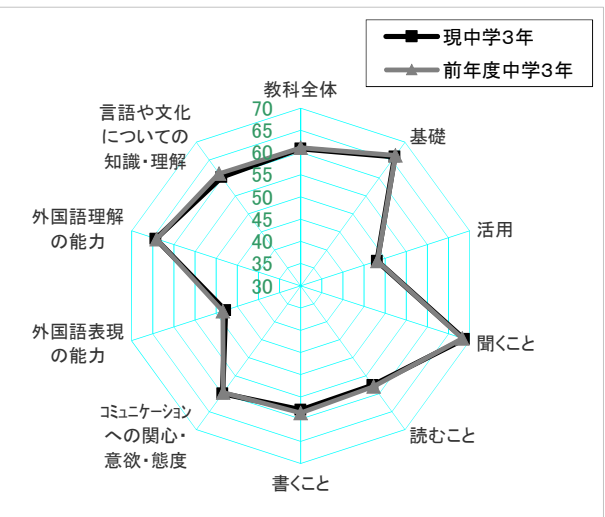
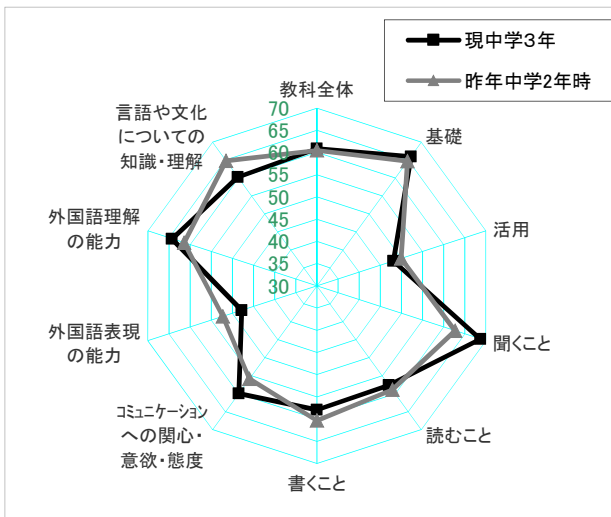
1. 全体傾向



コメント

- ・柏市の正答率は、どの領域・観点においても全国の正答率を上回っている(1.4ポイント~3.4ポイント)。
- ・柏市の「強み」と「弱み」の傾向は、全国と同じで「活用」と「外国語表現の能力」が他のものと比べて弱いことがわかる。
- ・正答率の低い問題は、英語の質問に対し英語で答える問題、英語でどのように表現するのかを問われ、英語で書いて答える問題である。

2. 経年変化



コメント

- ・2年次と比べて「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」や「外国語理解の能力」が高くなっているにもかかわらず、「言語や文化についての知識・理解」が下がっていることがわかる。
- ・基本の語形や語法、文型の知識理解の力が下がっている生徒が多くなったことがわかる。

コメント

- ・昨年度の傾向とほぼ同様であることがわかる。
- ・「活用」と「外国語表現の能力」が弱いという傾向が続いてしまっている。

3. 強みと弱み

- 全体の傾向から、次にあげる内容の問題は正答率がよく、「強み」と言える。
 - ・リスニングの問題のうち、絵の内容と合う英文(比較級)を選ぶ問題や、内容についての質問の答えを選ぶ問題。
 - ・正しい語形を選ぶ問題のうち、比較級の文(-er than)。
 - ・対話文の内容について問う問題のうち、適切な答えを選択する。
- 全体の傾向から、次にあげる内容の問題は正答率が悪く、「弱み」と言える。
 - ・英語の質問に対し、英語で答える(対話の内容を聞き取り答える、まとまりのある英文の内容を読みとり指定された語数で答える。
 - ・正しい語形を選ぶ問題のうち、動名詞の文(enjoy-ing)。
 - ・場面に応じた表現を英語で書く(天気をたずねる、相手に依頼をする)。

4. 授業改善の方向、効果的指導例

中学3年生の調査結果から、中学校2年間の学習を経た現時点においては「強み」と「弱み」の傾向がはっきりしてくる。これは授業の中でも、生徒の活動状況からもわかることであろう。「強み」を生かしながら「弱み」を克服結果にもつなげていくには、学習指導要領にもある3年間を見通した指導が必要となるが、ここでは全国との比較から正答率が高いケースと低いケースとに区別して、「活用」と「外国語表現の能力」、「基礎」と「言語や文化についての知識・理解」の育成に注目しながら今後の授業改善について考えていく。

〈正答率が高いケース〉

○結果から見える傾向

- ・全国の傾向として見られる「活用」と「外国語表現の能力」の弱みがさほど見られない。
- ・「書くこと」と「言語や文化についての知識・理解」が特に優れた結果となっている。

○指導の方針

・「活用」と「外国語表現の能力」を育成することを意識し、自分なりの意見を持たせられる課題を与えることや相互作用(やりとり)がある場面設定をする。

○指導内容の例

〈フリートーク〉

- ・トピック(話題)は身近なことで、伝えたい、知りたい内容を持っているものを与える。
- ・発話を英語で行う。(教員が、失敗を恐れず英語を話すモデルとなる)
- ・2分間会話を続ける、アイコンタクトをする、2文以上で詳しく答えるなど、目標を設定する。
- ・しゃべって終わりとしせず、話したことの書き起こしをし、「書く」活動ともつなげる。

〈正答率が低いケース〉

○結果から見える傾向

- ・「活用」と「外国語表現の能力」が極端にへこんでいる。
- ・「言語や文化についての知識・理解」と「書くこと」が他と比べて弱みとなって表れている。

○指導の方針

・基礎知識を確実に身につけさせるよう、「言語や文化についての知識・理解」の力を育成することを意識し、丁寧な指導と興味をもって取り組ませる工夫をする。

○指導内容の例

〈音読練習〉

・インプットの「量」、「回数」を増やすために、リーディングを工夫する(回数記録シートの活用、様々な種類のみ方をさせて意欲的に取り組ませる。)

〈パターンプラクティス〉

・教科書の本文や、新出構文を利用して、主語、動詞、時制などの入れ替えをして様々な種類の表現に触れる。

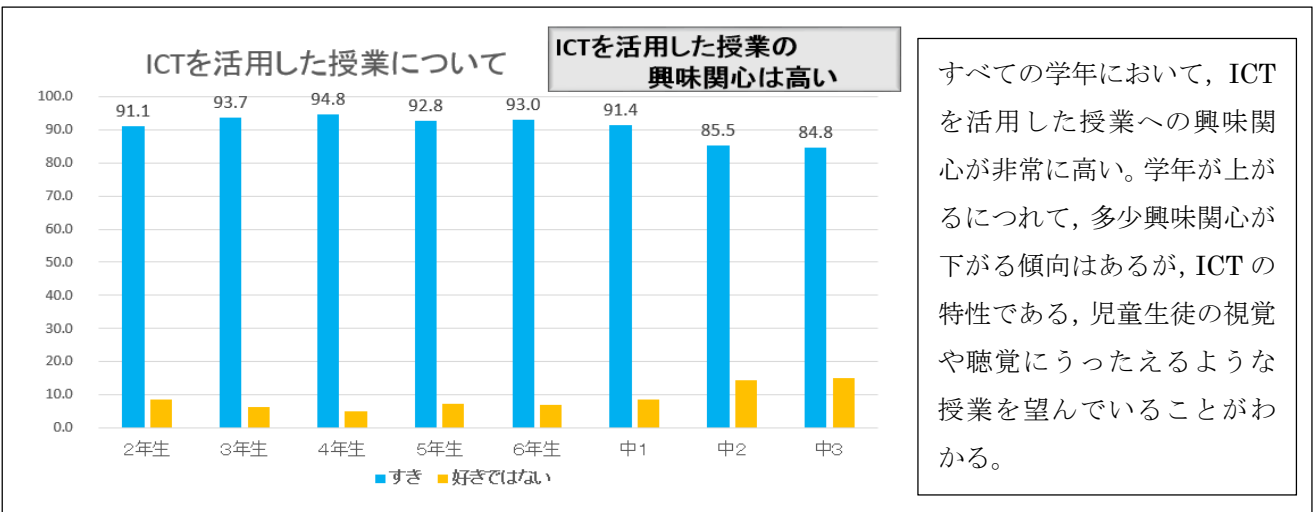
・否定文や疑問文への書き換えをさせながら、文の構造について理解させる。また、言わせるだけに止まらず視覚的に提示して理解させる。

〈ワンモアセンテンス〉

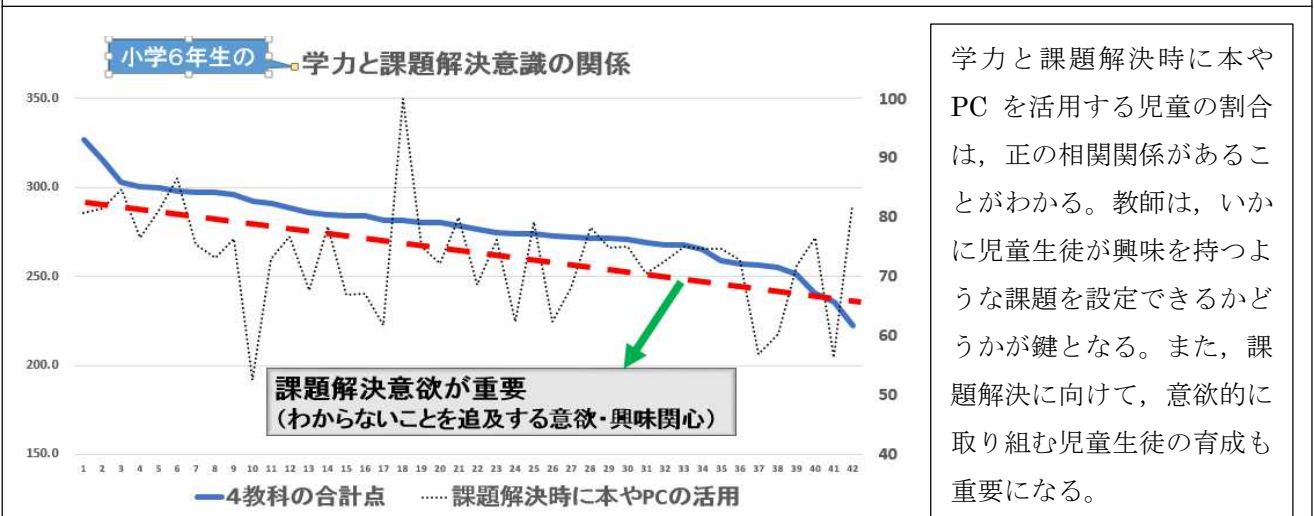
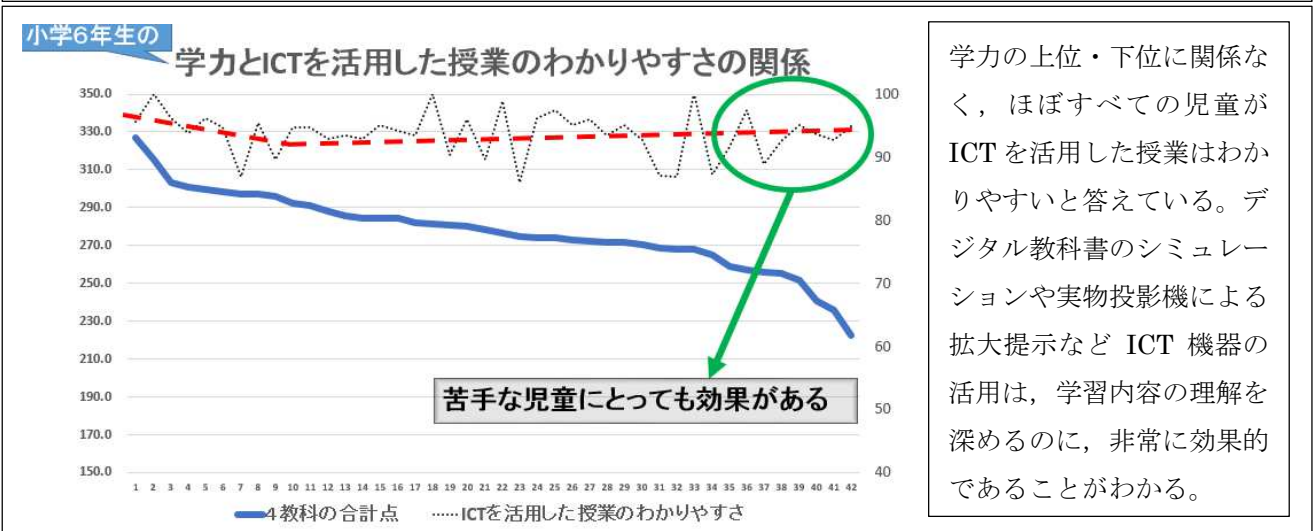
・教科書の本文などを利用して、次につながるであろう文を考える機会を与える。また、質問に2文以上で答えるようにさせる(and, but, so, because の使い方)。

いずれの活動(練習)も、何を身につけさせるかという目標を持ち、学習指導要領にもあるように、「文法については、コミュニケーションを支えるものである」ことを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導していきたい。

ICT 活用に関する意識と課題



小学校6年生の学力の結果（42校）とICTの利活用について



児童生徒は、ICTを活用する授業を望んでいる。教師は、ICTを活用し、児童生徒の学習意欲を喚起するとともに、写真や動画などを活用したり、児童生徒のノートなどを拡大提示したりすることでわかりやすい授業を展開していく必要がある。

柏市教育委員会では、ICTの効果的な活用に向けて、様々なコンテンツを用意しています。小学校のデジタル教科書（算数・社会）だけでなく、柏市教育委員会が制作している社会科副読本のデジタル版も配信しています。動画や画像が豊富に入って、書き込み機能もあります。また、ITアドバイザーOnLineの学習メニューの中には、フラッシュ型教材をはじめ、様々な授業で活用できるコンテンツがあります。是非、授業での積極的な活用をお願いします。



デジタル教科書算数（小学1～6年）



デジタル教科書社会（小学5・6年）



社会科副読本デジタル版（小学3・4年）



社会科副読本デジタル版（地歴編・公民編）



学習メニュー（中学校用・小学校用・特別支援学級用）



フラッシュ型教材



家庭学習用 IT アドバイザーOnLine

学校図書館の活用で、「学ぶ意欲」と「学ぶ習慣」を！

その1

「読書会」で、思いを伝え合おう！

本が好きになります。友だちと認め合えるようになります。話し合う楽しさがわかります。

1 読書会の進め方

(1) 準備

- ・学級全員が同じ本を持ち、各自で読んでおく。
- ・先生か学校図書館指導員が、「聞かせ読み」をおこなう。
- ・簡単に感想を書く。

「読み聞かせ」と「聞かせ読み」は違います。ここでは、「聞かせ読み」(先生が読み、子どもは本を持ち目で追いつながら聞く)が良いでしょう。

読書会の約束

- 1 一人一度は必ず発言する
- 2 発言を否定しない

(2) 読書会

感想をもとに司会者(先生)がテーマを決め、グループで友達と交流する。

- 例) ・低学年(1～3年) 心に残ったところはどこかな? なぜそう思うのかな?
- ・高学年(4～6年) (感想が分かれたところについて) あなたはどう思うかな?
- ・中学生 この話は何を伝えようとしているのかな? あなたは何を受け取ったかな?

(3) 事後 関連する本を読む。

2 読書会の本 柏市には、40冊そろっている読書会用の本があります。

対象	書名	出版社名	冊数	セット数
小 低～	わたしのいもうと	偕成社	40	
小 低	ジオジオのかんむり	福音館書店	40	2
小 低	はじめてのおつかい	福音館書店	40	3
小 低	ペンギンのひな	福音館書店	40	2
小 低	かわいそうなぞう	金の星社	40	
小 中	シートン動物記I(オオカミ王ロボ)	集英社	40	3
小 中	火よう日のごちそうはヒキガエル	評論社	40	2
小 中	しっぱいにかんぱい	童心社	40	
小 中	アナグマのもちよりパーティ	評論社	40	

対象	書名	出版社名	冊数	セット数
小 中	あらしのよるに	講談社	40	
小 高	ぼくのお姉さん(歯型)	偕成社	40	2
小 高	じっぼ	あかね書房	40	
小 高	よだかの星	全国SLA	40	
小 高～	杜子春	講談社	40	
小 高～	杜子春・くもの糸	偕成社	40	
中学	賢者の贈り物	講談社	40	
中学	最後の一葉	全国SLA	40	

☆ これらの本を使いたいときは、司書教諭・学校図書館指導員に相談してください。

その2

「ビブリオバトル」で、本を紹介し合おう！

本を通して人を知る。人を通して本を知る。ゲーム感覚で友達と交流する「知的書評合戦」です。

ビブリオバトルの進め方

(1) 準備

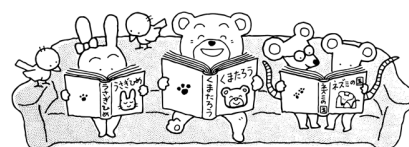
- ・自分で読んで面白いと思った本を決める。
- ・5分で、その本の魅力を紹介できるよう、練習しておく。

(2) ビブリオバトル

- ・4～5名のグループを作る。じゃんけんで発表の順番を決める。
- ・投票用紙(メモ)を配る。
- ・順番に、5分ずつ本を紹介する。(ライブ感覚が大切！ メモは見ない)
- ・それぞれの発表の後に、その発表について2～3分のディスカッションをする。
- ・すべての発表が終わったら、「一番読みたくなった本」を投票しあう。
- ・「チャンプ本」決定！

(3) 事後 「チャンプ本」を読む。

ビブリオバトル
公立図書館でもおこなっています。
今、大人にも人気があるイベントです。



★ **読書会・ビブリオバトルの取り入れ方**

学習單元の中に位置づけて行う

目標を達成させるための手立てとして指導計画に読書会・ビブリオバトルを位置付けて行いましょう。

国語科はもちろんですが、他教科での位置付けも考えてみましょう。

本に限らず、新聞記事・雑誌のコラム・パンフレットなどが教材になるかもしれません。

学級活動等に位置づけて行う

学級経営に役立てるよう、読書会・ビブリオバトルを年間計画に位置付けて行いましょう。

学期ごとに、どんな力をつけるための行うのかを意識しましょう。

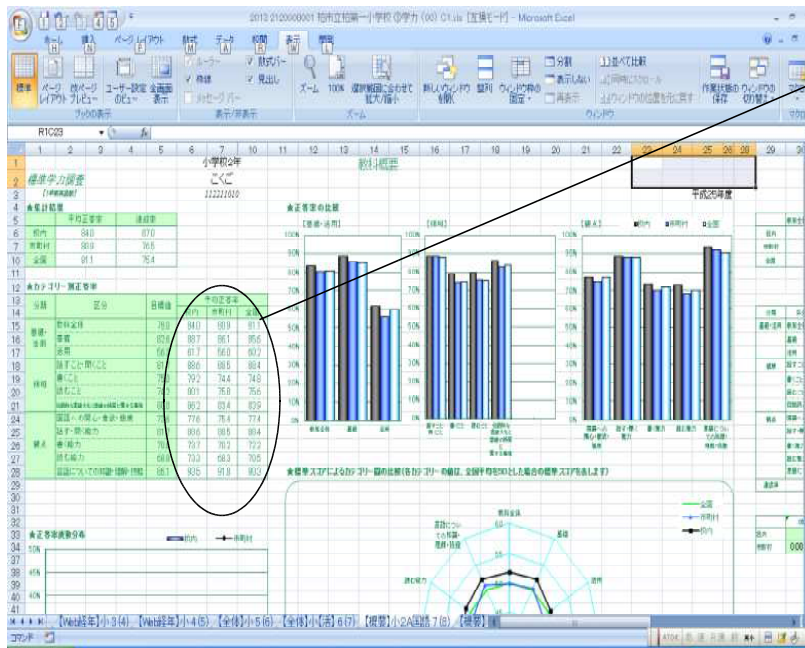
この読書会・ビブリオバトルで培われた学級風土を、授業改善に役立てましょう。

レーダーチャート分析シートの利用方法

このシートは、当該学年の結果を柏市全体・1年前の結果・昨年度の学年の結果、と簡単に比較できるように作成したものです。

- シートは学年ごと、教科ごとに用意してあります。
- 各学年の柏市平均正答率は既に入力済みです。
- シート上の指示に従って以下のように数値を入力してください。
- 入力するためのデータは、次のファイル名のファイルを開いて、各教科ごとに下画面のシートから転記してください。

ファイル名=***** 柏市立学校名①学力(00)C1.xls



ここのデータを転記する。

昨年度のデータについても、H24年度フォルダー内の同名ファイルより転記する。

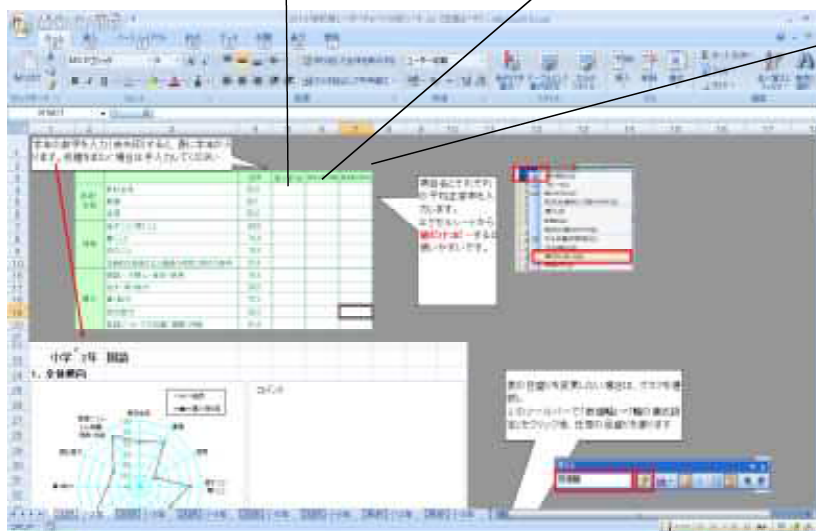
コピーする際に、4行ずつコピー貼り付けをしてください。

エクセルシートに非表示の行があるので、「基礎活用 領域 観点」と分けてコピーしてください。

今年の平均正答率を転記

昨年（1年前の当該学年）の平均正答率を転記

昨年度同学年の平均正答率を転記



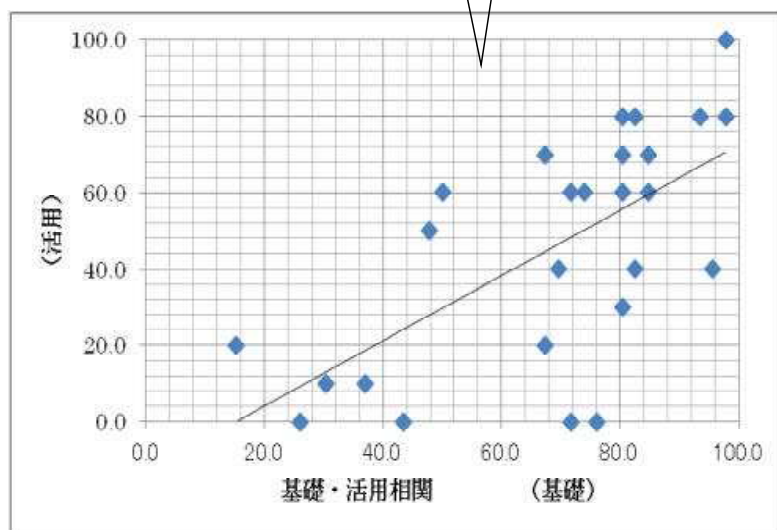
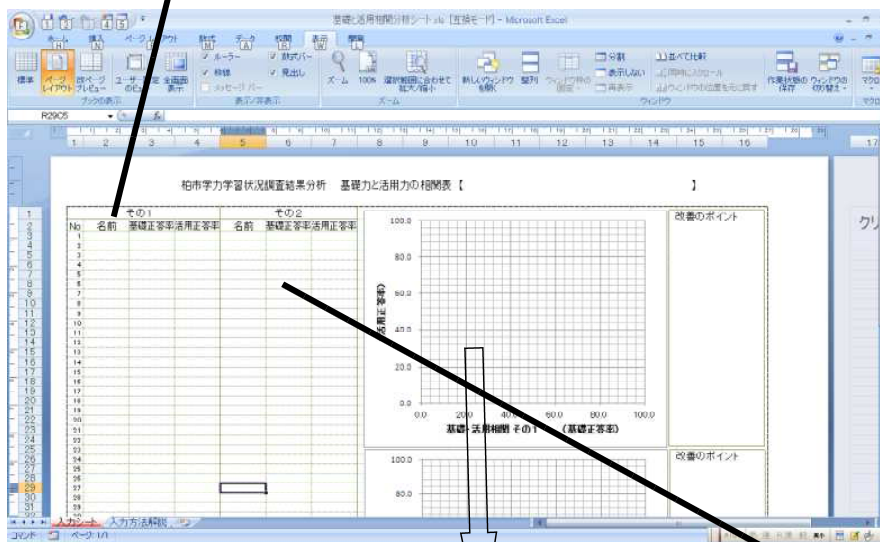
上記操作により、柏市との比較、去年の自分たちの結果と比較、去年の学年との比較ができます。学年の特徴を把握して、指導に生かしてください。

基礎と活用相関分析シートの利用方法

各学級ごとに、基礎的な力と活用の力について、一人一人の子どもたちの分布状況を明らかにし、学級の特徴や一人一人の子どもたちの状況を可視化するものです。

- 「****柏市立学校名第*学年①学力(**).xls」のファイルから、各学級ごとの、基礎と活用の平均正答率を転記（コピーペースト）して活用してください。
- 「入力方法解説」のシートに説明がありますので、参照してください。
- 入力シートはシートのコピー等で増やして活用してください。
- 東京書籍から提供されているデータは、列や行を隠してあるところがあります。面倒でも、一列ずつコピー貼り付けをお願いします。貼り付ける際に、値のみ貼り付けを選択していただくと最適です。
- その1とその2は便宜的につけたものです。国語と算数・去年と今年、など読み替えて利用してください。

子どもの名前を転記した際には、扱いに十分留意してください。



基礎正答率と活用正答率を入力（転記）すると、自動的に左記のようなグラフが作成されます。

学級全体の状況が把握できる同時に、一人一人の子どもたちの状況を把握できます。

分布状況を生かした、適切な改善策を各担当の先生で考えることができます。

平成 27 年度

柏市学力・学習状況調査結果報告書

「学ぶ意欲と学ぶ習慣を育む」

編集 柏市教育委員会学校教育部指導課

柏市立教育研究所

発行 柏市教育委員会

2015 年 8 月